

疾走の馬、青嶺の魂となり

乾いた重水

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

異世へと巡り、漆黒は復た駆け出す。

競走馬ライスシャワー号がそのままウマ娘ライスシャワーになつたお話です。

目 次

1.	第3コーナーのその先で	1
2.	好奇心は猫を……?	8
3.	やつとこき入学	13
4.	何だお前!?	20
5.	どこ行くねーん	30
6.	夏合宿前の掌編集	39
7.	トレーニングの様子は全カットで	47
8.	マツクイーンとティオーのレース	55
9.	運命は	60
10.	ユメヲカケル	68
11.	三冠は成るか	75
12.	記者会見でバラすな	84
13.	デビュー戦	94
14.	季節は巡り	102
15.	菊花賞にむけて	114
16.	誰が為の菊花賞	118
17.	決意	131
18.	裏側、敗者、情報、追加	140
19.	日常回(?)	168
20.	鎌の先は	178
21.	有馬の前後で	202
22.	奇妙な同室	216
23.	2月と言えば	225
24.	同室ちゃん	239

25. 新年度

26. 春天

27. 裂

28. 安否

29. バカ騒ぎ

30. 身体

31. (多分) ギヤグ回

32. 襲来

33. オールカマー

34. 掌編その2

35. ジャパンカップ

36. 有馬

37. 上のお方

38. 皐月賞

39. 灰被りの脳

40. 反響

41. 日本ダービー

42. 爪痕

43. 反ミーム?

44. 認識

45. 青いエンジン

46. Fin.

Fin. L

460 453 446 440 432 425 418 402 390 382 363 345 334 328 318 312 301 291 285 277 264 251 242 236 231
47 最後の春天

1. 第3コーナーのその先で

前スペース用

「おつと一頭落馬！ 一頭落馬！ これは何が落馬したんでしょうか！？」

ライスシャワー落馬！ ライスシャワー落馬であります！

大波乱！ 大波乱！ 第3コーナーの下りでの、あの天皇賞では先行でわたったライスシャワーが落馬しています！

第3コーナーで大アクシデント！ 第3コーナーで大アクシデント！」

……妙に明るいな。

ここはどこだ？

京都競馬場？ いやいや、私はあそこで死んだのだ。そこにいるはずがない。

じゃあ一体……？

周囲を調べようと、妙に見えづらい目で周囲を見ようとして――

「――!?」

待て待て。

何で私は仰向けに寝転がることが出来ているのだ!? 何でその姿勢で安定しているのだ!?

しかも困ったことに、体が思つたように動かない。

兎にも角にもどうにか立ち上がらねば。

前脚と後脚をこう上手いこと動かしてだな——

「——!?!?」

脚が——白い。

何より脚の先が5本に分かれている。

待つてくれ本当に理解できない何があつたの誰か教えて助けてえ

……

「ひつぐ……」

待つて何今のはっきりどうやつて出したの私!?

お、OK、一旦落ち着け私。

状況把握だ、状況把握をするんだ私。

どうにかこうにか首を動かして自分の体を見る。

白い体。

妙に丸っこい四肢。

5本に枝分かれした脚先。

何よりそのヒトデ型の体型は——

人間だ——!?

「ああああああ——!?!?」

すぐにデカい人間がカツ飛んできた。

いやあしかし、死んだと思つたら人間の仔になつていたとは。実に奇妙なこともあるものだ。

さて、私の前にいるこの人間。
関わつてきた人間が雄ばかりだつたから自信がないが、おそらくこの人間は雌。

普通に考えて私の母親に当たる存在であろう。
これからよろしくお願ひします。

しかし、妙に気になる点が一つ。

人間の耳つてそんな形だつたつけ。

なんか葉っぱを丸めたみたいな変な形だつたと思うのだが、目の前の人間のそれは馬のそれと酷似している。

人間の雌は馬のような耳になるのだつたか？　いやでも前世の記憶だつたら雌雄共に変な形だつたしなあ……

などと考えているうちに、人間が後ろを向いた。

その尻には立派な尻尾が生えていた。

——ちよつと待て流石に人間に尻尾が生えてないことぐらいは覚えてるぞ！

待つて？ 本当にこいつ人間？ 実は馬だつたりしない？
いや絶対馬じやねえわなんの君馬と人を混ぜたみたいな存在なの？

疑問が頭の中を濁流のように過ぎ去った後、ふと思い立つたことがある。

まさかと思ったが、恐る恐る手を頭の横まで上げてみる。

何もない。

のまま頭頂部へと――

あつたわ耳。

に、ほぼほぼ確信しながら尻のあたりまで手を動かして――

あつたわ尻尾。

んということだ。私も馬人だつたのか。

あの衝撃の時から暫く経ち。

とりあえずなんとか立ち上がり数歩歩けるようになり、不明瞭ながらも言葉を発せるようになつた頃。

——いやしかし人間の成長って本当に遅いな。立ち上がるどころか這いずつて移動できるようになるまでもかなりの日数を要したぞ。よくここまで繁栄できたな。

断片ではあるがこの世界について学ぶことができた。

まず、私や母親のような人間は「ウマ娘」と呼ばれる種らしい。名前の通り、馬と人が混ざったような存在のようだ。

馬のごとき速さと力。人のごとき知能と器用さ。

なんと素晴らしい存在ではないか。

なお、ウマ娘になつたということは男から女になつたということである。

この時点で前世も今世も童貞が確定した。なんで。

そして、これは動物図鑑を読んで（字はまだ読めないので絵を見ていた）気づいたのだが——

この世界に馬は存在しない。

どこのタイミングで馬と人が混ざったのか、はたまた最初からウマ娘として存在したのか。

それについては分からぬが、ともかく馬及びその近縁種は存在しないらしい。

では競馬は存在しないのかというと——

これはいつだつたか、両親とテレビ（人間が作つたなんかすごい箱）を見ていた時。

画面に複数のウマ娘が映り、台の上に立つた後、芝の上を走つてい
た。

どこか見覚えのあるような景色だつたのだが――

その後のファンファーレの音で一気に理解した。

間違いない！ G1ファンファーレだ！ ならばこれは競馬か！？

テレビから聞こえる「東京優駿」の単語。

画面に映る東京競馬場の景色。

ああ間違いない、これは日本ダービーだ！

ゲートに続々とウマ娘たちが入つていき、全員入つた時――

その後は一瞬だつた。

テレビから聞こえる歓声。抑えられない興奮。記憶の底から蘇る
数々のレース。

――ああ、私もまたあの場所で走りたい。

母親は、日を輝かせる私を見て「やつぱりこの子もウマ娘なのねえ」と呟いていた。

あの日のことは忘れられない。

その後思い返して色々と考えていたのだが――
出走していたウマ娘は齢14～17と思われる。

身体が完成するのがその辺りなのであれば、私があの場所に立るのは当分先。

それこそ私の前世の寿命を二倍しても足りない時間だ。

ならば、今は人間らしく知能を鍛えるべきだろう。

人間の脳みそというのは本当に素晴らしい、馬時代よりも遥かに物覚えがいい。

せっかく人間として二度目の命と高度な頭脳を得たのだ。色々な知識を追い求め続けようじゃないか。

きっと、人としても生まれたことに意味があるのであれば、知識を得ることがあの先へ進むための条件であるのならば。

私が、こちらの世界でも「ライスシャワー」という名を得たのであれば。

私が、世界が、そう望むので有れば。

競走馬「ライスシャワー号」は――

――人間としても、馬としてでもなく――

――ウマ娘「ライスシャワー」として、再びターフを駆けよう。

下スペース用

2. 好奇心は猫を……？

前スペース

すごい。人間の脳みそすごい。

いやもう信じられないぐらい頭に情報が入ってくるし素早く理解もできる。

馬時代とは比べ物にならない思考速度。

なるほど、これが成長が遅くとも地上の王足る所以か。
実際に素晴らしいものを手に入れたぞ。

などと貪欲に知識を漁つて数年が経ち。

周りの人間からやれ天才児だの神童だと揶揄われるようになつてしまつた。

例え馬であつても前世という人格（この場合馬格か？）形成を既に経ているのだ。何も知らなければそりやあ賢い子供に見えるだろう。

あと知識を求めすぎたせいもあるかも知れない。

だつて…………どんどん覚えるの楽しいんだもん……

そうやつて覚えてたらめっちゃ褒めてくれるから余計に勉強しそうつてなるんだもん……

私は悪くない。断じて。

私を生まれ直させたこの世界が悪いのだ。ありがとう世界。

両親も舞い上がったのか数学やらピアノやら英語やら色々と教えてくれた。めっちゃ楽しかつたです。

母親は特にレースについてよく語ってくれた。

ウマ娘というのは馬よりも走りたいという欲求が強いのだろう。自分の娘が非常に賢かつたら私だって競馬のコツやらなんやかんや教えていた筈だ。

さて、レース関連の話を聞いたところ、どうやらレースに出るにはトレーニングセンター「学園」に行かねばならぬらしい。

まだ学校に行つたことがないのでどういう場所なのかよく分からぬが、おそらく栗東トレセンとか美浦トレセンとかがウマ娘用に変質した場所だろう。

と思つたがどうも違うらしい。

中央競馬に当たる中央トレセンは一つのみ存在し、栗東や美浦は寮に変わつてゐるようだ。

栗東と美浦はかなり離れていたと思うのだが、何故かどちらも中央トレセンの近くにあるのだ。

その栗東やら美浦やらは地名ではないのならば一体なんなんだ、と言いたくなつたが黙つておくことにした。

その中央トレセンだが、存在するのが中等部及び高等部（英名ではJapan Umamusume Training School sand "College" であるため大学部も存在するようだが……?）、つまり小学校を卒業してからの入学となる。

なんと生まれてから入るまで12年もかかるのだ。馬ならとつくに種牡馬入りして、なおかつその産駒が走つてゐる頃だ。いやほんつつと成長遅いな。

それまでの馴致はどうするのかといえば、専用のクラブスクールに通うなり自分自身で鍛えるなどする必要がある。

ちなみに、ウマ娘に騎手を乗せる訳には行かないの、当然レース運びは自分の頭で考える必要がある。

レースの最後の方となると頭が上手く回らなくなるため、馬時代と比べて位置取りやスパートのタイミングがかなり難しくなっている。これを子供の脳みそに処理させるのはなかなかに酷なことだと思うのだが、これは馴致で頑張つて鍛えるしかない。

では今の内から筋肉を鍛えまくればいいではないかと思ったのだが、幼少期に鍛えすぎると筋肉によつて成長阻害が起きるらしい。

つまり今出来るのは基礎的な身体作り、知識収集、低酸素状態での思考回路強化ぐらいである。

まあ知識収集全ツッパなのだが。まだ小学校にすら入つていないので肉体を鍛える必要はないだろう。

というわけで勉強頑張るぞー！

あと言い忘れていたのだが、この世界ではレースの後で何故か踊るらしい。

本当になんで……？

しばらく経つたあと、親がPCをくれた。

樂　し　い

いやあインターネットでの情報収集やらゲームやらが楽しすぎる。人間め、私がせつせと走っている間にこんなに楽しいことをやつていたのか。羨ましいぞ。

ちなみにしつつかりとネットリテラシーも身につけたので問題は無い。何も面白そだからとホイホイ突っ込んでいくほど弱つちい精神は持つていない。

ちゃんと情報の真偽も複数のソースから確認している。

どこかのサイトで見かけたヤバい人間とは違うのだ。

とりあえずこちらの世界のレース映像を片つ端から見てレース勘を保ち続けている。

馬時代は走るだけだが、他者の目線からレースを見るというのは新鮮で、やはり興奮するものだ。

それとウイニングライブ。

初めはなんとする必要があるんだと思っていたが、見てみるとこれはこれでいいものじやあないか。

センターに立てるのが勝ったウマ娘だけというのも競争心を煽るようによくできている。

ライブ映像にもどつぶり浸かってしまった。

この世界でも、レースに勝つと賞金が貰える。

ウマ娘は娯楽や醉狂だけで走っているわけではないので当然である。

せっかくなので試しに前世の総賞金と比較してみようかとURA（前世のJRAに当たる組織らしい）のサイトから計算してみた所――

「――8おく8885まんえん……？」

なんか前世よりもかなり増えてね？
しかも出走手当抜きでこの金額。

前世は確か7億2949万7200円だったから、さらに+1億5000万強増えている。

というか、一般人の平均生涯年収が3億に届かないぐらいだったの――

――前世通り頑張るだけで一生遊んで暮らせるじゃん。

この日、私の走る理由が増えてしまった。

後スペース用

3. やつとこ入学会

前

いやあ～～～～～長かった。

ついに中央トレセンの合格発表日である。

発表数分前なので、トレセンの発表ページにF5アタックを仕掛けながら待機。

この日のために厳しいトレーニングを……いやそんなに厳しくなかつたかも……

まあともかく色々やつてきたのだ。

ただ無闇矢鱈に走るのは逆効果だらうとトレーナー（前世における調教師）用の分厚い本やら論文やらを読み漁り。

せつかくだからとトレーナー試験の過去問である程度の点数が出せるまでは粘つて（今思い返してもあの試験の難易度はイカれている。合格最低点の半分すら届かなかつた）。

取り敢えずあの坂路バカの真似をして毎日山をランニングし。水泳が身体を痛めづらく、かつ心肺機能を鍛えると実に良さそうでスイミングスクールで鍛えて。

地元で開催されている草レースに参加して競馬の感覚を取り戻しつつ。息抜きのための娯楽及び忍耐力向上としてフ〇ムゲーのトロコンを行い。

その結果がようやく出てくるのだ。

——ただいくら頑張つて食事量やら栄養バランスやら睡眠時間やら調節しても身長が150cm行かずに成長止まつたのは嘆くしか

ない。

こんなところまで前世通りじゃなくていいから！

そうそう、受験会場であつたことを記しておく。

一応中央を受験したのだ。もしかしたら知っている馬だつたウマ娘がいるかもしぬないと若干の期待を寄せながら会場へ向かつたのだが、その道中にて

「バクシンバクシンバクシ～ン!!!!」

とウマ娘専用レーンを爆走してゐるヤバいのがいた。

……いやもうバクシンとか言つてる時点で絶対サクラバクシンオージayan。

案の定少し先でスタミナ使い果たして転がつてたし。

私は主戦距離が異なるのであまり詳しいことは知らないのだが、短距離レースでは尋常ではない強さを誇つたらしい。
ステイヤーで良かつたと心の底から思つた。

その後、会場にいた受験生の中でやたらムツキムキな奴を見かけた。

もしやと思つてよく見てみたら、Tシャツにデカデカと「HANR O」と書いてあつた。

そうですね、例の坂路バカでござります。
ダービーでコイツに負けたの未だに悔しいなあ……

取り敢えず偶然を装い適当に会話して、本人（本馬？）であることが確定した。

……なんかロボットみたいな口調になつてて若干困惑したが。
君、馬の時は全然そんな性格じやなかつたよね……？

あと、自分の名前を伝えた時に一切の動搖が見られなかつたことを確認した。

追加で前世のことをそれとななく言葉に含ませてみたのだが、やはり反応は無く。

前世の記憶を持ち越したのはやっぱり私だけなのか、と若干落胆してしまつた。

後は特に何もなく筆記試験やつて実技試験やつて面接やつて終わり。

ただ、面接官が幼女だったのはすごいビックリした。

何で幼女が面接官なんだと思ったが、まさかの中央の理事長であつた。

……あの見た目で成人してるの？ マジで？

面接の時に、自分の夢を聞かれたから正直に回答したら目を見開かれたのが若干気になるところ。

別に「勝ちたいのはもちろんだが、何より最後まで走り切るのが一番だ」という旨を伝えただけなのだが。

いろいろ懐古しているうちに発表時刻数秒前である。

ページ更新！いやサイトおつつつつも！

——やつと繋がつた。えーと私の番号はつと……

合
格

当たり前だろ死んでもG1三勝馬だぞ落ちるわけねえだろ！

ひとまず両親に合格を伝えて安心させ、とつとと入学手続きに入
る。

さて、寮はどうしようか。

前世通り美浦でもいいのだが、そこまで変わりがないのなら栗東で
もいいような気もする。

正直どちらでもいい。

迷ったのでコインを放り投げる。

結果は美浦。

というわけで今世も美浦です。お世話になります。

やることも無くなつたので、Ste○mでプロムンとかカプ○ンの
ゲームでもやつて入学までの時間を潰すとしようか。

さて、今世での全体の目標を定めよう。

最低限の目標として、前世に劣る戦績を取らないというものにす
る。

追加の目標としては

- ・芙蓉S後、および6歳時旧年齢表記春天前の骨折回避
- ・オールカマー後の低迷期を無くす
- ・7歳宝塚で死なない

を取り敢えず設定。

上2つを達成すればまず間違いなく最低限は超える。

ここで迷うのがダービー及び菊花賞。

前世ではダービー2着、菊花1着だった。

このままではつまらないので、折角なので変えてみようと思う。
今現在考えているプランとして

- ・ダービー及び菊花にてミホノブルボンに勝利する
- ・菊花までは目立たないよう重賞への出走を控えて、菊花で伏兵として無敗三冠をぶち壊す

の2つを考えている。

——面白いことになるのは絶対に後者なんだよなあ。

無敗三冠を見ようと詰めかけた数多の人間の前で「三冠逸おめでとうございまあああす!!」するのとか絶対楽しいじゃん。

多分ブーリングの嵐が起きるが知ったこっちゃない。私の娯楽が最優先だ。

ついでに言えば、ヒール呼ばわりはとっくに慣れてるから問題無し。

どうせならヒール街道突つ走つて行こうじゃあないか。

というわけで後者決定。ミホノブルボンと観客には涙を飲んでもらおう。

——こんなこと考えてないで引っ越しの準備しろよ私。

明日には荷物全部美浦寮に送らないといけないんだぞ。

取り敢えず真っ先にそのHELL○INGとジョ○ヨ全巻セットをダンボールにぶち込め。途中で読み始めたら悲惨なことになるぞ。

入学式も顔合わせも終わり、自分の寮室に戻ってきた。

まさか生徒会長が式辞にクツソ寒いダジャレ仕込んでくるとは予想していなかつた。マジかよ皇帝。

寮の同室は何年か上の先輩だつた。

感じのいい人で寮とか学園について色々と教えてくれた。自分で言うのもなんだが、私は可愛らしい見た目をしているのでそれもあるかもしね。

なぜか私の漫画セットを見た時に顔が引き攣つたが。別に変な本を読んでいるわけではないのに、全くもつて心外である。

さて、この学園で非常に感動したことがある。
カフェティリアだ。

まず食べ放題。非常にありがたい。

そして何より、IDを読み取らせることで注文した料理の栄養素をwebで確認できるのだ。

流石スポーツ専門校。お陰でカロリーやラタンパク質のバランスやらの計算が大変やりやすくなりました。
もうこれだけで中央に来た甲斐があると言つうものだ。

そうそう、料理で思い出した。

——人間テメエ肉も米もクツソ美味いじやねえか！
何で馬時代は草ばっかり与えたんだよ！

雑食動物である人間の身体を持ってて本当に良かつた。

まあ、ともあれ念願の中央トレセンに来たのだ。

本格化が来るまでは教官の下で程々に鍛えておくとしよう。

あと

4. 何だお前!?

前

トレセンに入学して数ヶ月が過ぎた。

とはいえてトレセンで特筆すべきことなどは特に無く。

授業受けて合同トレーニング受けて自主トレしての日々を送った。

授業に紛れて工作は行つたが。

別に怒られるようなことでは無く、美術の時間に競走馬の絵を描いただけである。

先生に聞かれた時は適当にはぐらかしたが、これは私以外にも前世持ちのウマ娘がいないかどうかを確かめるためである。

書写は得意だったのでかなり本腰を入れて描き上げ、その結果無事に美術室前に飾られることとなつた。

作者名も付記してあるので、もし前世持ちがいたら私に接触してくるだろう。

……私の他にもいてくれたら嬉しいな。自分だけというのではなくに孤独なものなのだから。

ちなみに同室の先輩だが、ついに先日GⅢを勝利した。

これが初めての重賞勝利とのことだつたのでそれはもう盛大にお祝いした。

自分が重賞をかなり勝つていたから感覚が麻痺しているが、中央というのは7割近くのウマ娘が未勝利戦を突破できずに終わるような世界である。

そんな中で重賞を勝つというのはとても素晴らしいことなのだ。
この調子で勝ち進んで欲しい。

今私の状態だが、まあ当たり前ではあるが本格化の兆候はない。
今はマックイーンの世代がクラシックの時期なのでデビューは来

年になるだろう。

それまでは普通に学園生活を送るしよう。

——と思つていたのだが、計画に若干の修正を加える必要が出てきた。

理由としては、レースの変化である。

レースの主な変化としては、ジュニア期にホープフルステークス（GⅠ）が追加、シニア期の大坂杯がGⅠに昇格など。

私に関係があるものとすれば、3歳時に走った新潟3歳Sが1200mから1600mに、芙蓉Sが1600mから2000mに距離延長。

4歳時のNHK杯が廃止。
といつた具合。

これらの影響により、ミホノブルボンの出走予定の正確な把握がやや困難になった。

別に馬時代に出走したレースが変わる、ということではない。

新設されたレースに追加で出走する、ということが大問題なのだ。過去のレース結果を見ていると、何人かのウマ娘の勝ち鞍が馬時代よりも増えているのだ。

また、レース場や距離変更があつたレースでは、当然ではあるが出走したウマ娘が馬時代とは異なる、というのもかなり面倒くさい。

もしもブルボンが余計なレースに出て、そこで負けて無敗じや無くなりました、なんてことになつたら折角のお楽しみが消えてしまう。

頼むから前世通りダービーまで全勝してくれ。そうしたら心置きなく菊花賞でぶつちぎれるから。

一方、変化しなかつたレースは前世通りの展開になるのかという点に関してだが、こちらに関してはおそらく心配しなくても良いだろう。

シンボリルドフが皐月で斜行やらかしても、降着せずに無敗三冠を達成していたのが一応の根拠となる。

幸いにも菊花賞は何の変更もないため、まあ安心して大丈夫だろう。

重賞にあまり出ないと決めたため、そこまでのレースに関しては自分で決めなければならず、展開も当然わからないが。取得賞金が足りなくて菊花賞に出られませんでした、なんてことはならないように気をつけなければ。

やることも無くなつて校内をぶらついていたある日のこと。

そういうえば今日は選抜レースが開催される日だつたな、と思い出して会場に足を向ける。

会場はなかなかに盛況で、ウマ娘をスカウトせんと若干ヤバい目つきで見るトレーナーや、友人を応援にきたウマ娘、はたまた自分の参考にしようと必死になつてレースに食らいついて見るウマ娘などでごつた返している。

人混みを避けて4角のあたりからレースを見ることにした。

——ああもうそこで仕掛けちゃダメだつて。前離れてて焦るのはわかるがありやあ垂れる。

だからもう少し経つてからじゃないと……ほーらお前も垂れた。何やつてんのもう。

でも別のあいつはよく展開見てたな。流れに惑わされずに脚溜めてたわ。

……はい、無事に差し切つて勝利。あの子は伸びるな。今後も頑張れ。

などと後方競馬厨面して観戦していたら――

「ほおう、いいトモだな……ちゃんと鍛えられて美しく締まっている……こりや天性のステイヤーの脚だな……」

突如オッサンに後ろからトモを触られた。

え？ は？ 何してんのコイツ？

しばらく硬直してしまった。マジで何してんの？
その間にも男はブツブツいいながら脚を撫で回している。
するとウマ娘が3人走り寄ってきて――

「「「オラア!!」」「へぶつ!?」

哀れオッサンはウマ娘3人に蹴り飛ばされてしまった。

しかし男は何事もなく起き上がった。クツソ丈夫だなお前。普通馬に全力で蹴られたら死ぬぞ？

「コイツまったく勝手にウマ娘の脚触つてんじゃねえか！ 何回目だよお前！」

「トレーナー、そろそろ良い脚見かけたら触りに行くのやめたらどうお？」

3人のうち鹿毛とデカい方の芦毛の2人が男に詰め寄つて行つた。
ていうかこの男トレーナーだったのか。じゃあ問題ないな。調教師は普通に全身触つてたし。

残つた小さい方の芦毛が申し訳なさそうな顔でこちらに来た。

「大変申し訳ありませんでした、うちのトレーナーが粗相を働いてしまって……」

「いえいえ大丈夫ですよ、テキの方ならこういう事もあるでしょうし」とえトレーナーでもダメですわよ」

「おいトレーナー、あの子に敵呼ばわりされてるぞ。とつとと土下座した方がいいんじやね～のか？」

「いやテキっていうのはトレーナーの別の言い方であつて enemy の方の敵じやねえから」

「でもやつたことは敵そのものだろ」「それは……まあそうなんだが……」

別に脚を触られたぐらいで何を大袈裟な、と思つたが自分が馬ではなくウマ娘であることを思い出した。うん大袈裟でいいわ。やはり馬の記憶があると周囲の常識と若干のズレが生じてしまうな。これは前世持ちの数少ない欠点といったところか。

「いやその……さつきはすまなかつた」

「いえいえ全然気にしてませんから大丈夫ですよ。

……ちなみにどこか修正すべき所つてありますか？」

「いや、上手く鍛えられているから問題はないぞ。せいぜいほんの僅かに重心が右に寄つていることと上半身が若干下半身より鍛えられてない」とぐらいただな

「成程」

「……え、本当に気にしてないの？」ボソボソ

「痴漢してきた相手によく聞けますわね……」ボソボソ

……おいそこの3人、何故そんな目で私を見る。

足を触られたのだから、別に自分の状態を聞くことぐらい要求して

もいいではないか。

「……それで、トレーナー、えーっと……触りに行つたつてことはそれなりの才はあるつてことなんだよね？」

「おう、コイツはステイヤーの才能の塊みたいな脚を持つてる。それこそマックイーンやゴルシ並みにな」

「……本当ですの、それ？」

「ああ、間違いねえ」

おい待てトレーナー。今マックイーンって言つたか？

マジで？じやあこのデカい方の芦毛がマックイーンなの？まあアイツデカかつたしな。

ゴルシについては名前を聞いたことはないが、鹿毛か小さい方の芦毛かのどつちかだろう。

「マックイーンって、メジロマックイーンさんのことでしょうか？」

「はい、私がメジロマックイーンですわ」

「……!？」

小柄な方だつた。

……お前そんな上品な奴だつたつけ？

もつと面白おかしい奴だつたと記憶しているのだが。

「同じステイヤー同士、いずれ春の天皇賞で戦う時が来るかもしませんわね。

……ですが、天皇賞の盾は私の使命。到底譲るつもりはありませんわ

「……え、ええ。こちらも全力で立ち向かおうと思います」

……OK、何とかまともな返答ができた。

いや、まあ、その。

——お前絶対そんなキャラじやなかつただろ!!!

使命という言葉から滅茶苦茶離れた場所にいるような奴だつただろお前!!

私知つてゐるからな、お前春天のファンファーレ聞いた瞬間「うつわ今日長い奴じやんめんどくせえええ」つてやる気無くしたの見てたからな!!

引退後に主戦騎手が会いに行つたらまた走らされると思つて逃げ出したの知つてるからな!!

……普通に考えて、そんな状態で2着に食い込むあたり本当に強かつたんだろうけど。

こつちの世界だと性格が大きく変わつた奴が多くて困惑する。

やがてトレーナーがこちらに向き直り、口を開いた。

「そ、ういえ、ば名前を聞いていなかつたな。教えてくれるか?」

「ライスシャワーです」

「O.K。さてライスシャワー、俺はチーム『スピカ』のトレーナーをやつてゐる者だ。お前の才能を見込み、是非スカウトしたい」

……ふむ、どうしようか。

この男やチームに関しては何も知らないのだ。

しかし、マックイーンが所属してゐるというだけでかなりの有能性を感じる。

先程も私の脚を見ただけでいいトモだと判別し、その後ちゃんとステイヤーとしての才能を見抜いてきた。

何より、中途半端な知識で自主トレを続けるよりも本職のトレーナーの下指導を受けた方がいいに決まつてゐる。

というわけで答えは一択。

「では、そのスカウトを受けます」

チームメンバーから歓声が上がった。
鹿毛が早速駆け寄つて来た。

「ボクはトウカイティオー！ これからよろしくね！」

「はい、よろしくお願ひします」

「もう、そんなカタくなくてもダイジョーブだよ！」

「……うん、わかつた」

トウカイティオー。無敗三冠馬シンボリルドルフの産駒。
前世では2度、どちらも有馬記念で競つた相手だ。
まあ1回目はどちらも悲惨だったが。私が8着でティオーが11
着。ひとつでえ結果だ。

確かにその時の勝ち馬がメジロパーマーだつたはず。

……そういえばパーマーって春秋グランプリ連覇してたな。いい
こと思いついた。

それはそれとして、2回目ではトウカイティオーが1着で私が再び
の8着。

ついでに言えばナイスネイチャの3回目の3着でもある。

あの頭のデカくて白いビワハヤヒデが2着だったが、コイツ滅茶苦
茶調子悪そだつたんだよな。弟は三冠馬だし兄弟揃つて滅茶苦茶
強かつたな。

この時はトウカイティオーも1年振りのレースだつたのに勝ちや
がつたので大概バケモンだが。

このチーム、マックイーンに加えティオーもいるとかちょっと強す
ぎないか……？

「アタシはゴールドシップ！ 趣味は蒙昧の字を書きながら未来を考え
ること！ 特技は美術館の人探し！ 好きなものは三角定規のレバ刺
し！ これからもよろしくな！」

「よ、よろしく……？」

ダメだ、この『デカい方の芦毛からは関わっちゃいけない香り』がすごいする。

ゴールドシップに聞しては聞いたことがない。

ゴルシはゴールドシップの略称だろうか。

先程トレーナーが、「ライスシャワーはゴールドシップに並ぶ才能を持つ」と言っていたのでおそらくコイツもなかなかに強いのだろう。

……私が入ったことにより、このチームにG1級の実力を持つウマ娘が4人集まつたことになる。

強すぎないか？前世は厩舎に一頭でも重賞馬がいればいい方だったぞ……？

「では改めまして、メジロマックイーンですわ。これからよろしくお願ひ致します」

「……はい、よろしくお願ひします」

メジロマックイーン。説明不要。

——やっぱ慣れねえよコイツが上品な言葉使うの！

もつとはつちやけて欲しい。ゴールドシップと性格入れ替えたらいい感じになるんじやないか？

そうそう、春天では覚悟しとけよ。前世より馬身差つけてボッコボコにしてやるから。

その後、チームの部屋に行こうという話になり、場所を案内している時に、ティオーがポロつと、

「新しい子をスカウトするために選抜レース見にきたのに、結局レー

ス走つてない子をスカウトすることになつちやつたね～」

と口にした。

……そういえば選抜レースの会場だつたな、あそこ。

まあ見た感じあそこで走つてる連中よりも私の方が強いし、このチームにとつて最善の結果になつたんじやなかろうか。

チームメンバーが中長距離に偏つていることからトレーナーの得意な育成が長距離というのは判断できるし、私にとつても最善である。

早めにこのチームに入れたのは實に運が良い。

これからはチーム『スピカ』のメンバーとしてトレーニングを積むとしよう。

後

5. どこ行くねーん

前

スピカでのトレーニングにも慣れてきた頃。

トレーナーの指導はガツチガチに組み上げられたというものではなく、ある程度は自主性に任せたトレーニングを行わせるといったもの。

本格化が来ていない現時点では、肉体よりも技術的な面に重点を置いてトレーニングを行なっている。

ゲート訓練だつたり展開予想であつたり。

あとはウイニングライブの練習。今のうちに歌詞だけでも覚えておいた方がいいとのことだつたので、チームメンバーでカラオケに行く行つた。

しつかしトウカイティオーライブ上手かつたなあ。普通に歌手としても大成できるんじやなかろうか。

ティオーライブは微笑ましい顔で見ていたが。

コイツのダービーからどう変わつていくのかを知つてゐるからだが。トウカイティオーライブの成長を近くで見られるというのもこのチームに入つた利点だろうか。

ただ、骨折の可能性を忠告しておくべきなんじやないか、という思いもある。

しかしあの挫折を経験しないと成長しなさそうだよなあ……と、いろいろ知つてゐるからこそその保護者面をしてしまう。前世じや一個年上だつたはずなのだが……。

技術トレーニングで後一つやつてみたいことがあるのだが、相手にティオーライブ取ることができず、そのティオーライブはハチミツで腹を壊し

たため現在できない。

別にティオーでなければならぬというわけではないのだが、マックイーンにはまだ手札を喰らわせたくないし、ゴールドシップに関しては脚質が追い込みのため不可能。

というわけでダンスレッスンを行つてゐる。

——ところで、うまぴょいつて何なの？

そうそう、マックイーンはやはり面白いやつだつた。

野球とスイーツに関してはなかなかに愉快なことになるのだ。

まず野球。

最近は「どういうわけか」死んだ魚のような目でテレビを見ている時間がある。

口からちよつとここに書けないレベルの罵詈雑言が漏れ出ていて本当に面白かつた。

さらに、「何故か」3334という数字に過剰に反応するのだ。
ボソッと呟くだけで耳を忙しなく動かす様子は実に愉快だつた。

次にスイーツ。

コイツ、甘いもの好きなくせにすぐ太るからあまり食べられないらしい。

普段からケーキ屋のチラシを見て涎を垂れ流したり、街中のスイーツショッピングの匂いにふらふら釣られたり。

この間、カフェテリアでの食事の時ティオーと一緒にマックイーンの目の前でメロンパフェを素知らぬ顔で食べてやつたところそれはもう笑えr悲痛な表情を浮かべていた。
美味しうございました。

今度チームの部屋でチョコアイスでも食べようか。特に深い意味

は無いが。ええ、決して。

無事にティオーが腹痛から還ってきたので、並走トレーニングを依頼する。

なお、当の本人は懲りずにハチミツドリンクを飲んでいる。
どんだけ好きなのアレ。ていうかそこそこの値段したよね?
どつから金てるの?

——いや、本人は出さないが所々に育ちの良さが垣間見える時があつた。

なんか「じいや」とかいう不穏な単語を口にしていた気もする。
前世的に考えて、メジロ家はメジロ牧場の反映。

じやあティオーは何なんだと思ったが、おそらくパーソロン系の影響だろうか。

じやあこっちでもティオーとルドルフは親戚だつたりするのだろうか……?

でもそれだったらティオーがカイチョーカイチョーと鳴かずにもう少し親しげな呼び名になるはずだよなあ……

「お~い、ライス~? 聞こえてる~?」
「…………あつ、ごめん。考え方してた」

ティオーの声で思考の底から浮上する

マツタクモー、ナニヤツテンノサーとティオーに言われてしまつた。相変わらず半角カナが似合う声だ。

「……ちなみに、何考えてたの~?」
「ええつと……」

さて、これは言つてもいいものか。

……別に親戚関係を聞くぐらいなら問題はないか。

「……ティオーとシンボリルドフさんって親戚だつたりする？」

「なんで急にそんなことを……えへつと、まあ一応……？ でもかなり離れちゃってるから親戚とは言い難いかなあ……」

「へえ……」

遠い親戚。

まあ妥当なラインだろうか。本当に前世通りだつたら近い血縁関係をもつウマ娘が千人を超えてしまう場合もあるし。

大種牡馬というのは大変だなあ……

「ていうか、マークの練習でしょ？ 早く始めようよ！」

「そうだね。じゃあコースは2000m右回りで」

「オッケー！ まあどんなに長くても逃げ切っちゃうモンニ！」

そう、やりたかったのはマーク練習である。

マックイーンを相手にできなかつたのは耐性をつけさせたくないなかつたからだ。

さて、本格化が来たティオーと、まだ来ていない私。

もちろん簡単に差せるとは考えていないが、まあティオーの鼻をへし折るぐらいは目指したい所。

スタート位置に着き、合図として空のペットボトルを投げる。地面についた瞬間、同時にスタートを切つた。

位置取りは、もちろんティオーの後ろ。

スリップストリームの利益を最大限受けられるように位置を調整し、ティオーに圧をかけ始める。

「……つ」

「……」

若干ティオーが加速する。それに合わせて、いやそれ以上に加速し

「……!？」

ぴつたりとティオーの後ろに張り付く。ティオーが跳ね上げる泥が容赦なく身体にかかるが、完全に無視してさらに圧を強くする。

「……つ！……ツツ！」

「……」

ティオーもここまで来るとは予想していなかつたのか、若干ブレが生じ始める。

そのブレを見極め、適切なタイミングで足音や気配によるフェイントをかける。

内から抜くぞ、右に行くぞ、後ろに下がるぞ。

時には歩数を調整しティオーと同じタイミングで足をつけるようにし、唐突に気配を消す。

一瞬できた意識の隙間を狙い、また一気に圧をかける。

様々に翻弄しながら進めていき——

「はあつ、はあつ、はあつ、…………ああつ！」

「…………ふつ！」

ティオーの体力がかなり消耗したタイミングで抜かす。

そのまま差を開けてゴールイン。

数秒してから、息も絶え絶えなティオーがゴールに辿り着いて、そ

のまま地面に倒れ込んだ。

しばらくティオーが息を整えて、ようやく口を開く。

「なに今の!? メチャクチヤ走りづらかつたんだけど!? ていうか近すぎでしょ!? 急に消えたと思つたらいきなり出てくるし！ どこで覚えたのそんなの!?」

「だつてそういう練習だし……」

「ワケワカンナイヨー!!?」

どこで覚えたのかは勿論言えない。覚えたというより教えてもらつたの方が近いが。騎手の方、本当にありがとうございました。
しかし、マークが無事に上手く出来て何よりだ。

折角だからと追加で色々やつてみたが効果はかなり大きいようだ。
もう少しブラツシユアツプしてより理不尽にしていきたいところ。
今はティオーが使い物にならなくなってしまったので、また後日にならうか。

ゴルシがせめて先行できたらよかつたのに。

……いや、ゴルシは得意なのは追い込みと言つていただけで、もしかしたら先行や逃げもできるかも知れない。
ちょっと探してくるか。

「……えつ、ちょっとどこ行くの!?」

「ゴールドシップを探しに」

「えつなんで……待つて同じことやるの!? ていうかゴールド
シップつて逃げか先行つて出来たつけ!?」

「させる」

「怖いよ!?

「むつ、ゴルシちゃんセンサーが逃げろと言つている。マックちゃん
ちよつと席外すわ!」

「ゞゞ」に行くんですのゴールドシップ！　待ちなさい！　私のプリン
を返してくださいまし！」

——遠くからマックイーンの声が聞こえる。
どうやらゴールドシップを追っているらしい。

つまりそこにゴールドシップがいるのだ。
というわけで声のする方へ向かうと……

「あつ、ライスさん！　ちようどいいところに！　ゴールドシップを
捕まえてくださいまし！」

何故か怒り心頭のマックイーンと合流した。
そして少し先にはゴールドシップが。
実にちようどいい。このままマーク練習もさせてもらおう。

「……！　よおライス！　実は今……ヒイツ！」

初っ端から圧を全開にして追尾開始。
状況も相まっていい練習相手になりそうだ。

「な、何でそんなにコエエんだよライス!?　うわあつ無言でこつちに
来るんじやねえつ！」

ゴールドシップがすぐさま逃げ出す。

別に殺して食うわけでもないのに大袈裟な。ただマークの練習を
したいだけなのに。

ゴールドシップが逃げ道上の物体で妨害してきたり、曲がり道の多
いルートを通りするが、強引に押し通る。

「う、嘘だろお!？」

「…………」

どんどんと距離を詰めて、そのままゴールドシップに張り付き続ける。

「ひいひいひいひいひい!!」

「…………」

ゴールドシップは果敢にも逃げ続け、体育館を通り、カフェテリアを通り、etc…………

「誰かたすけてええええええ…………！」

「…………」

やがてティオーのいるコースまで来た。

「テ、ティオー助けてくれよお！ なんかめちゃライスが追つかけてくるんだけどお！」

「うわあ、本当にやつたんだ……」

ほとんど泣きそうになりながらティオーに泣きつくゴールドシップ。そのままティオーの後ろに隠れるように姿勢を変える。

ティオーは諦めたような、哀れむような目でゴールドシップを見た。

ガタガタと震え涙目でこちらを睨むゴールドシップに、なにも怖がる必要はないと示すために、朗らかな笑顔で優しく声をかける。

「ゴールドシップさん、今マークの練習をしてるんだけどね、あと3本ぐらい付き合つて欲しいの」

ゴールドシップとトウカイティオーは抱き合つて震え上がった。

後にゴールドシップは、「ライスシャワーは恐ろしい鬼だ」と語ったとか語らなかつたとか。

後

6. 夏合宿前の掌編集

前

1. 猛暑

蝉の音が響きだし、夏の訪れを感じる頃。

つまり、外でのトレーニングが辛くなる季節である。馬は暑さに弱いのだ。ならば当然ウマ娘も然り。

ここが田舎で標高が高いところであればまだマシだつただろう。しかし、残念ながらトレセン学園は東京の府中にある。

流石ヒートアイランド現象、クツツツソ暑い。だるい。とける。しぬ。すずしいところにいたい。あいすたべたい。めじよまつきーんかつてきて。

暑さのせいで思考もだるだるに融けている気がする。

そうだ、コース場の上をドームで囲つて空調を利用すればいいんじゃないんだろうか。

そうすれば豪雨でも練習できるし。日差しもカットできて素晴らしいじゃないか。

あの理事長に言えばやつてくれるかもしね。ポケットマネーで色々やってくれたし。

いやでも流石にダメかな……どうかな……

「う、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
…………」

「…………ライスシャワーさん、完全に暑さにやられてしまつていますわ
ね…………」

「あれじゃあもうお米というかお粥なんじやないかなあ…………」

粥どころではない。もはや重湯のレベルなのだ。

あの眩し過ぎる太陽をどうにかしてくれ。日差しが強過ぎる。

ん？ 太陽……太陽神……ヘリオス……

つまりダイタクヘリオスを「自主規制」すれば涼しくなるのでは？

そうと決まれば話は早い。早速——

……ああ、その気力すら起きない。誰か代わりにやつてきて。

「ライスの日がなんかヤバげな感じになつちやつてるよ!? 本当にアレ大丈夫なの!?

「……とりあえず首筋と脇下と内股を冷却しましようか。血液を冷やせば多少はマシになるはずですわ」

「あんなに暑さに弱くて夏合宿大丈夫かなあ……」

2. 期末考查

前期末考查が無事に終わつた。もちろん補習は回避。

サクラバクシンオーは悲惨なことになつていたが。頭バクシンとは正にこのことか。

彼女を指導する先生方はさぞかし苦労する羽目になるだろう。なんとか頑張つて支えてほしい。

全教科返つてきたので、そろそろ順位が発表される頃である。
幼少期から知識を身につけまくつたのだ。国語の記述で少しだけ

減点を食らつたが、それ以外は満点なのでまあ1位だろう。
そもそも中1レベルなのだからこの程度当然ではあるが。

数日後、順位表が掲示されたとのことなので早速見に行く。

第一学期期末考査・中等部第一学年
五科目総合（500点満点）（上位50名）

1位	キヨウエイボーガン	500
2位	ライスシャワー	496
3位	ミホノブルボン	487
· · · · ·	· · · · ·	· · · · ·
	は？	は？？？

キヨウエイボーガン？ え？ は？

え、アイツ？ 菊花で破滅逃げしたアイツ？ アイツに負けたの？
しかも満点？

はああああああああああああああああああ?????

え、キヨウエイボーガンつてそんな賢そうな奴だったつけ？
これもウマ娘化の影響なの？ 天才に変わるパターンもあるの？

……いや、ミホノブルボンも3位まで食い込んでいるな。ミホノブルボンも馬時代はそこまで賢くなかったはず。それがこの結果なのだ。

そうなのか、ウマ娘化で極端に頭が良くなるパターンもあるのか。これは素直に羨ましい。前世持ちだとどうしてもそこを土台として発達するのだ。

元から賢い奴は賢い土台から始まるのでそのような人は私よりも有利なのだ。

——いや、これは言い訳か。より解答の正確性を詰めなかつた私のせいだ。

二学期末は絶対満点取つてやる。

3. 合宿準備

夏合宿が近づいてくる。

合宿場所はメジロ家提携の練習場付き旅館。なんとプライベートビーチも付属している。

流石はレース界の名家、これがお金の力か。トレーナーも予算が浮いたと大喜びしていた。高級旅館にタダで泊まれるという理由もきつとあるだろうが。

メジロ家が気前良く貸してくれた理由は、今回の夏合宿の主目的がマックイーンにあるからだ。

マックイーンは現在一勝クラス（500万下）。春天への足掛かりとなる菊花賞を視野に入れつつ、9月の函館で一勝クラス突破を狙つ

て行く。

副目的はトウカイティオー。デビュー戦は12月にすることになつたので、やや遠いがこちらもしっかりとトレーニングを行う。

私とゴールドシップは本格化がまだの為、2人のアシストもしながら基礎作りを行なっていく。

さて、現在は合宿に持つて行く荷物の用意である。

トレーニング機材は貸し出してくれる（何とトライアスロン用の服まで貸してくれるようだ）ので、各自私物を準備することになる。

とはいえ特に何も無いが。私服とPCとタブレットぐらいのものだろう。

そんなわけで適当に詰め込んでいたのだが――

「…………ライスちゃん？　ええっと、夏合宿の準備……だよね？」

「？　はい、そうですが……」

「…………水着、持つて行かないの？」

「はい、トレーニング用の水着は向こうが用意して――」

「そうじゃなくて！　プライベートビーチついてるところ行くんでしょう！　私的な水着つて持つてないの!?」

「学園指定のものだけですけど」

「それで行く気だつたよね！　ぜつつつたい、ダメ！！　ああもう、明日空いてるつて言つてたよね！　可愛いやつ買いに行くよ！」

「え、いや、でも、別にそんな――」

「いやもでもも無い！　ていうかライスちゃん普段着も可愛げがなさ過ぎるよ！　Tシャツとジーパン以外見たことないよ！？　ついでに買いに行こう！」

「え、ええ…………」

というわけで服屋に連行されることとなつた。

あと決してTシャツとジーパンしか持っていないわけではない。
ゲーセンに行くときのためのもつと動きやすいズボンもある。上は
知らん。

まあ、ファッショニ無頓着かと訊かれれば「はい」としか答えられないのだが。

翌日、ショッピングモールにて私は着せ替え人形と化した。

いい服は結構なお値段がするのだとこの日思い知らされた。
総額を脳内で何クレ分かに換算してしまつたことは内緒だ。

服以外にもファッショニ雑誌を買わされたりもしたが、まあ楽しい
日であつたことには違ひない。

雑誌に書いてある内容はさっぱり分からなかつた。

4. テイオー、尾行

ライスシャワー。ボクたちチームスピカのメンバー。

加入した経緯はちよつとアレだつたけど、トレーナーの見抜いた通り強いウマ娘だ。

トレーナーには一体何が見えるんだろう。この間だつてマックイーンの1kg増を見ただけで言い当てたし。こういうことが出来ないと中央のトレーナーにはなれないのかな。

ライスシャワーの強みはなんと言つてもその膨大なスタミナとマーク技術。

トップスピードはボクよりも遅いけれど、徹底的なマークでゴリゴリこちらのスタミナを削つてくる。

それほど頻度は高くないけれど、マークの練習になつたら逃げたく

なつちやう。ゴルシは確実に逃げるけど。

でも、無敗の三冠ウマ娘になるんだつたらマーク対策もしなくちゃいけない。

さすがにライスほどのマークはしてこなくても、複数人からマークされることだつてあるはずだ。

正直とつても怖いし疲れるけど、頑張つてやらなくちゃ。

そんなライスシャワーだけど、そういうれば個人的なことをそんなに知らないなあ。

確かに、彼女は優しくて、賢くて、謙虚だ。

でもそれはあくまで客観的な評価であつて。

何の食べ物が好きなのか。休みの日は何をしてるのか。なんでトレセンに来たのか。

そういうことをボクは一切知らない。本人があまり言わないのもあるけどね。

でもある日、はちみーを買いに行こうとしたとき、ライスシャワーを見かけた。

とてもシンプルで地味な格好だつたから逆に目立つたんだけどね。どこに行くんだろうと思つて、声をかけようかとも思つたけど、それじやあライスの素顔が見られないんじやないかつて思つたんだ。

だから、こつそり跡をつけることにした。

始めはどこに行くかさっぱり分かんなかつたけど、ついて行つたら

「ゲーム……センター……？」

ライスがゲームセンターに入つていつたんだ。

ちよつと意外だなあと思つた。あんまりそういう場所に行きそろに見えなかつたから。

ボクはゲームセンターには行つたことがなかつたから、何があるん

だろうと思つて入つた。

ぱかぱちのクレーンゲームとか、カーレースのゲームとか、良く分かんないブースとかがいつぱいあつてワクワクしちやつた。

ライスは奥に行つて、なんか洗濯機みたいな形の筐体の前に立つた。

よく見たら手袋をつけてて、それで何をするんだろうつて気になつちやつた。

隣の画面でリズムゲームだと分かつたけれど。ショッピングモールに置いてある太鼓のやつしか知らなかつたけど、こういうのもあるんだ。

ゲームが始まつたんだけど、ライスの動きがすごかつた。

音楽に合わせてボタンをすごい速さで叩いたり、画面を擦つたり。

あんなに激しく動いてるのに全然ペースが落ちてないし、よく見たら重心が全然ブレてない。

思わず見入つちやつた。

ライスはそのまま立て続けに三曲やつて、コンティニュ一して、また三曲やつて……

汗は出てるけど全然疲れてない。本当にすごいスタミナだ。

その後はゲームを変えて、足のパネルを踏むやつをやつてた。そつちでもすつごい足捌きで。

もしかしてこれつてトレーニングの一環なのかなあ。

ゲームだつたら楽しく出来るし、ウイニングライブの為のリズム感も鍛えられる。結果もすぐにスコアとして分かるし、かなりいいんじゃないかな。

後でボクもやってみようかな。

ライスがこんなことをやつてるのを知れてよかつた。見つかる前に帰ろう。

7. トレーニングの様子は全力ツトで

前

いよいよ夏合宿。

ゴツゴツした荷物を持ち、見繕つてもらつた私服に着替え、集合場所に集まる。

集合時間5分前のはずだが既に全員が揃つており、私が最後だつたようだ。

私が来たことに真っ先にゴールドシップが気付いた。

「ライスー！ おせーぞー！」

「一応まだ5分前ですわよ。楽しみにしそぎですの」

「そうだぞ、ゴルシ。旅行じゃなくて合宿だからな？」

「そう言うトレーナーさんこそ1番早く来ていたじゃありますか」

「……さあて、なんのことやら」

トレーナー、お前もか。

まあ高級旅館に行けると言うだけで楽しみになるのは違いない。私だつて期待しているのだ。

ちなみに交通手段もメジロ家が提供してくれるそうなのだが――

「なあマックイーン、どうやつて行くんだ？ バスか？」

「いいえ。そろそろ迎えが来るはずで……ちょうど見えましたわね。アレですか」

「「「……アレ？」」

「ええ、アレですか」

来たのは真っ黒な車。正面からは一般的な高級車のように見える

が——

——長い。すつごい長い。

これはもしかしなくても。

「リム……ジン…………」

「実物初めて見た……」

トレーナーと私が呆然として声を漏らした。ちなみに時間ピッタリに到着している。

中からいかにもな運転手が出てきて、懇懃な挨拶を交わす。

そのままひよいひよいと荷物をトランクに詰め込んでいった。

「さあ、乗りますわよ」

「お、おう……」

トレーナー、ゴールドシップ及び私は若干尻込みしている。こんな車に乗つたことなどないので当然ではある。

ティオーは慣れた様子でリムジンに入つていつたが。なんで慣れてるんですかねえ？

「ええっと、それじゃあ……？」

「し、失礼します……？」

車に乗るだけでもこの有様である。高級車、それもリムジンなんかは無意識のうちに「傷つけないようにして」「汚さないようにしよう」と考えてしまうのが実に平民らしい。

シートがとても座りやすい。めっちゃ刺繡入つてる。シートベルトもすごいお洒落。前の座席の後ろに画面ついてる。上品な香りがする。

こんな感じで至る所から高級感を放出しまくっているせいだと決めておこう。そうでもないと気分が落ち着かない。

これがお嬢様の日常なのか？ 実に恐ろしい……

「それでは、発車致します」

リムジンは静かに走り出した。

「……適応はええな、お前」

電子書籍を読んでいるとゴールドシップから声をかけられた。五分経つたら慣れたのだから仕方あるまい。

「……で、何読んでんの？」

「メ○ドインア○ス」

「うつわマジかよお前……」

そんなに引くような本では無いだろう。
普通のハートフルな冒険活劇なのに。

「外見の可愛さと読んでる本のエグさが一致してねえ……」ボソツ
「何か言つた？」

「イエ、何デモアリマセン……」

ちなみにこの時、ティオーとマックイーンは気楽に会話していたの
だが、トレーナーは未だにそわついていた。
帰りもあるのだから早く慣れた方がいいぞ。

数時間後、目的地に到着した。

ご丁寧に「スピカ御一行」という看板まで置いてある。

荷物は部屋まで上げてくれるとのことなので、その間に施設の案内やトレーニング機材や場所の確認などを済ませておく。

その後、部屋の案内に移つた。

部屋はウマ娘四人用の大部屋が一つ。トレーナー用の個室が一つのこと。

案内の人について行き、エレベーターで最上階へと上る。
扉が開かれると――

「「おおお……」

絶景かな。部屋の調度があらゆるものと調和しており、素晴らしいものとなつてゐる。

マックイーンの小さなドヤ顔も納得できる。

まあとつと着替えてトレーニングに向かうのだが。楽しむのは後だ。

初日のトレーニングが終わつた。

砂浜めちゃくちや走りづらかつたです。

あと尋常じやない大きさのタイヤを引かせるんじやない。むしろ引けたことにビックリしたよ。

軽くシャワーを浴びてから、大浴場へと向かつた。

風呂がデカい！ 景色がキレイ！ 雰囲気が上品！

いやあ素晴らしい。しばらくここを利用してできるというのには本当にありがたい。

風呂場なのでまあ当然他のウマ娘の体も見えるのだが——
ゴールドシップは流石の恵体。デカいしデかい。

他三人が貧相なのでより目立つ。

だがしかしマックイーンよ。

私やティオーはまだ小柄だからまあ分からなくもない。

しかしあなたは身長が160cm超えていてその状態なのだ。なんなら私達二人に負けてるんじやないのか？

一体どこに置いてきたというのか。

そんな話はどうでもいいのだ。やはり筋肉の話の方が大事だろう。皆走るアスリートだから脚の筋肉が素晴らしいことになっている。ティオーやゴールドシップは上半身もきちんと筋肉のラインが浮き出ている。

マックイーンはやや腹筋が足りないように見えるか。

私は全身引き締まっている。見た目だけなら1番鍛えられているんじやないだろうか。

しかしウマ娘の本格化というのは不思議なものだ。筋肉が増えるのではなく、筋肉の発揮する力が増えるようで、腕相撲では四人の中では弱い方だつたりする。

そもそもウマ娘の筋肉が質量を無視してパワーを出している可能性があるのだから、ウマ娘というのはつくづく変な生物だ。

しかし結局は筋肉が解決してくれる。本格化の謎もマックイーンの謎も筋肉の前では些細なことだ。

やはり筋肉……！ 筋肉は全てを解決する……！

風呂から上がり、浴衣に着替えたのだが、着方が分からなかつたのでティオーに教えてもらつた。危うく左右を間違えるところだつたが、間違えても案外間違いではないというのが私の状況なのだ。寝るときによつそり変えてみようか。

ゴールドシップが「浴衣を着てやることは一つだろ！」と卓球を薦めてきたので、四人でダブルスをすることにした。

全員初心者なので初めのうちはあつちへこつちへボールが飛んで行つてしまつたが、慣れてくるとしばらくラリーが続くようになり、試合として成立するようになつた。

マックイーンのスマッシュがゴールドシップの左目に直撃したが、ゴールドシップは異常な程頑丈な眼球を持っているのですぐさま復帰した。

……鉄串がブツ刺さつても無事なのは本当にどうかしていると思うが。

部屋に戻ると、美味そうな食事が出来上がつていた。実際美味かつた。ついでにカロリーや栄養素をまとめた紙も渡してくれた。ありがとうメジロ家。

1番量を食べていたのはマックイーンだつたが。なんとなくカロリーを読み上げようとしたが、今日は気分が良いのでやめておいた。

その後はトレーナーの部屋に向かいミーティングを行う。

若干アルコールの香りがしたが黙つておいた。まあ初日ぐらいは許されるだろう。

部屋に戻るともう布団が敷かれていた。ほんの十数分だつたと思

うのだが……

ゴールドシップがトランプを持ち出して来たので、インディアンポーカーで遊ぶことにした。

折角なので何か賭けようという話になり、各々が持ち込んだおやつをかけることになった。

賭けやすいように個包装のものを使い、準備を行う。

「一番強いのつて2だつけ?」

「それは大富豪でしょう? 分かりやすいように単純に数字の大小にしませんこと?」

「じゃあそれで行こうぜ!」

山札から一枚抜き取り、自分には見えないように頭の上に掲げる。

メジロマツクイーン、1。

トウカイティオー、1。

ゴールドシップ、1。

勝つたな。

ただ他三人も勝つたような表情を一瞬浮かべていた。

つまり私のカードもかなり低い数字なのだろう。

そして各々が「他がこんなに低いなら自分は勝つんだろう」と考えている。

そりやあ全員低い数字になるのはかなりの低確率だ。自分の数字が大きいと信じ切ってしまうだろう。

つまりやることは一つ。

その気持ちを煽るように、非常に迷う素振りを見せながら一つだけ追加で賭ける。

後は勝手に互いを煽りながらドンドン賭けてくれる。

「「「セーの、オープソ!」」

私は2だった。対戦ありがとうございました。

そそくさと賭け金を回収し始めると、他三人がすぐに私を睨みつけてきた。

「ちよつと!? 絶対勝つて分かつてたならなんであんな賭け方したのさ!?」

「完全に騙されましたわ……」

「畜生! 2回戦だ! 次は素寒貧にしてやるからな!」

その後は極端に偏った数字が出ることもなく、全員のお菓子がいい感じに混ざったところで終わつた。

このような感じで合宿は続いてゆく。

後

8. マツクイーンとティオーのレース

前

夏合宿も終わり、いよいよマツクイーンが始動する。

まず最初の9月始めの一勝クラス（ダート1700、晴、良、1人気）では惜しくも2着。

しかしその2週間後（ダート1700、晴、重、1人気）には見事勝利。

さらにその次の週の2勝クラス（芝2000、晴、不良、1人気）も勝利。

3週間後の3勝クラス（芝3000、曇、稍重、1人気）では再びの2着。

こんな過密スケジュールでも連対は外していないのだ。調子は向いてきている。

……というか、マツクイーンはバ場が重い方が走りやすいのだろうか。案外ダートでも結果を残せたんじやないか？

そして3週間後の11月4日。

ついに迎えた菊花賞。

芝3000、雨、重、4人気。

ライバルとなるのは同じメジロ家のメジロライアン。

皐月3着、ダービー2着であり、皐月もダービーも勝ちウマが故障で引退していたため1人気。

対するマツクイーンは皐月もダービーも出ておらず、注目は集まらなかつた。

しかし2枠2番と内枠、しかも走り慣れた重バ場。

しかもマツクイーンは根っからのステイヤー。こんな状況で負け

るはずもなく——

「マツクイーンだ！ メジロはメジロでもマツクイーンの方だあ
！」

勝利。

まあここまで流れは全部前世通りなのだが、まさか天候まで一緒になるとは……

そんな事など他のチームメイトが知るはずもなく、G1を勝つたのでお祭り騒ぎとなるのは当然。

元々マツクイーンはメジロ家では分家の出なのだが、本家のトップの人まで祝電を寄越してきました。

ちなみに賞金の一部はトレーナーにも入る。そしてトレーナーは財布の紐が緩い。

はい、焼肉美味しかったです。ありがとうございますマツクイーン、ありがとうございますトレーナー。

この後は天皇賞春に目標を絞っていく。そのため3月まではレスに出ない。

復帰戦として阪神大賞典を予定している、とのこと。

ティオーは「マツクイーンには負けてられないモンニ！」と張り切った様子。

無敗三冠を目指しているため負けられないというのもあるだろう。

ちなみにティオーのダービー後の骨折をどうするのかについては、ティオー本人とトレーナーにさりげなく助言するに留めておくことにした。

折れて出られないか、折れずに出れるか、はたまた折れても出られるか。

この助言がどう運命を狂わせるのか。

私の例の宝塚も変えられるのかの実験もある。

ティオーにはデメリットは無いし、別に実験しても構わないだろう。

結果を期待しておこう。

さて、ティオーのデビュー戦に話を移す。

12月初日のデビュー戦（芝1800、晴、不良、1人気）では上がり最速を出して圧勝。

3週間後のオープン戦（芝2000、晴、良、3人気）や、年が明けてから2週間後のオープン戦（芝2000、晴、良、1人気）でも上がり最速で勝利。

帝王の名に違わぬ強さを見せつけていった。

その後は3月の若葉Sまで休養。

こんなに勝ちを繰り返しているとチームスピカへの注目も集まり、メディア対応も増え、トレーニング以外でも忙しくなってきた。

まだデビューしていない私やゴールドシップにすら「こんな強いチームのメンバーだから何かあるのだろう」と取材がきた。

私は程々に答えていたが、ゴールドシップは何の関係もない単語を強引に繋ぎ合わせたような返答を返して取材陣を困惑させていた。

発言をよくよく噛み砕き反芻すれば意味が分かるようになつていいのが余計タチ悪い。

ただtwitterに関しては何も言われなかつた。

上げてるのがゲームと飯の画像ぐらいしかないから当然ではあるか。

プロフィールに所属を書いていなかつたらその辺のアカウントと区別できなんじやないか？

ただ、ほんどいなかつたフォロワーがいつの間にか急増していたので「これがブランド力……！」と一人感心していた。一連の投稿のどこにフォローする価値を見出したのか、全くもつて不思議である。

取材に来るということは取材代が出る。さらにレースの賞金も入る。つまりトレーナーの奢りが増える。

うーむ、私だけ得をしている気分になる。貰えるものはありがたく貰っていくが。

折角なので深夜にラーメンの画像をツイートするよう予約しておいた。私をフォローしたことを後悔するといい。

さて3月。

まずはマツクイーンの阪神大賞典。

芝3000、晴、良、1人気。

結果は上がり最速を叩き出して堂々の1位。

天皇賞への準備は万全と言つたところか。

その1週間後の若葉S。

芝2000、晴、稍重、1人気。

こちらも上がり最速で勝利。

クラシック初戦の皐月へと意気揚々と進む。

メディアも「春のG1はスピカのものだ！」とこぞつて書き立てる。はいそうですね、メディア対応が死ぬほど忙しくなります。レースが国民的娯楽になつていては知っているが、まさかここまでとは思つていなかつた。

テレビカメラが何台来たのかは途中で数えるのをやめた。

トレーニングの邪魔になるかと思つたが、あの二人の集中力は素晴らしい、ほぼ意に介していない様子。

それと他のチームのウマ娘を見かけるようになつた。
十中八九偵察だらう。

私の元にも、マックイーンやティオーの様子を聞き出そうとするウマ娘が来るようになつた。

追い返す気は無い。むしろドンドン見て聞いて行くといふ。
そして彼我の実力差に絶望するといふ。

あの二人は、強いぞ。

そして、4月を迎える。

後

9. 運命は

前

5月になつた。

え？ 4月？

勝つたに決まつてゐるだろ、あの二人だぞ！

皐月の2週間後に春天があつたのだ。

こうなると常に祝勝会やつてる氣がして来る。

ティオーは無敗三冠の一歩目、マックイーンはメジロ家念願の天皇賞の楯を手に入れた。

ティオーの次走はもちろんダービー。

マックイーンは宝塚記念でライアンとの再戦を控えている。

あーあ、こっちでもレースに賭けられたらよかつたのに。

そうなつた場合、今頃ティオーもマックイーンもATM扱いされといそ
うではあるが。

といふか賭けれないのにURAはどこから利益を得てゐるのだろうか。

一応、レース場への入場料とライブのチケットがあるにはあるが。後はウマ娘の関連グッズとかか。

それだけで賞金稼げるのか？

……いや待つた、前世のどこかのタイミングでオグリキャップによ

る競馬ブームの経済効果は数兆円規模とか聞いたことがあるぞ。

そして前世以上にレースが人気なこちらの世界だつたらグッズの売り上げがそれはもう凄まじいことになつてゐるんぢやないか……？

そういえば、たゞなさんがグッズの売り上げの利益をトレーナーと話していたのをどつかで聞いたような……そしてトレーナーの顔が蒼白を通り越して無色になつていたような……

……これ以上は考えるのをよそう。お金の話つて怖い。

さて、チームメンバーの私はいよいよ隠れづらくなつてきた。

まだ選抜レースすら出ていないのに、ゴールドシップと共に記事が作られていたことがある。

やめて……広めないで……伏兵にさせて……

いやマックイーンと似たようなローテ組めばいいか。そうすれば「マックイーンと同じローテだから問題ないな」と菊花まで引きこもつても不審に思われずに済む。

よしクラシック期にデビューしよう。後は夏の後までお休みだ。一応デビュー後に負け続ければ評価は下がるには下がるのだが、わざと負けるのは駄目だ。

どうにかして最低限勝つて、しかも評価を下げるような勝ち方をしなければならない。

難しいなあ……

周りに「これフロツクだろ」と思わせるようなレース展開を、誰にも気付かれないように作り出さなくてはならない。

走つている時に脳みそが焼き切れそうだなあこれ。

「スピカメンバーだから強いだろう」という先入観を裏切れば普通に負けるより評価は下がるだろうか。

自分自身を罵にかけるように他のウマ娘を誘導するのか？

初戦であれば全員からマークが来そうだからそれを参考にしつつ再現して行くか。

ただまあこれをするのが非常に難しいのだが。

一応デビューまで1年弱あるのだからゆっくり考えるとしよう。

さて、本日は5月26日。

いよいよ東京優駿、日本ダービーの日だ。

ティオーが勝つのは決定事項ではあるのだが、私にとつて重要なのはティオーの脚だ。

今までの助言で何か変わるのか。それを見届けねばならない。

ティオーに言つたのは「負担のかかる走り方は切り札として温存した方がいい」。

トレーナーに言つたのは「ティオーの脚を毎レース後すぐに検査した方がいい」。

実際に、皐月の時はあの負担のかかる走りをほとんどせずに勝つことができた。

その影響で、前世より若干バ身差は小さかつたが。

走法の変化程度ならレース結果自体は変わらないのだろうか。

しかしトレーナーは若干骨に疲労が溜まっている兆候があると言っていた。

であればやはり折れてしまうのか？

私の生命に繋がることであるため細心の注意を払わねば。

ファンファーレが鳴り、レースが始まる。

ただ彼女の脚のみを見つめる。

頼むから折れないでくれ——

「トウカイティオー抜けた！　トウカイティオー抜けた！　トウカイ
ティオー抜けた！　リードは2バ身から3バ身！　もう打つ手は無
い！　もう打つ手は無い！　トウカイティオー、二冠達成!!」

——どうだつ!?
脚は!?

おそらく異常なしに見えるが……

……いや、これは——

——トレーナー!

「——ああ分かってる！　クソツ、左か！　おい！　ティオー止まれ
！」

ティオーも若干の違和感を感じたのか大人しくトレーナーの指示
に従う。

無敗二冠に沸いていた場内の雰囲気が、困惑とどよめきに変化して
行く。

ティオーが救護室に運ばれてしばらくの後、アナウンスを告げる音

が鳴った。

「会場にお集まりの皆様にお知らせです。第11R・東京優駿にて勝利したトウカイティオーですが、脚に故障が発生したためウイニングライズへの出演は取り消されます。繰り返します。第11R——」

会場の一部で悲鳴が上がった。

「おはよう、ティオー」

「あ、おはよう……」

翌日、入院したティオーの見舞いに行つた。
挨拶もどこか元気がない。

不安で眠れなかつたのか、目元に隈も出来ていて
ティオーの脚の検査を行つたところ――

「骨にヒビ、か。早く治るといいね」

「……うん、夏の半ばまでには復帰できるつてさ。早く治して菊花賞を勝たなくちゃ、ね」

——骨にヒビが入った程度で済んだ。

これはつまり、助言程度であつても、故障という大まかな事象は防げなくともより重い症状は回避できるということか。

しかし元々出走できなかつた菊花に出られるのだ。

運命は変えられると見て問題は無さそうだ。

だがしかし、たとえ復帰できたとしてもティオーには厳しい戦いになるだろう。

ティオーと並走していると、3000はティオーにとつてやや長過ぎるように感じられた。

長距離のためのトレーニングも、怪我のリハビリのために開始が遅れるだろう。

その間にも他のウマ娘はトレーニングを重ねて行く。

それをティオーも分かっているのか、表情に焦りが見られる。

しかし、あのトウカイティオーなのだ。

もしかしたら奇跡を見てくれるんじやないか、と思う。

さて、ダービーが終わつたということは、いよいよデビュー戦が始まるということだ。

運命が変えられるのなら。

同世代に一人、絶対に運命を変えなければならぬウマ娘がいる。

そのために、デビュー戦に出る前からそのウマ娘に接触して説得しなければ。

昼休み、隣のクラスに向かう。

「——失礼、サンエイサンキューって今いる?」

——やつと説得が終わつた。

直接聞いてみると本当にクソみたいな環境に置かれているなこの子。

状況はやはり前世と似たようなもので、「父親の会社が上手くいかないのを自分が稼いだ賞金でなんとかしなければならないから、できる限りレースに出続ける」というもの。

こんなもん通報したら一発アウトなレベルである。

前世では3歳時に7戦、4歳時はほぼ毎月レースに出るという最悪なローテーションを組んでいた。

むしろよく有馬記念まで故障しなかつたなど。

私の後ろで痩せ衰えた馬が苦痛に喘いでいたのを思い出す。

彼女を「クソローテやめる、勝てるレースも勝てなくなる、G1勝てる実力はあるから数絞つて稼げ」と必死に説得してやつた。

有馬記念までが非常に辛いことになるし、何よりその後が最悪過ぎる。

本来なら安樂死となるレベルの骨折であるが、馬主が「繁用牝馬にすれば金が稼げる」からと治療を続行、そのまま苦しみ続けることになっていた。

もし、こちらの世界でも同じことになつたら。

本当に考えたくもないことになつてしまふのではないか。

説得していくても「私が稼がなくちゃ」「お父さんは悪くない」などとウジウジしていたため「レース中に足折って死んでも知らんぞ」と半ば脅迫まがいのことをしてしまった。

まあ一応納得はしたようだし、他のウマ娘にも聞いてみろとも言って置いたから大丈夫だと思うが……

これで周囲の人間全員が曇ることは避けられたのだろうか。

もし競馬の神とやらがいるのなら、そいつはかなりの性悪作家だろう。

変えなければならぬ運命が多すぎる。

10. ユメヲカケル

まえ

また夏がやつてくる。

マックイーンは宝塚で残念ながらライアンに負けてしまった。
その後スイーツをやけ食いしていたことを思い出す。

そんなに食べたら太るぞと忠告してやつたのに「それは明日からの
私が考えますわー！」と抜かしやがつた。

きっと某球団が負け続きのせいもあるかもしれない。

しかしコイツの芸人適性の高さは一体何処から来たのか。

以前メジロ家のウマ娘と会つたことがあつたのだが、メジロアルダ
ンは清楚なお嬢様の見本みたいな人だつたのに、どうしてここまで差
がついたのか。

青は藍より出でて藍より青しとは言うが、マックイーンの場合は虹
色に光り輝く不純物のように思える。

これでレースはクソ強いのだから不思議なものだ。

さて、ティオーは現在メジロ家のリハビリテーション施設に缶詰にな
なつて いる。

「菊花に出て勝つ！」と張り切つて治療に専念している。
注射からは逃げ出すのだが。

以前逃げるティオーを取り押さえたことがあつた。

酷く嫌がるティオーに、工具で手をやらかすよりは全然痛くないと
言つてやつたら凄い目で見られた。

一時期機械いじりにハマつたことがあり、その時にちょっと事故つ
ただけなのだが。

別に隠すものでも無いかと残つた傷跡を見せたらドン引きされた。

その隙に注射が打たれた。ティオーは独特な声で鳴いた。

直後に私が主治医に捕まつた。

そのまま連行されて傷跡を治療された。

唐突だつたので驚いたが、痕が綺麗さっぱり無くなつていたので技術の高さに驚いたものだ。

ちなみにマツクイーンはこの後ダイエットに苦しむ羽目に陥つた。
馬鹿じやねえの？

ティオーも復帰して、再びの夏合宿に向かう。

私のデビューはまだまだ先だが、本格化も既に来ているのでゴリゴリ鍛えていく。

しかし本格化というものは厄介で、ゲーセンの滞在時間がドンドン伸びていつてしまつた。その分スコアを詰められるから良いのだけれど。

ただ本格化が來ても身長は伸びなかつた。胸は若干デカくなつた。正直邪魔。

ミホノブルボンもサクラバクシンオーもあんなデカいものぶら下げてよく走れるな。絶対痛いと思うのだが。

そういうえばゴールドシップつていつデビューするんだ？

トレーニングの休憩時間。

ちよつと試したいことがある。

軽い靴に竹を加工したものを取り付け、接地面積を広げる。

その作業をトレーナーや他三人が見つめて来る。

まあ期待しておくといい。

人間や馬には不可能だろうが、ウマ娘の軽さと膂力ならば。

靴を履き、海に向かつて走る。

そのまま海面の上へと——

「——行けた！」

海の上を走ってしまった。

いやまさか本当に出来るとは。

陸地にいる四人から驚愕の目線を感じる。

正直かなり走りづらい。バランスが崩れる崩れる。

だが、m○i m○i やD○Rで鍛えた体幹は伊達じやない。

ゴリ押しで海の上を走つて行く。

少しでも足を止めると沈んでしまうので、大きく円を描いて元の場所に戻る。

「なあライス！　なんだよ今い！　その靴貸してくれよ！　頼む！」

「え、ええつと、靴のサイズ合わないから新しく作るしかないよ」

「じゃあ作り方を教えてくれ！」

陸地に着くと真っ先にゴールドシップが詰め寄つて来た。こういうの好きそうだもんね君。

「ボクなら合うんじゃない？　貸してよ！」

確かにティオーならば履けるだろう。
早速ティオーに貸した。

ティオーは意気揚々と海に向かつて行き——

「わっ、と、あっ、ああっ！」

すぐに海にダイブした。

しかしこの程度で諦めるティオーではない。やがて4度目で走れるようになった。

海の上を走るティオーを見ると、何処かで見かけたゲームを思い出す。

何だつたつけアレ、女の子が海の上で砲撃し合うやつだった気がする。

そんなことを考えていると、トレーナーが近寄って来た。

「なあライス、アレ全員分作ってくれないか？ アレはいいトレーニングになる気がしてな……」

「え、あー、その……」

「後で焼肉奢るか r 「やります」 ……判断はええな……」

おいそこ、チョロいとか言わない。

今日は休息日。

ボクたちは旅館にあつたカラオケの機械でスコアを競つてる。みんな、選ぶ曲には個人差があつて。

ボクは「恋はダービー」とか「SEVEN」とか。

マックイーンはライブの曲ばかり。

ゴルシは般若心経とか4分33秒とかの何でカラオケにあるのか分かんない曲。

ライスは雑多なのかな。邦楽洋楽限らず、聞いたことない言語の曲も歌つてた。「conflict」っていう曲らしいけど、なんて言つ

てるのかさつぱりだつた。

まあどんな曲でもボクが1番だけね！

ただトレーナーも結構上手かつたな。
たから思わず笑つちやつたけど。
選曲がうまいよい伝説だつ

で、マツクイーンがユメヲカケルを歌つてた時。

一限界だつて超えてみせる、ねえ……」

つてライスが咳いてた。

何か思うところでもあるの？

……超えちゃいけない限界だつてある、つてだけ」

この時のライスの目が。

卷之三

多分、過去二回の恨み、は、二三ざつ

絶対に聞いたらいけないことだつて思つた。

「イフは怪我を恐れると云ふがあるのせ
これが原因なんいやなし

氣二ならサジ、用分が二の語のミジは聞かね、ド二の二う。

「うああああああああああああああああああああああああ!!」

ティオーの必死に喘ぐ声が聞こえる。

走っている距離は3000メートル、菊花賞と同じ距離。

ただ、残り200メートルが——伸びない。
何度繰り返しても、目標タイムに届かない。
間違い無く、距離適性の壁だ。

ティオーの顔に焦りが浮かんでいる。

ダービーの後に骨にヒビが入り、それを必死に治して来たのに、今度は距離適性という新たな障害が現れたのだ。

しかも、ダービーで骨が折れかけたという事実が、無自覚のうちに心に壁を作っている。

ティオーの往く道は、何故こんなにも苦しいのか。

数日後、ティオーがチームメンバーを呼び寄せた。
何の用かと思っていたら——ティオーが頭を下げた。

「お願い！ みんなの時間をボクに全部ください！」

「見てて分かったと思うけど、マトモにやつたら3000メートルを走りきれない」

「だから、どんな手を使つても勝ちを狙いにいく！」

「マックイーン、ゴルシ、ボクの前を走つてください！」

「ライス。 キミの、——キミのマーク技術をボクに全部ください！」

急に何を言い出すかと思えば、敬語まで使って要求してきた。

基本的にあらゆる分野において、技術というのは資産だ。

特にここはレースの世界。

それなのに、技術をタダで寄せせといふことのどれだけ無茶なことか。

ああ、しかし、だと言うのに。

「…………本気で行くけどいいんだな？」

「つ！ 分かってる！ ありがとう！」

私は、彼女に夢を賭けているのだから。
全く、愉快なものだ。

あと

11. 三冠は成るか

まえ

秋が来た。

マツクイーンの秋天も、事前に忠告しておいたおかげか斜行せずに1着を取り。

いよいよティオーの菊花賞の日だ。

パドックに立つティオーは、覚悟の決まつた目で前のみを見つめる。

「1枠1番トウカイティオー、1番人気です」

「怪我からの復帰初戦ではありますが、凄まじく仕上がりがつたバ体ですね。無敗三冠まであと少しです」

チーム全員がティオーをじつと見つめる。

私があれほどシゴいてやつたんだ。
負けたら承知しないぞ。

そう意を込めてティオーに視線を送る。

ティオーは私の目線に気づくと、若干目をそらした。

待てや。

「やつほー、ティオー」

「……ナイスネイチャ?」

返しウマの時、ティオーにネイチャが声を掛けた。

その後ろにはレオダーバンやイブキマイカグラ、シャコーグレイド等もいる。

「怪我、ちゃんと治つたんだね。一緒に走れないんじやないかってヒヤヒヤしてたよ」

「当然でしょ。怪我ぐらいで止まつてなんかいられないから」

「……はは、アンタはそういうウマ娘だつたねえ…… 夢に真っ直ぐで、キラキラしてて……でもね」

ネイチャやその他のウマ娘の眼光が強まる。

「……私達は、トウカイティオーの無敗三冠をただ祝うために来たんじゃない。復帰明けだからって容赦はしない。夢を碎こうとも構わない。

——アンタに、ティオーに勝ちに来た！」

帝王への、革命者共の宣戦布告。

「——ボクだつて、負けるためにここに来たんじゃない。夢を成しに来た。

鬼に鍛えられたんだ。いかなる手を使おうとも、ボクはキミたちに勝つ！」

ティオーから、尋常ではない圧が噴き出す。
恐れる者、慄く者、——悦ぶ者。

意志が、夢が、全てがぶつかり混じり合う。

ファンファーレが鳴り、ゲートに入つて行く。

トウカイティオーフジヤマサンゲンが、ゲートインにやや時間がかかる。

「各バゲートイン完了——スタートしました第52回菊花賞！各バ綺麗にスタートを切りました、出遅れはありません。

まず先陣を切ったのはフジヤマサンゲン、そのすぐ後ろにフジアンバーワン、一バ身半離れてホクセイシプレー。

さて注目のトウカイティオーフジヤマサンゲンは中団、サクラヤマトオーフジアンバーワンの後ろにピツタリとつけています！」

トウカイティオーフジヤマサンゲンがマークしている。

これは予想できたウマ娘が少なかつたのか、やや動搖が見られる。特にマークされているヤマトオーフジヤマサンゲンはかなり焦っていた。

(トイオーフジヤマサンゲンがマーク!? しかもこんなに近くで!?『いかなる手も使う』って言つてたけどさあ!)

11番人気だつたのにマークされているという予想外への焦り。背中に感じる凄まじい圧。

何よりそれを行なつているのがトウカイティオーフジヤマサンゲンなのだ。

当然ではあるが掛かってしまう。

何よりスタート直後の3コーナーの坂のことだ。

しかし4コーナーの中頃でヤマトオーフジヤマサンゲンは何か落ち着きを取り戻

し、スタミナを取り戻そうと速度を下げる。

ある程度下がつたところでティオーはヤマトオーの後ろを離れ、次にワンモアライブの後につく。

この時点で他のウマ娘がティオーの作戦に気付いた。
潰れるまでマークし、切り替えて行くのだと。

(クソがつ、まるでカエル飛びかよ!)

何人かは悪態をついた。

一度でも後ろに付かれるとマズい。おそらく適当な近くのをマークしている。他のヤツに押し付けなければ。
ティオーから離れていこうと、前へと前へと行つてしまい――

「さて1000メートルの通過タイムは58・9、かなり早いペース
になっています!」

――異常なハイペースを生み出した。

前がティオーにぐちやぐちやにされているのを、ナイスネイチャは
見ていた。

(うひゃー、なかなかにエゲツないことやつてんなー。ちゃんと斜行しないように行つてるし、他は斜行しないように動かなきやいけないし。後ろで正解だつたな)

差しや追込にとつてハイペースは有利。であればこのままティオーニ勝手にやつてもらうのが得策か。

しかし垂れて来たウマ娘を回避していかなくてはならない。前を塞がれると厄介だ。

垂れウマに対処している間にも、ティオーニは死神の如く一人ずつ狩つていく。

前に逃げて行つたウマ娘も、その分スタミナが削られていて――

「さあ第3コーナーの坂に入つて行きましたが、先頭集団が大きく減速！ やはりハイペースでスタミナが尽きたか？」

一気に先頭集団との差が縮まる。

そしてティオーニが抜け出した。

今までスリップストリームでスタミナを温存し続けて來たのだ。

このままではティオーニの一人勝ちだ。

そして後方で控えていたウマ娘も次々に抜け出して行く。

そのまま先頭集団を抜き、そのままティオーニを抜き――

ティオーニを抜いてはいけないことに気づいた。
即座にティオーニにマークされてしまう。

そんな哀れな一人を見ながら、レオダーバンは先頭へと抜け出して

行つた。

坂を下るとき、ティオーが内から抜いて行くのがチラリと見えた。
そしてティオーの圧が来る。次はお前だと告げる。

——私の後ろに来るんじゃない！

すぐ後ろのヤツにマークを押し付けようと、若干外に寄つた。
寄つてしまつた。

「さあ内からトウカイティオーが一気に抜け出したあ！ 残り400
メートル！」

最内をティオーに抜かれた。直後に自分の失策を呪つた。

(クソッ、やられた！ ——だが、あんなにかき乱してたならスリップ
ストリームがあつてもティオー自身のスタミナはそこまでないハズ
！)

「——ああああああああああああつ！」

「レオダーバンも負けじと追い縋る！ 外からはナイスネイチャ、イ
ブキマイカグラも来ている！」

四人が並び、抜かし、抜かされ、そして残り100メートル。

ティオーは自身のスタミナが尽きかけているのを感じていた。

レオダーバン、ナイスネイチャ、イブキマイカグラ。おそらくまだ
伸びる。

このままでは抜けない。

そう、このままでは。

(切り札は、最後まで取つておくものだあつ!)

ティオーステップ。足を思いつきりぶん回す。
脚への負担が急増する。左脚に嫌な痛みが走る。
ライスの言葉を思い出す。

(これが『超えちゃいけない限界』かもしれない。本当に痛いし怖い。
でも――)

「ボクは、負けられないんだああああつっつ!!!」

ゴール板を――僅かに抜け出し、突き抜ける。

「――トウカイティオーラ着!! 見事無敗三冠を達成しました!!!」

その実況を耳にして、トウカイティオーはぶつ倒れた。

あと

12. 記者会見でバラすな

前

【無敗】菊花賞記者会見実況スレ 【三冠】

1：レース好きの名無し
始まりましてよ

2：レース好きの名無し
きちやあ

3：レース好きの名無し
ティオ一車椅子やんけ

4：レース好きの名無し
また折れたんか

5：レース好きの名無し
△△4

1回目はヒビ入つただけだろ！

6：レース好きの名無し
有馬エ……

「トウカイティオーさん、無敗三冠達成おめでとうございます」
「ありがとうございます」

「ではまず、――」

15：レース好きの名無し
まあ無難な質問が続くな

16：レース好きの名無し
当たり障りのねえな
もつと弾けろ

17：レース好きの名無し

▷▷16

いや中央にしては珍しいマトモなウマ娘やぞ
マトモ枠を減らすな

18：レース好きの名無し

▷▷17

マトモ……？（クリークを見ながら）
まあ比較的マトモか……

19：レース好きの名無し
そいつは上澄では……？

20：レース好きの名無し
アレは後ろで魔王流れてるよ

「週刊テールズの木志屋です。今回、肉体をかなり絞られたようですが、普段よりも負荷の高いトレーニングをなさつていたのですか?」

「……うん、まあ、はい。

いや、その、スピカの皆さんに『全力で協力してほしい』つてお願ひしたんだけどね。

その内の一人がすっごくスバルタで、怪我明けのウマ娘にやらせる量じやないでしょっていうか、そのく……」

33：レース好きの名無し
なんか始まつた

34：レース好きの名無し
目が死んでて草

35：レース好きの名無し
……何があつたんです?

「まずお願ひした次の日にトレーニングシユーズ山ほど買つてきて、何かと思つたら『とりあえずまずは一週間でこれ全部履き潰して』って言つて来たんだよ!?

しかも後ろからメチャクチャ追い立てて来るし!

疲れ切つて倒れてたら首筋にいきなり冷却スプレーぶつかけて来

たし、びっくりして跳ね回つたら『まだ動ける体力があるなら次行こうか』って脅してくるし！

しかも全部のトレーニングボクと同じことやつてるから休むに休めないし！」

45：レース好きの名無し
ヤバすぎて草

46：レース好きの名無し
誰だよそれやらせたの

47：レース好きの名無し
スバルタつてレベルじやねーぞ！

48：レース好きの名無し
完全に愚痴で草

49：レース好きの名無し

△△46

一緒にやつてたならトレーナーじゃなくてウマ娘だろ

50：レース好きの名無し
これできるのマツクイーンぐらいでは……？

51：レース好きの名無し
マツクイーンがこれやらせるか？

「夏合宿でポニョのコスプレして海の上走ってたのと同一人物とは思えないと?」

57：レース好きの名無し
ライスシャワーかよ!!

58：レース好きの名無し
ええ……（困惑）

59：レース好きの名無し
すまん、ポニョのコスプレってどういうこと?

60：レース好きの名無し
相変わらず見た目とやつてることが一致しねえ子だなほんと

61：レース好きの名無し
△△△59

これ

https://twitter.com/rice_shower
/status/.....

62：レース好きの名無し
△△△59

本人ツイッター見ろ

63：レース好きの名無し
▷▷61

何度見ても笑うわこれ

64：レース好きの名無し
▷▷61
えつ何これは……

65：レース好きの名無し
▷▷61

21万ファボは草

66：レース好きの名無し
▷▷61

ウイッグで隠しきれてない髪の毛 一810点

クツソ適当な服 一1919点

8bitサングラス +8888点

最後の華麗な転倒 +114514点

うーん完璧

67：レース好きの名無し

固定ツイートもアイコンもこれなの草

68：レース好きの名無し

何すか スピカって面白いやつしかいないんすか

69：レース好きの名無し

こんな子がさつきのスバルタやらせつつ同じことやつてたつてマ

ジ?

70：レース好きの名無し

>>61

これ youtuber のウマ娘が挑戦してはことごとく失敗して
るの、やっぱ中央ってすごいわ

1番上手く行つたのでも静水の25mプールを超えたぐらいだし

71：レース好きの名無し

>>70

波立つ海の上を走るとかエツグい体幹いるだろうしな

72：レース好きの名無し

カメラ、ライスシャワー映したな

73：レース好きの名無し

顔草

74：レース好きの名無し

苦虫数十匹噛み潰したような顔してるやんけ

75：レース好きの名無し

見た目は可愛いよね

なお中身

76：レース好きの名無し

ライスシャワーのツイッター、飯とゲームしかなくて草
しかもやってるのsteamゲーとか音ゲーばっかりやんけ

77：レース好きの名無し

>>76

地味に音ゲークツソ上手いしな
セガ三機種虹レートは強い

78：レース好きの名無し
△△77
ヒエツ…：

「月間トウワインクルの乙名史です。よろしければ次のレースをお聞
かせ願えますか？」

「えーっと…トレーナー？」

「あ、俺が答えます。

まあ、こんな状況ですので有馬は回避します。
で、次走ですが、皇帝を超えるという目標の下、シンボリルドルフ
が取れなかつた海外G1を目指し――

――ドバイシーマクラシックを考えています」

91：レース好きの名無し
ドバイシーマ!?

92：レース好きの名無し

マジかよ

93：レース好きの名無し
まあ欧米よりは日本の芝に近いしな

94：レース好きの名無し

そういう今まで海外G1勝つた日本のウマ娘つていなか

95：レース好きの名無し

ドバイシーマつて何

96：レース好きの名無し
ターフじやなくてシーマか

97：レース好きの名無し

>>95

ドバイ芝2410

1着賞金はなんと348万米ドル（3億9672万円）

98：レース好きの名無し

>>97

2400mで作ったつもりがゲート入れる幅のこと忘れてて10
メートル伸ばしたの好き

99：レース好きの名無し

次走海外か

100：レース好きの名無し
初海外G1勝利願つてるぞ

あと

13. デビュー戦

前

1月になつた。

有馬記念はやつぱり「これはビックリ」してしまつた。あの状態のダイユウサクに勝てる算段が思いつかなかつたので、マックイーンには何も言わなかつた。
まあダイユウサクの劇的勝利を奪うのが気が引けるからでもあるが。

さて、とつぐにデビューしていたミホノブルボンは無事に無敗で朝日杯を勝つた。

菊花までその調子で頼むよ。

そうそう、ホープフルステークスで面白いことが起きた。

——マチカネタンホイザ、1着。

いやあまさかタンホイザが勝つとは。

馬時代ではずつとG1を勝ちきれなかつた奴だつたのだが、こつちで新設されたG1に勝てたのでよかつたんじやないか？

もしかしたら私が死んだ後に実はG1勝つてました、なんてこともありますかも知れなけれど。

ちなみに私の元に「はよデビューしろ」「皐月もダービーも出る」「ちくわ大明神」「なんでジュニア期出ないの」などと数多くの催促が来ているのだが、「距離適性外なので出ません」の一点張りでなんとか通してきた。

まあマチカネタンホイザが注目を引つ張つてくれただろうしやつと地味に行けるんじやないかな。

ていうかタンホイザって朝日杯もホープフルも出てたんだよな
……中2週しか空いてないのに勝ったのか……いやスゲエなアソツ
……

今日は私のデビュー戦だ。

未勝利と一勝クラスだけはとつと突破して暫く休む予定だ。

……なのだ、が。

周りから凄まじく警戒されている。

何かそんなに警戒されるようなことしたつけ。

全く心当たりが無いのだが。

あーアレだ、スピカ所属だからか。

なんだじやあ想定通りじやん。だつたら気楽に行こうか。

このレベルの面子なら何も考えなくとも勝てるだろ。

「6番ライスシャワー、完全に包囲されています！ 残り310メートルしかありません！」

——何だよこれテメエらふざけんな!!

前後左右完全に囲まれたまま最終直線だよ、この「規制済み」ども
め!!

警戒にも程があるだろ!!

お前ら絶対裏で結託してただろクソがあ!!

これ抜けねえぞ、どうすんだこれ。

一応抜け出そうと思えば出来なくはないのだが、無理に突破することになるし、なにより怪我をさせてしまうのはマズい。

ていうかここから抜け出すのは今後の予定を考えると良くないな。そもそもこの状態から1着取れるやつは霸王か何かだろ。

よし、今回は諦めよう。

ただ掲示板には入らないと流石にマズい氣がする。

最後の直線なので、包囲していたウマ娘が前へと抜け出して行く。そうして出来た隙間を突いて進み、なんとか4着に滑り込む。

あーもう面倒な、2週間後にもう一度だ。

次作戦どうしようか。「囮なんだら勝てる」って思われただろうなコレ。

なんてことをしでかしてくれたんだ、まつたく。

というわけで未勝利戦。

まーた凄い警戒されてる。

返しウマの時、スピカの連中に呼びかけられたので向かう。

「なあ、多分また囮まれるだろうけど作戦はどうするつもりなんだ?」

「作戦? ええと、色々考えたけど、何も考えないことにした」

「ん? それってどういう……?」

「ああ、つまり——

——私、ツインターボになります」

「「「……え?」「」」

まあ見てなつて。

「ライスシャワー、逃げる逃げる！　囮まれるのを嫌つたか、6バ身、7バ身と差をつけて行きます！」

「ウソ、ライス本当にやつちやつたよ……」

「確かに囮まれはしませんけれど……」

「だからつてツインターボはねえだろ……」

仕方ねえだろ1番思考が楽なんだもんコレ！

ツインターボもこつちじやかなりバカになつてゐるし、これならただバカみたいに走るだけで済む。

そうちうツインターボ、あのオールカマーのことは忘れてないからな。

体力を使い果たすのはよろしく無いので、ほぼ勝ちが確定したら急速にペースを下げる。

コレで周囲に逆噴射したと思わせておく。

ぶつちぎりで勝つよりも、勝機をチラ見せしておいた方が突つ込んで来てくれるからだ。

そのまま1バ身差まで落としてゴール板を駆け抜ける。本当に面倒が増えた。アイツら許さんからな。

次はまた二週間後、二月頭に1勝クラスだ。
さて、初めてのウイニングライブの準備をしなければ。

え、何この服、めっちゃ腹出てるじやん。露出度高すぎんか？

皆こんな服で踊つてたの？ マジ？

あの後、一勝クラスは一発で通過出来た。また破滅逃げしただけではあるが。

3月になつてすぐに、ティオーがドバイに飛んだ。

マックイーンの阪神大賞典ぐらい見ていけばいいのにと思つたけれど、絶対に勝つために早くから体を慣らしておきたいらしい。

馬だつた頃にはドバイなんて無かつたからわからないが、日本の芝と似て いるらしいから特に問題は無いと思うけれど。

「カイチヨーを超えるんだー！」 とうるさく旅立つていつたのを思い出す。

ただ若干私から逃げるように行つたような気がする。
別に何もしないのに、何で逃げたんだ？

それと、とうとう同室の先輩が卒業した。
すぐには就職せず、大学に行くらしい。
4月になつたら新しい同室が来るので。
マトモなウマ娘だつたらいいけれど。

チームスピカ総合スレ Part103

396：レース好きの名無し
【速報】ライスシャワー、一勝クラス突破

次は6月頃の予定

397：レース好きの名無し
まあ抜けるやろな

398：レース好きの名無し
今回もクツソ逃げてて草

399：レース好きの名無し
△△398そら初戦で完全包囲されたからな
まあしやあない

400：レース好きの名無し
まーた逆噴射してよ
勝つてるからいいけど

401：レース好きの名無し
なんでクラシック出えへんのや

402：レース好きの名無し
△△401

距離適性つてあれほど

403：レース好きの名無し
△△402

ライスの適性つてどんぐらいやねん
皐月もダービーもスタミナ足りるやろ

404：レース好きの名無し
△△403

逆や

適性が2800→だから短すぎるんや

405：レース好きの名無し

▽▽404

あーなるほど、伸ばせるけど縮めるのは難しいからな

406：レース好きの名無し

ライスシャワー「菊花はとるで」

407：レース好きの名無し

▽▽406

超長距離適性なら海外とか行けばいいやんけ

408：レース好きの名無し
確かに

409：レース好きの名無し

▽▽407

ライス「賞金低い知名度低い、なんでわざわざ行かなくちや行けないんですか？」

409：レース好きの名無し

▽▽410

ライスはそんな口調で言わね〜

411：レース好きの名無し

言うには言うのか……

412：レース好きの名無し

実際にツイッターで言つてたし……

413：レース好きの名無し
次のスピカつてどこ行くんや

414：レース好きの名無し

▷▷413

3月にマツクの阪神大賞典からの、ティオーのドバイ
4月にマツクの春天

415：レース好きの名無し

サンガツ

まあ勝つやろ

416：レース好きの名無し
ドバイはオペラハウスとかヘクター・プロ・テクターとか出るんだよ
なあ……

417：レース好きの名無し
ヒエツ

後

14. 季節は巡り

前

夏がまたやつてきた。

今までの出来事を軽く説明しておく。

まず新しい同室がやつてきた。

聞き覚えの無い名前なので、ある程度戦績が予想できてしまうのだが、未勝利でもめげずに頑張って欲しい。

レガシーワールドみたいな急に覚醒するパターンかも知れないし。

次はスピカの戦績。

トウカイティオーのドバイシーマクラシックは、オペラハウスにアタマ差で2着に敗れてしまった。

残念がるファンもいたが、復帰明けでこの結果なら、と期待するファンも多くいた。

どうやらあちらでライバル宣言して来たらしく、次に会うのはジャパンカップになるとのこと。

ドバイは新設だからよく知らないが、この年のJ.Cはティオーが勝つはずなのでもしかしたら雪辱を果たすかもしれない。

マツクイーンに関しては特に言うことが無い。

だつて普通に春天勝つてくるんだもん。

強すぎて退屈でつまらないウマ娘だと世間も言い始めた。

「つまらないとは何ですか！」と本人はやや不満そうにケーキを貪つていたが。

強いつて言われてるんだからいいじゃん。

その次はティオーの宝塚。

これはまた新たなローテーションだ。
というかもう完全に別物では。

ここでメジロパーマーに勝つてもらわないと春秋グランプリ連覇を阻めないので、頑張つてティオーから逃げ切つてほしい。

——と思つていたのだが、ティオーがトレーニング中に怪我。秋まで出走できることになつてしまつた。

SNS等でも「またかよ」「でしようね」「ノルマ達成」「ちくわ大御神」「ドバイでライブ踊れたの奇跡では」などと散々に言われてしまつていた。

しつかし相変わらず怪我の神に愛されているなあこのウマ。
ただのドSな神かもしれない。だつたら滅びろ。

結局宝塚はメジロパーマーが勝利。

もしかして大枠の運命は変えられないんじゃないかという気さえしてきた。

宝塚と前後して私の2勝クラスがあり、難なく突破。

菊花賞前に3勝クラスで収得賞金を稼ぐ予定だ。

さて、少し時を戻してクラシック戦線の話に移る。

三冠路線は、ミホノブルボンとマチカネタンホイザのジュニア級王者の衝突と目されて——いなかつた。

朝日杯でブルボンが強すぎたため、タンホイザではやや力不足と見られていたのだ。

そして、実際そうなつた。

——やはりブルボンは強いな。

あれで身体はスプリント向きつて本當か?
スプリンターにスタミナつけると本当に怖いな。

しかしだなブルボン。

朝日杯のときも常々思つていたのだが。

——何だその痴女みたいな勝負服は。

お前そのスタイルでピッヂリな勝負服つてどうなんだ。
走つてるとき結構揺れてたし。

走りづらいだろそれじやあ。

しかも布面積かなり小さいし。

思わずツイートしたぞ。

絶対そのうちコスプレ服として出てくる。ていうか出たし。

あれ本人がデザインして着てるつてマジか……?

ティアラ路線では、桜花賞では前世通りニシノフラワーが勝利。
しかしオーネクスはなんとサンエイサンキューが勝利。
やつぱり数絞つたらちやんと強いじやんお前。

なんであんなクソローテを走らせたんだ。

時を戻して、今は7月。

私は菊花賞のみに出るのだけれど。

今のうちに勝負服のデザインを業者に提出しなければならない。
これには非常に困つた。

私は模写は得意なのだが創作はどうも苦手なのだ。
さてどうしようかと悩んでいると、ふと名案が浮かんだ。

持つてるゲームのキャラデザを参考にすればいいじゃないか。

早速steamのライブブロードキャストを開いて――

――だめだわ、レースの雰囲気に合うようなデザインのゲームがほとんど無いぞ。

なんてもん買つたんだ過去の私。

使えそうのがLORぐらいしかないぞ。

どうすんだこれ。



ライスシャワー @rice_shower · 昨日 ?
勝負服のデザイン決まらない

56リツイート 2引用ツイート 470いいね

ライスシャワー @rice_shower · 昨日 ?
steamでいい感じのデザインのゲーム買ってたつけな
10リツイート 109いいね

ライスシャワー @rice_shower · 昨日 ?
使えるゲームがほぼ無え!
何してんだよ過去の私!

【画像】

521リツイート 53引用ツイート 5,192いいね

ライスシャワー @rice_shower · 昨日 ?
とりあえずLOR見るか……

150リツイート 19引用ツイート 980いいね

ライスシャワー @rice_shower・昨日
親指も人差し指もシ協会もリウ協会もかつこいいな

【4枚の画像】

310リツイート 29引用ツイート 1,308いいね

ライスシャワー @rice_shower・昨日 ?
シャオ部長、良いな

これ参考にするか

268リツイート 42引用ツイート 1598いいね

ライスシャワー @rice_shower・昨日 ?
カラーリングとか諸々調整してだいたいこんな感じ
あとは業者と相談

【画像】

1,059リツイート 219引用ツイート 1.5万いいね

スピカの黒いアレ総合スレ part21

512：レース好きの名無し
勝負服のデザイン来たな

513：レース好きの名無し
公表するのか

514：レース好きの名無し

まだ企画段階だけどな

515：レース好きの名無し

デザイン元がヤバいんですがそれは

516：レース好きの名無し

コイツのsteamライブラリ、女子学生のしていいやつじゃない

517：レース好きの名無し

>>516

そもそも女子学生がSteamゲーをやりますか……？

518：レース好きの名無し

>>517

だつてライスシャワーだし……

519：レース好きの名無し

これで説明がつくの酷いな

520：レース好きの名無し

元となつたゲーム知らんのやがそんなんにヤバいん？

521：レース好きの名無し

>>520

ストーリーも設定も何もかもが地獄だぞ

買え

522：レース好きの名無し

布面積広すぎい！？

523：レース好きの名無し

割とガツチガチで笑っちゃうんですよね

524：レース好きの名無し
鎧みたいな見えるんですけどその

525：レース好きの名無し

ではここでミホノブルボンの勝負服を見てみましょう

526：レース好きの名無し

>>525

うお……でつか……

527：レース好きの名無し

>>525

いつ見ても股間に悪いデザインだな

528：レース好きの名無し

>>525

ライスシャワー「何だこの痴女みたいな服!?

529：レース好きの名無し

>>525

ミホノブルンブルンボイン

530：レース好きの名無し

>>528

ライスはそんなこと言わん……

……言つてたわ……

https://twitter.com/rice_shower
status/…

531：レース好きの名無し

▷▷528

全視聴者の心の声を代弁したツイート

532：レース好きの名無し

マチカネタンホイザはゆるふわでまともな感じなのにどうしてここまで差がついたのか

533：レース好きの名無し

ブルボンの何がヤバいって全部本人の意志なんだよな

534：レース好きの名無し

コワ～…

535：レース好きの名無し

バクシン：カツコイイ

フラワー：可愛らしい

タンホイザ：ふわふわ

ブルボン：エロい

ライス：厳つい

536：レース好きの名無し

▷▷535

ブルボンはムツキムキのバ体が見られるので筋肉フェチにはいいぞ

537：レース好きの名無し

ブルボンファン「「尻、ごつついなあ」」

538：レース好きの名無し

ていうか勝負服決めたってことは菊花行くのは確定か

539：レース好きの名無し

ライスに勝つてほしい気持ちもあるし2年連続の無敗三冠を見た
い気持ちもある
心がふたつある、

540：レース好きの名無し

ライス勝つたらブルボン教徒荒れそう

541：レース好きの名無し

でもブルボンがライスに勝てるのか?
長距離だつたらライスの独壇場やぞ

542：レース好きの名無し

黒いのが走らんからわからんのや
上がつてる動画もポニョぐらいしか無いし

543：レース好きの名無し

言うてブルボンもダービーでまだ余裕ありそうやつたしな
夏でさらに燃料タンク積んでくる可能性は大いにある

544：レース好きの名無し

ブルボンつてミドルだけ
どつかで本質はスプリンターワーつて聞いたんやが

545：レース好きの名無し

▷▷544

合つてる

ただのスタミナつけまくつたスプリンター やぞ

546：レース好きの名無し

▷▷545

ただ……の…………？（練習メニューを見ながら）

547：レース好きの名無し

あの鬼畜トレーニングを実行できる精神力ヤベエな
何したらそう育つんや

548：レース好きの名無し

ていうかそもそもライスの脚質って何なんや
最近の逃げはただ囮まれるのを回避してるだけやろ

549：レース好きの名無し

▷▷548

デビュー戦とティオーの愚痴インタビューを見た感じ先行
しかもおそらくマーク屋
まだ一度もレースでやつてないから憶測でしかないけど

550：レース好きの名無し

ブルボン先頭でその後ろにつく感じかな

551：レース好きの名無し

▷▷550

キヨウエイボーガンがハナを取る宣言してるからわからんぞ

552：レース好きの名無し

▷▷551

そういうやそとか

ところでボーガンつて3000持つんか？

553：レース好きの名無し

今まで2000以下だからなあ
多分持たない

554：レース好きの名無し
マチカネタンホイザ「あの……あの！」

555：レース好きの名無し
タンホイザって勝てるんですかねえ

556：レース好きの名無し
今までブルボンに勝つことねえしな
実力あるしキツイやろ

557：レース好きの名無し
嘘でしょ……まだ7月なのにもう菊花賞の話してる……

558：レース好きの名無し
今年もポニョ見られるんかな

559：レース好きの名無し
△△558

次は艦この可能性が微レ存……？

560：レース好きの名無し
△△559

えつ、ぜかまし服を着るライスシャワーが見られるんですか!?

561：レース好きの名無し
ぜかましつて何

562：レース好きの名無し

>>>561

……え？

563：レース好きの名無し

>>>562

艦これのリリースが何年前なのか数えて来い
泣くぞ

564：レース好きの名無し

>>>563

やめろ

やめろ

565：レース好きの名無し

今日の老人会会場はここですか？

後

15. 菊花賞にむけて

前 前

さて、どうしようか。

迷っているのは9月からのレース予定である。

取得賞金に関しては、適当な3勝クラスとオープンにいくつか出ればまず足りるだろう。

しかし菊花への叩きをどうするかが決まらないのだ。

出ようと思えば出られるが、出来れば出たくない。

しかし何もせずに本番というのはいかがなものか。

色々考えていると、ふと名案が思い浮かんだ。

レース場を借りて練習すればいいのだ。

こうすれば外部からの目線も気にせず好き勝手に走れる。
あちらで菊花賞の動きを思い出していけばいいのだ。

というわけで早速予約。スピカの連中も連れて行くことに。

マックイーンは残念ながら宝塚前に骨折してしまっているので見
学に近いが。

予定日が来るまでに、菊花賞に出るウマ娘の過去のレースの映像を
確認する。

特に確認すべきなのが、ミホノブルボンとキヨウエイボーガン。

ミホノブルボンは言わずもがな。

キヨウエイボーガンに関しては、彼女にハナに立つてもらわないと
困るのだ。

私がブルボンを抜けたのは、ボーガンがブルボンの前を走り続けた
ことが大きい。

本番でも破滅逃げしてくれるとありがたいのだが。

レンタル日。

スピカの面々には一旦待つてもらい、自分ひとりでとある地点に向かう。

着いたのは4枠8番の位置。

菊花賞の枠番。

目を閉じて、あの時を思い出す。

一つ内のミホノブルボン。
ゲート内の閉塞感。

静まり返る会場。

目を開くと、ゲートの中にいた。

隣の栗毛の馬の重圧を感じる。

心なしか視点も高く、視野も広い気がする。

さあ、あの時の自分を。

ヒールたるライスシャワーを。
完全にトレースしよう。

幻覚のゲートが開いた。

ミホノブルボンが先頭に向かうが、さらにその先にはキヨウエイ
ボーガン。

その少し後ろにメイショウセントロ、続いてマチカネタンホイザ。
そして私。

コーナーの坂を越え、直線で歓声を浴びる。

先頭がどんどん差をつけ、10馬身差までいくが、3コーナーの坂でその差が縮まっていく。

今だ、と鞍上の意思が届く。

下り坂で先頭めがけ一気に上げる。

4コーナーの始めてキョウエイボーガンが垂れるのを右に見て、ミホノブルボンへと突っ込む。

最後の直線。

スタンドからの大歓声が耳に響く。

もうミホノブルボンとの差はほとんど無い。

その内からマチカネタンホイザが急速にあがつてくる。

でも、勝つのは私だ！

ミホノブルボンを完全に抜き去る。

そのまま少しづつ差を広げ、1馬身差を付けてゴール板を切る。

スタンドの歓声とどよめきが少しづつ薄れ、視点も低くなり、視野も狭くなる。

スタンドにいるのはスピカのみ。

ゴールドシップとトレーナーがドリンクを持つてこちらに来る。来るまでの間、私は歓喜に満ちていた。

——間違いなく、あの時よりも実力は上だ。
あの時よりも差を広げられるはずだ。

「……ねえマックイーン」

「……言わなくとも分かっていますわよ」

「……あの動物の幻覚は一体……?」

新幹線の中で、一人パソコンをいじる。

表示されているのは、菊花賞に出場するであろうメンバ－に関する膨大な量のデータ。

ミホノブルボン、マチカネタンホイザ等の有力バ。しかし、そのウマ娘たちが私の最注目ではない。

一人のデータを注意深く読み、過去の言動を漁り、レース映像を何度も見直す。

至るところに注釈を書き込み、データをアップロードし続ける。乗務員が横を通ったとき、私の短い鹿毛が揺れた。

16. 誰が為の菊花賞

前

菊花賞実況スレ

1 : レース好きの名無し
さて

2 : レース好きの名無し
きちやああああ

3 : レース好きの名無し
ブルボン三冠！ ブルボン三冠！

4 : レース好きの名無し
はえーよホセ

5 : レース好きの名無し
いつ

6 : レース好きの名無し
▽▽▽

15時35分

7 : レース好きの名無し
あと1時間あるぞ

8 : レース好きの名無し
ブルボン勝てんの？

9：レース好きの名無し
まあ行けるやろ

タンホイザもそんなにやつたし

10：レース好きの名無し
調教タイムいいゾ～これ

11：レース好きの名無し
2年連続3冠って初？

12：レース好きの名無し
▽▽11

有敗ならシービー→ルドルフがあるぞ
無敗は無い

13：レース好きの名無し

スピカの黒いのはどうなんや
スピカ菊花賞強いやろ

14：レース好きの名無し
▽▽13

前例が2つしかねえ！

15：レース好きの名無し
▽▽14

それ以外の例が見当たらんのですがそれは

16：レース好きの名無し
スピカ菊花賞勝率100%は草

17：レース好きの名無し

黒いのはようわからん
重賞走れや

18：レース好きの名無し

5戦4勝やから実力はあるぞ
大舞台でのそれは知らん

19：レース好きの名無し

レースより普段の行動のほうが話題になるウマ娘

20：レース好きの名無し

スピカのメンバーを紹介するぜ！

スイーツ食べすぎ野球場のオツサン・メジロマツクイーン！

唯一の常識人・トウカイティオー！

超絶自由人・ライスシャワー！

リアルハジケリスト・ゴールドシップ！

以上だ！

21：レース好きの名無し

>>20

ティオーの胃に穴あいてそう

22：レース好きの名無し

自由人に追いかけ回される常識人の図

23：レース好きの名無し

イロモノチームだあ……

24：レース好きの名無し

なんでブルボンとかタンホイザより黒いのに話題吸われてるんだ
よ

25：レース好きの名無し

△△△24

だつてこの世代で一番面白いし……
他のクラシック組が影薄いし……

26：レース好きの名無し

なんでやブルボンも個性的やろ！

27：レース好きの名無し

△△△26

個性がそこまで目立たないし話題になりにくいやし……

28：レース好きの名無し

ワイトレセン周辺在住、ゲーセンで黒いのとよく遭遇

29：レース好きの名無し

△△△28

は？ うらやま

30：レース好きの名無し

△△△28

黒いの何やつてるん

31：レース好きの名無し

△△△30

来店時ワイ「あの子ENDYMIIONやってるな……（感心）」
プレイ時ワイ「あの子まだENDYMIIONやってるな……（尊
敬）」

退店時ワイ「あの子ずっとENDYMIIONやってるな……（畏
怖）」

32 : レース好きの名無し

▽▽31

ヒエツ……

33 : レース好きの名無し

ライスシャワー 「ENDYMIIONを逃がすな」

34 : レース好きの名無し

▽▽31

何時間ぐらいおつたん

35 : レース好きの名無し

▽▽34

だいたい4時間ぐらい

36 : レース好きの名無し

▽▽35

……は?

集中力もスタミナもバケモンかよ……

37 : レース好きの名無し

ENDYMIIONを逃さないやつ初めてみた

38 : レース好きの名無し

もしかしてライスシャワーって強い?

39 : レース好きの名無し

▽▽38

・チームスピカ

・去年ティオーを追いかけ回した

・囮まれなかつた初戦以外全勝
強い（確信）

40：レース好きの名無し
今回も破滅逃げやろ

41：レース好きの名無し
▽▽40

破滅逃げは囮まれないためやで
前走は普通の逃げやつてたぞ

今回はブルボンにマーク行くから多分逃げはやらない

42：レース好きの名無し
サンガツ

ていうかティオーにマーク教えたの黒いのだつけ

43：レース好きの名無し
▽▽42

yes

44：レース好きの名無し

普段の行動がアレ過ぎて強いという実感が湧かない

· · ·

246：レース好きの名無し
パドック次誰

247：レース好きの名無し

▷▷246

ブルボン

248：レース好きの名無し

来た

249：レース好きの名無し
エツツツツツツツツツツ

250：レース好きの名無し
あーいけませんエツチ過ぎます

251：レース好きの名無し
いや筋肉すつご

252：レース好きの名無し
鍛えすぎやろ

253：レース好きの名無し
トモ何あれ

254：レース好きの名無し
完璧な仕上がり
勝ったなガハハ

255：レース好きの名無し
キリツとしてるけど中身幼女なんだぜアレ

256：レース好きの名無し
犬っぽいとかよく言われてますねえ……

257：レース好きの名無し
かわいい

258：レース好きの名無し
2年連続無敗三冠頼むぞ!!!

259：レース好きの名無し
反動で20年ぐらい三冠でなさそう

260：レース好きの名無し
次誰

261：レース好きの名無し
ライスシャワー！

262：レース好きの名無し
ブルボンのこと凶人を見るような目で見てて草

263：レース好きの名無し
服ごつつ

264：レース好きの名無し
あれでも元のデザインからナーフされてるんよ

265：レース好きの名無し
色変えて青になつたな

266：レース好きの名無し
被服面積デカ過ぎやろ

267：レース好きの名無し
頭以外肌色が見えねえ

268：レース好きの名無し
仕上がりが何一つわからん

269：レース好きの名無し
あー情報隠すためにゴツくしたんか
なるほどね

270：レース好きの名無し
元ネタ知らんけどかつこよ

271：レース好きの名無し

>>270

元ネタのキャラもカッコイイぞ

問題は女子中学生がやつていいゲームじゃなってことだな

272：レース好きの名無し

>>271

エロゲ？

273：レース好きの名無し

>>272

普通のsteamのゲームや
ただ世界観がエグすぎて大人でもキツイ

274：レース好きの名無し

なんでそんなゲームやつてんの……?
なんで勝負服のデザインにしたの……?

275：レース好きの名無し

△△262

誰だつて最初は変態だとと思うよあれは

276：レース好きの名無し

△△274

だつてライスシャワーだし

277：レース好きの名無し

返しが強すぎる



ファンファーレが鳴り、ゲートに入つていく。

4枠8番、ミホノブルボンの隣。

今日は変なことをするつもりはない。

最後の直線まで馬の時と同様に走る。

それで勝てたのだ。ならば下手にいじる必要はない。

抜け出す時により多くの差を稼げるよう本気で行けばいい。

やつとこの日が来た。

鼓動が高まる。高揚が抑えられない。
あの感覚だ。

視点が高くなり、視野が広くなる。
もう待ち切れない。

ゲートよ、早く開いてくれ。

さあ、さあ、さあ——

「第53回菊花賞、今スタートが切られました！」

——最高のショーや始めよう。

「これから第三コーナーに向かいます！ その後は3バ身差でセントライトイシチー、…………」

ここまででは問題ない。全てあの時と同じように動いている。
少しづつ上げろ、坂を駆け上がれ。

その先に私の本望が待っている！

「3コーナー上り詰めて今度は下りにかかりました！

800メートル、キヨウエイボーガンリードは半バ身。
ミホノブルボン相変わらず2番手。

3番手は1馬バ身差メイショウセントロ、さあ外からライスシャワーがぐんぐん上がってきた！ マチカネタンホイザも後に続きます！ ……」

3コーナーの終わりで沈むキヨウエイボーガンを傍目に、一気に先頭へと詰める。

ああ、来た！ 来た！ 来た！

私の出番だ！ 利用せよ！

あの栗毛の背に一直線に突っ込め！

最後の直線の直前で1バ身まで詰めた。
ブルボンの背に強烈な圧をかける。

後は一気に――

その瞬間、凄まじく嫌な予感がした。

おかしい。

何かが違う。

何だ？ 何が違う？

何だこの違和感は？

待て。

キヨウエイボーガンが3コーナーの終わりで沈んだ？
確か4コーナーに入つてからのはず。

違う。

沈んだのなら問題ないはずだ。

しかももとは16着。

沈んだ奴の挙動が変わったところで、私にとつては何も変わらな
い。

なのにどうしてこんなにも嫌な予感がするのだ？

耐えきれずに後ろを振り向く。

——キヨウエイボーガンは、遠く後ろに沈んでなどおらず。

私の2バ身後ろにピッタリと付け。

その目は、ミホノブルボンでも、マチカネタンホイザでも無く。

——ただ私のみを、凄まじい殺気を持って凝視していた。

後

17. 決意

前

なぜそこにいる。

なぜ沈んでいない。

なぜ——私を見る!?

「さあ直線コースに入りますが、先頭はミホノブルボン！ しかしライスシャワーがすぐ後ろにいます！ さらに後ろからは——キヨウエイボーガン！ キヨウエイボーガンです！」

マズい。

マズいマズいマズい！

このままでは確実に抜かれる！

(——クソツ、仕方ない！)

ブルボンからマークを外し、ボーガンから逃げるよう進路を変更する。

そのままブルボンを抜かすが、まだ足りない。
まだ逃げなくてはならない！

だが、離れない。
離せない。

真つ直ぐ私を睨みつけ、追いかけてくる。

キヨウエイボーガンが口を開いた。

「——私がただ沈むだけだと思ったか？あの時の俺のようにな？」

「違う！違う！！」

「このレースに全力を懸けているのはお前だけじゃない！」

「私はあらゆる手を使つて勝ちを模索して来た！」

「俺は、私は、決してくだらない馬なんかじやない！！」

「俺を愛してくれたあの人の為に!!」

「私は勝たなくちやならないんだよ！！」

その時、会場にいたほぼ全ての人気が、一条の矢を幻視した。

「——つ、キヨウエイボーガンが一気に上がってきた!!
そのままミホノブルボンをかわし、ライスシャワーに並んで——
抜けたーつ!!」

抜かれた。

ああそうか、お前もそعدだつたのか。

私と同じならば言つてくれればよかつたのに。

成程、完全に掌の上だつたということか。

私は負けるのか。

——負ける?

この私が?

このレースで?

キヨウエイボーガンに?

——ふざけるな。

ふざけるな!!!

あつてはならない!

そんなことがあつてはならない!!

私は黒い刺客だ！ 漆黒のステイヤーだ！ ライスシャワーだ！！

たかが策を弄された程度で負けるような弱い馬ではない!!!

このレースで、この菊花賞で――

「――私の勝ちを譲るつもりは無い!!!」

「――いやライスシャワーが差し返す！ ミホノブルボンは来ないのか!? お互に先頭は譲らない！ 残り200メートル!!」

「――はああああああああああああああああつつつつ!!!」

周囲から音が、色が、余計なもの全てが消えていく。ただあるのは地面と、ゴール板と、私と、ボーガン。

抜かし、抜かれ、並び、並ばず。

「コイツに勝つ」以外の意識は消え失せた。

勝つのはキヨウエイボーガンか、ライスシャワーか。

「凄まじい競り合いです！ 完全に並んだ！ 後続とは6バ身近くの差がついています！ 淀の舞台を制するのはどっちだ!? 横並びになつて今ゴールイン!!」

凄まじいうねりが観客席に生まれている中、私もボーガンもターフに倒れ込んだ。

マトモな呼吸すらおぼつかない。

——ああクソ、ボーガン、お前、本当に、

「お前、ふざけんなよ、マジで……」

「……はは、は、あんだけ、やつたのに、ここまで、僅差に、なるとは、ははは……」

「お前も、私と、同じなら、先にそう言えよ、クソ野郎」「すまんね、ここだけはどうしても、勝ちたかつたんだ」

息も絶え絶えになりながらボーガンを睨みつける。

本当にやつてくれたな、お前。

「……よお、久し振りだな、ライスシャワー号。あの時の以来じやないか」

「ああそうだなキヨウエイボーガン号。まさかお前がそうだとは思つてなかつたよ、本当に」

「随分と人間生活をエンジョイしてるみたいじゃないか、ええ？ 私が散々メタ張つて来てるってのに」

「それだけやつておいたくせに、完全に抜くことすら出来なかつたみたいだけどな」

「それを言うな悲しくなる。本当お前マジで強いよ、何食つたらそなるんだよ」

「そつちこそステイヤーじゃなくせによくここまで喰らいついたな、何してきたんだよ」

お互に軽口を叩きあう。

まさかこんな形で同類に会うことになるとは。

「ていうかライスお前完全に素が出てるじゃねえか、隠さなくていいのか？」

「お前相手なら別にいいだろ。いつ私がそうだと気付いた？」

「お前の描いたあの絵だよ。んなもん一発で伝わるわ」

「じゃあ接触してこいよ」

「やだ。菊花賞で勝たなくちゃならないのになんで言わなきゃならないんだよ」

「お前本当にこの……そういうこっちに来たつてことは死んだのか？」

「おう、32まで生きたぞ。ちなみに俺等の世代で一番長く生きたぞ」「マジ!?」

「マジマジ。」

「そうそう面白いことがあつてな、ナイスネイチャつてまだ生きてたんだけどさ、あの馬33歳の時に3500万稼いでな。いやーあれは凄かつた」

「待つて何したんだよ氣になる」

私が知らない話をキョウエイボーガンが持つてくる。

何をしていたのかは気になるところではあるが、相槌を打つて聞く

ていた。

「……で、どつちが勝つたんだ？」

「そりや私だろ。お前に負けたらステイヤーの名が廃る」

「は？ 最後に抜け出したのは私だらうが」

「じゃあ掲示板見てみろよ」

掲示板には当然写真判定が付き、ディスプレイにはゴールした瞬間の映像が何度もリプレイされている。

リプレイを見て、自分の感覚的に――

「やつぱり私の勝ちだな」

「――あ、？」

「おやおや老いぼれて目が腐り落ちたようだなキヨウエイボーガン。あればどう見たって私の勝ちだろ」

「テメエこそ娯楽のやりすぎて目がいかれたんだろ、どつからどう見たつて私だらうが」

「は？ お前みたいな「規制済」に私が負けるはずがないだろバカかお

前

「あ、あ、!? んだとお前この「検閲済」！ 「放送禁止用語」！」

「侮辱的発言」！ 「ちくわ創星神」！ 「自主規制」！」

「暴言」！」

?????

「——ええ、たつた今写真判定が出ました!」

実況の声に従い、罵詈雑言の嵐を止め掲示板を見る。

8

、< 同着

1 2

「「再審を要求します!!!」」

私達は声高に主張した。

結局あの後判定が変わることはなく。
初のG1での同着となってしまった。
私は未だに納得がいっていない。

絶対に私が勝つてただろあれ。もう一回やり直せ。

会場の空気がエライことになっているが気にしてはいけない。

さて、いい加減地下バ道に行かなくてはならないのだが。

「ボーガン、いつまで倒れてんだよ」

「いや、ジジイに3000メートルはキツイって。足動かん」
「今はウマ娘だろうが。後が差し支えるから早く立て」

「待つて急に引っ張らないであ痛つた！」

「……肩貸そーか？」

「いやお前のチビな体格じゃ意味ないだr、ゴツフう!？」

「歩け」

「はい……」

色々と後始末をしたあと、インタビューへと向かう。
とはいえ変な質問は少なく。

悪意のある質問は正論でねじ伏せ。

次走の話に移つたのだが。

「次走ですが、私もボーガンも有馬記念を予定しています
「待つて私何も言つていないんだけど!?」

「今回同着という優劣がつかない形になつてしまつたので、そこで改
めて再戦という形で——」

「話聞いて？ 私まだ出るとか何も決めてないんだけど？ 勝手に私
の次走を決めないで？」

「同着かましといて何を言つて いるのやら」

「手札フルオーブンした後にあなたに勝てる算段が思い浮かばないか
ら嫌なんだけど!?」

「500メートルも短いんだから十分そつちの方が有利でしょう。そ
れともこのまま逃げるおつもりで？」

「やつてやろうじやねえかこの野郎！」（即答）

「皆さんちゃんと言質取りましたね？ というわけで有馬記念で決着
をつけることになります」

「——あつ待つて今のナシでオフレコでお願い待つてホントウ待つて
お願ひだからああつ」

18. 裏側、敗者、情報、追加

前

菊花賞実況スレ

480：レース好きの名無し
ブルボン掛かってね？

481：レース好きの名無し
ボーガン邪魔ア！

482：レース好きの名無し
あああああ

483：レース好きの名無し
ブルボン落ち着けマジで頼む

484：レース好きの名無し
黒いの上がつてきた！

485：レース好きの名無し
ボーガンお前あああああ

486：レース好きの名無し

>>484

逆や

3角の急坂で前二人が垂れとる

487：レース好きの名無し

それはそれとして黒いのも来てるやろあれは

488：レース好きの名無しさん

489：レース好きの名無しさん
ブルボン逃げて

490：レース好きの名無しさん

黙つてろ米兵

491：レース好きの名無しさん
ボーガン垂れた！

492：レース好きの名無し
あいつ行くだけ行つて垂れよつた
ホンマ邪魔

493：レース好きの名無し

そら（あんだけ速度出してたら） そうよ

494：レース好きの名無しさん
黒いのきてりゅう

495 : レース好きの名無し

俺のマチタンはどこ……?

496：レース好きの名無し
逃げろおおおお

497：レース好きの名無し
差せ！

498：レース好きの名無し
▽▽495

お前のじやねえよハゲ童貞

499：レース好きの名無し
あれ垂れてなくね？

500：レース好きの名無し
▽▽498

頃すぞ

501：レース好きの名無し
黒いの来ないで

502：レース好きの名無し
ん？

503：レース好きの名無し
お

504：レース好きの名無し
後ろ向いた

505：レース好きの名無し
ふあつ!?

506：レース好きの名無し
え

507：レース好きの名無し
ボーガン!?

508：レース好きの名無し
は？ なんで？

509：レース好きの名無し
ブルボン!!!

510：レース好きの名無し
あああ抜かれた

511：レース好きの名無し
ガン無視やんけ

512：レース好きの名無し
ボーガンめつちや来てる

513：レース好きの名無し
何今のは幻覚

514：レース好きの名無し
矢？

515：レース好きの名無し
ふあーwwwww

516：レース好きの名無し
黒いのを抜いた!?

517：レース好きの名無し
意味わからん
何で脚残つとんのや

518：レース好きの名無し
ブルボンうわあああああああ

519：レース好きの名無し
ライス差し返した

520：レース好きの名無し
はつや!?

521：レース好きの名無し
一気に加速したぞアイツら

522：レース好きの名無し
他が遅れたんじや

523：レース好きの名無し
めつちや離すやん

524：レース好きの名無し
ブルボン……

525：レース好きの名無し
なんだあの二人!?

526：レース好きの名無し
加速えつぐ

527：レース好きの名無し
どうだ!?

528：レース好きの名無し
ライス抜けええええええええええ

529：レース好きの名無し
並んだ!

530：レース好きの名無し
ゴール!

531：レース好きの名無し
どつち!?

532：レース好きの名無し
わからん

533：レース好きの名無し
ボーガンあんな強かつたんか!?

534：レース好きの名無し
どつちだよ!?

535：レース好きの名無し
ブルボンああああ

536：レース好きの名無し

マチタン差した！

537：レース好きの名無し
うおおおお流石俺のマチタン!!!

538：レース好きの名無し
ブルボン4着つてマ？

539：レース好きの名無し
前二人と何バ身着いたんだこれ

540：レース好きの名無し
▷▷537

だからお前のじやねえよキモデブ

541：レース好きの名無し
嘘やろ……

542：レース好きの名無し
ライスはまだ分かる
ボーガンは完全に分からん

543：レース好きの名無し
▷▷540
デブじやねえよ氏ね

544：レース好きの名無し
▷▷543

ハゲと童貞とキモいのは否定しないのか……

545：レース好きの名無し

何でボーガンなんだよクソが

546：レース好きの名無し
リプレイ見ても差が分からん

547：レース好きの名無し
マジでどつちだよこれ

548：レース好きの名無し
ブルボンなんでえ……

549：レース好きの名無し
菓子屋の精神ボロツボロで芝

550：レース好きの名無し
米兵大歓喜やろこれ

551：レース好きの名無し
ボーガンあんなん予想できるか

552：レース好きの名無し
なんか言い争つてね？

553：レース好きの名無し
何してんだよwww

554：レース好きの名無し
ワイ現地勢、僅かに聞こえて来る言い合いの内容にドン引き

555：レース好きの名無し
ええ……（困惑）

556 : レース好きの名無し

▽▽554

何言つてるん

557 : 現地勢

ちよつとここにすら書けないような罵詈雑言なんやが
女の子がそんな言葉使つちゃいけません

558 : レース好きの名無し
す、スポーツマンシップ……

559 : レース好きの名無し
着順で大喧嘩は芝

560 : 現地勢

いや、口悪いだけでそこまで雰囲気は険悪では無い
……気がする?

561 : レース好きの名無し
疑問系かよ

562 : レース好きの名無し

ライスつてそんな言葉使うんか……

563 : レース好きの名無し

ブルボンもマチタンも置いてけばりで芝3000

564 : レース好きの名無し

▽▽562

でもだいぶ前にtwitterで無名の胎児にガチギレしどつた

ぞ

案外使うかもしけん

565：レース好きの名無し
写真判定まだなん

566：レース好きの名無し
あんな僅差やとそら時間かかるやろ

567：レース好きの名無し
▷▷564
アレに関してははキレていい
唾棄すべき存在

568：現地勢

ブルボンガチ凹みしてるのが見える見える……

569：レース好きの名無し
泣きそう

570：レース好きの名無し
ブルボンは3000無理おじさん「やはりブルボンは3000無理
だつた」

571：レース好きの名無し
お

572：レース好きの名無し
来た

573：レース好きの名無し

どうだ!?

574：レース好きの名無し
同着!?

575：レース好きの名無し
同着

576：レース好きの名無し
同着!?

577：レース好きの名無し
ふあつ!?

578：レース好きの名無し
はああああああ!

579：レース好きの名無し
同着とかあるんか!?

580：現地勢

あの二人即座に再審請求出したんやが

581：レース好きの名無し
同着かよ!

582：レース好きの名無し

>>580

芝

583：レース好きの名無し

ええ……

584：レース好きの名無し

▽▽580

納得いかんかつたんやろなあ

585：レース好きの名無し

審判「あの」

586：レース好きの名無し
運営かわいそ……

587：現地勢

ライス＆ボーガン「再審を請求します！」

息ピツタリで芝3200

588：レース好きの名無し
畜生やけ酒じやあ

589：レース好きの名無し
ボーガンとか分かるかよ……

590：レース好きの名無し
大穴つてレベルじや無いよアレ

・・・

〔ライスシャワー〕 菊花賞記者会見スレ [キヨウエイボーガン]

1：レース好きの名無し
荒れ そのので先に警告
荒らしは即通報してね
頼みます

2：レース好きの名無し
建て乙

3：レース好きの名無し

乙
>>1 把握

4：レース好きの名無し
ボーガンは絶対に沈むと思つてた奴 WWW

確かに沈みはしたな、うん

5：レース好きの名無し
アレなんだつたんだ

6：レース好きの名無し
現地勢ニキおる？

7：現地勢
はいよ

8：レース好きの名無し
俺も現地いたんだけど、なんか幻覚っぽいの見えなかつたか？
一緒に来た友人も何か見えたって言つてたんやが

9：レース好きの名無し
ここの人間に友人がいたのか！？

10：現地勢

矢みたいなの見えたな
あと変な動物

11：レース好きの名無し

△△9

ここにはボツチしか集まらないという前提で話すのはやめろ

やめろ

12：レース好きの名無し

矢は俺も見えたわ

動物は知らん

13：レース好きの名無し

何アレ

14 : レース好きの名無し

多分それ領域

ソースはこれ

<https://ikipedia.org/>...

15 : レース好きの名無し

>>14

はえーサンガツ

もしかして矢つてボーガンの領域か？

16 : レース好きの名無し

こんなあるんか

現地行きもありだな

17 : レース好きの名無し

ボーガン領域出せるのか……

ところでブルボンつてどうなん

18 : レース好きの名無し

(目を逸らす)

19 : レース好きの名無し

ワアツ……

20 : レース好きの名無し

泣いちゃつた……

21 : レース好きの名無し

最後200メートル10.5とか出てるんですけどあの

22 : レース好きの名無し

>>21

ふあ!?

23：レース好きの名無し

3000メートルだよなこれ

24：レース好きの名無し

結局何バ身差開いたんだ……？

25：レース好きの名無し

>>24

6

26：レース好きの名無し

最後の直線だけでそんなに離したんか……

27：レース好きの名無し

ライスもそうだが伏兵がやべえんだよ……何であんなアホみたいに逃げた後にあんな余力があるんだよ……

．．．

100：レース好きの名無し

ライス大人しい……大人しくない？

101：レース好きの名無し

黒いのはあくまでクツソ自由なだけでふざけるタイプじゃないか

ら……

記者『レース直後に言い争っているように見えましたが』

R『ただのじやれあいです』

B『同郷だつたので色々と素が出まして……』

109：レース好きの名無し

同郷!?

110：レース好きの名無し
じやれ……あい……?

111：現地勢

あれが……?

112：レース好きの名無し
出身同じなんか?

113：レース好きの名無し
初めて知った

記者『ミホノブルボンによる無敗三冠を期待されていた方も多いと思われますが、それについて何かコメントは?』

R『あー、なんです、私達に八百長をしろと?』

121：レース好きの名無し
芝

122：レース好きの名無し
これだからゴミ週刊誌は

123：レース好きの名無し
まあ実質八百長しろつて言つてるようなもんだもんなこれ

124：レース好きの名無し
オブラーートつてご存知？

125：レース好きの名無し
ライスにもボーガンにもキレられてて草

126：レース好きの名無し

この質問何がひどいって1番傷つくのブルボンなんだよな

127：レース好きの名無し
本物のマスゴミやんけ

128：レース好きの名無し
なんか正論ぶつかけ始めたぞ

129：レース好きの名無し

ライス「レースはあなたのためだけの見せものではない」
「ウマ娘の尊厳及びレースの価値そのものを害している」

ボーガン「粗鄙いのためだけに悪質な質問するのやめたら？」
ゴミ「」

130：レース好きの名無し

▷▷129

黒いのの語調強すぎてびっくりした
あんな怖い声出せるんかあの子

131：レース好きの名無し

画面越しなのに思わず背筋正したわ

132：レース好きの名無し

言葉よりなによりも目が怖すぎる

133：レース好きの名無し

▷▷132

これよ

もう米をおかずにできないねえ……

134：レース好きの名無し
してる奴いるのか……

· · ·

157：レース好きの名無し

次走きた

158：レース好きの名無し

はえー有馬なんか

159：レース好きの名無し
ボーガン狼狽えて芝

160：レース好きの名無し
いや芝

161：レース好きの名無し
ええ……

162：レース好きの名無し
あ

163：レース好きの名無し
あーあ

164：レース好きの名無し
ボーガン「やつてやろうじゃねえかこの野郎！」

165：レース好きの名無し
ふあーｗｗｗｗｗ

166：レース好きの名無し
完全に乗せられて芝7000

167：レース好きの名無し
言質ｗｗｗ

168：レース好きの名無し
この子ひつでえ！

169：レース好きの名無し

ボーガンもしかして乗せられやすい……?

170：レース好きの名無し
黒いの腹も黒いやんけ

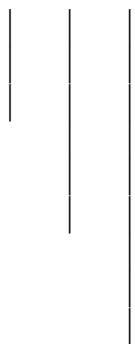
171：レース好きの名無し
▷▷169
閃いた

172：レース好きの名無し
▷▷171
投獄した

173：レース好きの名無し
はええよ

174：レース好きの名無し
司法「!」

「……マスター」



「……負けてしまいました」

「……あの時、私は気付いてしまいました」

「ライスシャワーさん、特にキヨウエイボーガンさんは、私のことが初めから視界にすら入っていませんでした」

「私は蚊帳の外でした」

「そう気付いた時、脚が動かなくなりました」

「……悔しいです」

「……マスター」

「私の脚は、治りますか？」

「いえ、たとえ治つたとして——」

「——私は、あの二人と同じレースで走れますか？」

「私には、分かりません……」

菊花賞の数日後。

レース場だつたからあまり話が出来ていないよねと、キヨウエイボーガンと共に個室付きの喫茶店に来ている。

そこでボーガンについての話を聞いていたのだが。

「なんか……お前、凄い経緯辿つてんな……」

「だろ？ あの人には感謝してもしきれないよ、本当に」

「いい人に拾われたなあお前……ていうかこの菊花賞にその人来てくれたのか？」

「それは知らないさ。来ててくれたかどうかよりも、俺があの人に胸張つて誇れることが出来たってほうが重要なんだよ。見てくれてた

らそれはそれで嬉しいけどな」

なんか凄いことになつていた。

数奇な運命なもんだ。

他にも私の後の競馬事情を聞いていたりしたのだが――

「待つてくれ。あのサンデーサイレンスがヤバい種牡馬で？ その仔のディープインパクトつてのがもつとヤバいやつで？ 親子で無敗三冠？ 冗談だろ？」

「冗談じやねえんだよなあこれが」

「で、海外G1勝つたのか？」

「勝つたぞ。フランスのが幾つか、ブリーダーズカップ、あと香港とドバイだな」

「ちなみに凱旋門とKG&QEは？」

「まつだでくす。凱旋門は惜しいとここまで行つたんだけどな。二年連続2着かました奴がいたし」

「まだなのかよ…………と言うか聞いてた感じだと血統がまざいことになつてそなんんだが」

「実際マズイ。血統の墓場とか言われる」

「ダメじやねえか……」

「えーとあとなんかあつたつけ、……ああそうそう、マックの鞍上の人いただろ。あの人まだやつてるぞ」

「………… 何年目？」

「……わからん。あとあれだ、すげえぞ、牝馬がダービー勝つたんだよ」

「……はあ！ 嘘だろ！」

「マジ。ちなみに父親もダービー勝つたから親娘ダービー制覇だな。もう二度と出てこないぞこんな偉業」

「偉業どころか異業だろそれ……」

「どういうことだよ。」

未来的の競馬おかしいだろ。

カフエの帰り道。

なんか白くて頭がデカいのを見かけた。

「……アレ、ビワハヤヒデか？」

「そいつ以外いないだろあの頭。分かりやすいなあ……」

「今までで一番特定しやすかつたな……」

割と離れているはずなのに何故かビワハヤヒデがこちらをチラチラと見つめて来る。

何でこの距離で気付くんだ。

ビワハヤヒデもかなり強かつたな、と思いながらビワハヤヒデに近づく。

「……おや、誰かと思えば。ライスシャワーにキョウエイボーガンか。私はビワハヤヒデだ。菊花賞勝利、おめでとう」

「はいどーも、あんがとね」

「ビワハヤヒデさんですか、期待してますよ」

「……おや、名前を覚えてくれているとは」

「ま、一つ下の重賞勝ちウマ、しかも無敗となれば覚えるよ。次は朝日杯だろう、幸運を祈るよ」

「ああ、感謝する。その期待に応えられるよう全力を尽くすよ。

……さて、妹を迎えて行かなくては」

ビワハヤヒデの妹。

十中八九ナリタブライアンのことだろ。

「妹。もしかしてナリタブライアン？」

「おや、妹の名前まで覚えてくれているとは。これを聞けばあの子もきっと喜ぶだろう。よく君達の話をしていたよ。もしよかつたら、会つてくれないだろうか？」

会うことに何も問題はないだろう。

将来の三冠バなのだからむしろ会つてみたい。

というわけでビワハヤヒデと共にナリタブライアンを迎えに行くことになった。

「ああ、その、お願ひしておいてなんなのだが、妹は少し不思議なところがあつてな……」

「……ほう？」

「まあ、そこまで変ではないのだが……

まず、妹はかなり臆病でな。こうして毎日迎えに行つているんだ」

なるほど、ブライアンらしいな。
あいつビビりだつたし。

「あと、食べ方がどうにも変でな……野菜が好きみたいなんだが、食べる前にとても不安そうな顔をするんだ」

それは確かに不思議だな。

ボーガンの顔が一気に引きつったが、何かあつたのか？

「それと、よく私のことを『お兄ちゃん』と呼び間違えるんだ。そんなに私が男らしく見えるだろうか……？」

あつ違うわこれナリタブライアンそのものじやねえか！！
ブライアンもかよ、もしかして意外といいるのか……？

「いや、多分そんなことは無いと思う……というか原因に凄まじく心当たりが……」

「!? 本当か!?」

「いや、一旦会えば確定するからとりあえず会つてみようか……」

そんなこんなでナリタブライアンのいる所まで来たのだが……

「ほらブライアン、挨拶して」

「あ、ええと、な、ナリタブライアンです……」

前髪は目が隠れそうな程長く。

後ろの髪も長く手入れはあまりされておらず。

——なんだこれ。

馬の時よりもビビり度が加速しているんじやないか?

「はい、よろしく。

……で、あー、その、ライスシャワーの描いた絵つて見た事あるか

?」

「? 無いです、ごめんなさい……」

「ああいや責めてるんじゃなくて。ええと写真撮つてたから一つと
……あつた、これよこれ」

ボーガンが私の描いた馬の絵をブライアンに見せると――

「えっ!? あ、いや、その、もしかしてお二方も……?」

「うん、その通り」

「ええと、その、どうやつたら怖がらずに走れますかね……?」

「あー、それはだな――」

その後色々と助言してやつて別れた。

「で、あいつ大丈夫なの?」

「実力自体はあるし行けるんじゃないかな……」

「……あつ!!」

「どうした急に」

「あいつ多分ウイニングライブ踊れねえ!!!」

「……あつ」

後

19. 日常回（？）

前

ブライアンに懐かれた。

今まで独りぼっちで寂しかったのもあつたのか、元馬の私達の所によく来てくれるようになつた。

来るだけ来て話したりはせず、私達の近くでじつとしていることが多い。

しかし、まあその、ブライアンを膝に座らせて髪をといたりとかいろいろしてやつているとだな……

コイツ可愛らしいな……と思つてしまふ訳で。

大人しくていい子で、臆病なのに強くて。

こんな子が妹にいるビワハヤヒデが羨ましくなつてしまつた。

あーこの子スピカに入つてくれねえかなー。
そうすればずつと可愛がれるのに。

……何かヤバい扉を開けた気がする。

急いで閉じなきや……いやでもこの子なんか危なつかしいし……なんか騙されやすうだし……別にこんぐらいは問題ないよな……

?

さて、元馬連中で適當な部屋に集まつていた時のこと。
ふと気になることがあり、ボーガンに質問する。

「なあボーガン、お前のトレーナーの話聞かないけどどこ行つた」「ん？ ああお前知らんのか。 私だよ」

「……は？ どういうこと？」

「だからそのまんまだよ。私トレーナー免許持つてるんだわ」

「……はあ!?」「……えつ!?」

「ふつふつふ、これを見たまえこれを」

そう言つて財布から小さなバッジを取り出した。

アレは間違いなくトレーナーバッジだ。

「……待て、あのクソ難度のテスト突破したのか!? つーかその年齢で取れるのか!?

「トレーナー試験に年齢制限ないんだよなあこれが。めちゃくちゃ勉強したぜはっはっは」

「嘘だろ……アレ過去問ですら半分取れなかつたのに……」

「……ええと、それなら少しは話題になつてるんじゃないんですか
…………?」

「いや、理事長に口止め頼んだ。全部自分の為にしか使わないつもりだつたし、公表したらスカウト求める奴らが寄つてきて鬱陶しいだろ？」

「そんな旨いネタ、メディアが取り上げるだろ普通……何でどこにも

載つてないんだよ……」

「これもぜーんぶお前対策だつたんだよライスシャワーよお！　お前のせいでの結果がアレだつたけどな！」

「私が知るかそんなん！」

若干険悪な雰囲気になりかけた所で、ボーガンが悪いことを思いついたかのようにニンマリと笑つた。

「しかしいいのかライスシャワーさんよお、そんな態度をとつて……私がトレーナーってことはなあ……」

そういうとボーガンはライアンを引き寄せ——

「——プライアンをスカウトしてもいいってことだぞお？」
「ふええつ!?」

「こいつ！」

「卑怯だぞお前！」

「お？　いいのか？　やつちやうぞ？」

「断る！　ライアンはウチに来てもらう！」

「えつ!?」

「はあー？　この子をあんなチームに行かせられるかボケ！」

「あんなチームとはなんだとテメエ！」

「あ、あのつつ！」

ブライアンがか弱く主張した。

「ぼく、お兄ちゃんと同じチームがいいので、ええと、だから、その
……」

「…………」「じゃあ仕方ないか…………」

ボーガンとの間に休戦協定が結ばれた。

しかし私は決して諦めぬ。

いつか必ずブライアンを引き込んでみせる――！

菊花賞の少し前に遡り、ティオーの秋天。
ケガ明けのためそこまで本気を出さず、本命はジャパンカップだと
事前に明言。

G1を叩きに使うというよくわからない状況だが、G1以外に出ると他から不満が出てきてしまうので仕方ない。

結果は5着。調整という面が大きかつたためそこまでネットでも荒れなかつた。

「勝つたら折れてたから勝たなくて良かつた」とかいう意見を見かけた時はキレかけたが。

そしてジャパンカップ。

ドバイでリベンジを誓つたオペラハウスに見事3バ身差で勝利。ティオーの実力を示した一戦となつた。

……これは後でボーガンから聞いたのだが、オペラハウスは世紀末霸王とまで呼ばれたティエムオペラオーラの父だそうだ。

なんだよその二つ名。戦績聞いたら納得はしたけども。

インタビューで日本が気に入つた旨を話していたので、もしかしたらオペラオーラと繋がるのかもしねれない。

さて、本日はそんなジャパンカップの数日後。
いつも通りスピカの部室に向かうと――

「おいトレーナー！　今回はぜつてーに許さねーからなあ！！」

なぜか、トレーナーがスピカの面々に羽交締めにされていた。

「…………どういう状況?」

「聞いてくださいいましライスさん!　トレーナーつたら一人で焼肉に行きやがったんですよ!」

殺す。

・・・

「が、壁に埋まつてますわ……」

「と、トレーナー? 生きてる?

おーい?」

「な、なあ、これ大丈夫だよな?

ちゃんと生きてるよな?」

「……しぬかとおもつた……」

「これで生きてますの貴方……」

「おめーも大概人間辞めてるよな……」

スピカの黒いアレ総合スレ part53

236 : レース好きの名無し
そろそろ25時か…

237 : レース好きの名無し
もうそんな時間か

238 : レース好きの名無し
来るぞ……飯テロ！

239 : レース好きの名無し
今日のラーメンはなんじやろな

240 : レース好きの名無し

日課

241 : レース好きの名無し

この為にtwitterフォローしてるまである

242 : レース好きの名無し

自分から地雷原に突っ込むのバカだろ

俺もそのバカの一人だけど

243：レース好きの名無し
これで明日も生きられる

244：レース好きの名無し
▷▷243

飯テ口で生きるな

245：レース好きの名無し
さて

246：レース好きの名無し
来た！

t t p s : / / t w i t t e r . c o m / r i c e | s h o w e r
/ s t a t u s / ...

247：レース好きの名無し
ん!?

248：レース好きの名無し
ラーメンじやねえ!?

249：レース好きの名無し
焼肉かよお！

250：レース好きの名無し
これはこれで胃にくる……

251：レース好きの名無し

「スピカのメンバーと叙○苑に来ました。

トレーナーは一人焼肉という大罪を犯したので来ていません」

芝ア！

252：レース好きの名無し

▷▷251

トレーナーかわいそ……

253：レース好きの名無し
叙々〇とか上流階級すぎる

254：レース好きの名無し
これがG1勝ちウマ娘の財力……！

255：レース好きの名無し
肉旨そう……

256：レース好きの名無し
俺も行けるようになりてえ……

257：レース好きの名無し

▷▷256

今のは？

258：レース好きの名無し

▷▷257

自宅警備員

259：レース好きの名無し

働けや

260：レース好きの名無し

ニートが高い肉を食えるとでも？

261：レース好きの名無しさん
焼肉行く前にハロワに行け

後

20. 鎌の先は

前

世間がクリスマス一色に染まる時期。
あらゆる所に紅白や紅緑の物体が溢れ。

ケーキ屋が過労に陥り。

その辺で力ップルが闊歩し。

クリスマスプレゼントのために、大型家電量販店が人間で埋め尽く
される。

まあ私にはほとんど関係ないが。

クリスマスケーキに関してはマックイーンが小さい超高級ケーキ
をたくさん持つってくれた。

いろんな味を楽しめて実に良かつた。

ただ、そのうちの幾つかには香り付けのための洋酒が入っていた。

入つてしまっていた。

「えへへへへつつへへえへへえ……
「ティオーが壊れた！」

「ええっ!? 菓子用の洋酒だけでこれですかの!?」

「よつつわ……」

「……だれがよわいってえ!?」

「うわ面倒臭い酔つ払いのタイプだ！」

「うわ面倒臭い酔つ払いのタイプだ！」

テイオーが酔った。

誰がこんなの予想できるか。

「うるさあい！ ぼくはありまでもぜつたいにかつちやうもんに！」

「…………ハツ」

「らいすう!? いまはなでわらつたでしょ！」

「うん」

「ちよつとお!?」

馬時代ですら私より後ろだつたのに負けるはずがないだろ。

そもそも私はアソツと決着をつけるのだ。

沈みっぱなしのテイオーなんざ無視だ無視。

「相変わらず神経が図太いと言いますか……」

「アタシもどつちが勝つかわかんねえしな……」

「……正直テイオーよりもボーガンの方が怖い」

「!?」

「ライス？ 流石にアタシでも本人の前で言うのはちよつとどうかと思うぞ……？」

「いや、強きじやなくて行動の話だよ。テイオーはどう動くかがある程度予想がつくけれど、ボーガンは本当に何してくるのか一切わからなくて本当に怖い。あの菊花然り」

「あー成程……」

「まあわからなくはないですわね……」

「もー！ そんなにいうならぼくだつておおにげを——」

「「やめとけ（やめなさい）」」

「なんでー!?」

喚くティオーは適当に放つておくとして。

「……ちなみに何か対策は考えておりますの？」

「うーん、対策というかゴリ押しというか……基礎能力自体は私の方が上のはずだから、相手の作戦を力技で突破するとか……ただそもそもその地力を封じて来そうでなんとも……」

「でもよー、不可能じゃないのか？ 相手に実力を出させないようにレースを操るのって」

「普通なら。でもボーガンならあり得ると思う」

「随分と彼女を評価しているんですね」

「…………色々と思いついたから、ね」

本当に恐るべき相手だよ、まったく。

今年の有馬記念について語るスレ

1：レース好きの名無し

今年もまたメンツが濃い……！

- 2 : レース好きの名無し
爆逃げコンビ・メジロパーマー&ダイタクヘリオス
不憫な帝王・トウカイティオー
超絶気性難・レガシーウールド
ブロコレの兆し・ナイスネイチヤ
鉄の女・イクノディイクタス
みんな大好き・ホワイトストーン
潜む弓手・キヨウエイボーガン
黒いアレ・ライスシャワー
うーんこの
- 3 : レース好きの名無し
黒いアレは草
- 4 : レース好きの名無し
最近さらに自由度が上がったからな黒いの
- 5 : レース好きの名無し
菊花取つたから本性出して来た感じある
- 6 : レース好きの名無し
今まで隠せていましたか……?
- 7 : レース好きの名無し
△△△
駄目みたいですね(○)
- 8 : レース好きの名無し
ただ遠慮が無くなつただけだな……
- 9 : レース好きの名無し

最近 *twi t ch* やつてるつてマ?

10 : レース好きの名無し

>>9

マジ。ただゲームやつてるだけだけどな
今は *the witness* やつてるんだが、ついにアレに気付いた

11 : レース好きの名無し

全てを察した時のクソデカため息大好き
その後ゲームそつと閉じたのもつと好き

12 : レース好きの名無し

パーマーとヘリオスの大逃げが見られるの期待しかない

13 : レース好きの名無し

パーマーはともかくヘリオスに2500はキツくないか?

14 : レース好きの名無し

いいんだよ沈んでも
見てて楽しいんだから

15 : レース好きの名無し

サンエイサンキュー出ないの?

16 : レース好きの名無し

>>15

秋華賞→エリ女→有馬記念はキツイって

17 : レース好きの名無し
ローテキツいししゃない

18：レース好きの名無し

ヘリオス「え？」

19：レース好きの名無し

▷▷18

毎日王冠→秋天→マイルCS→スプリンターズS→有馬とかイカ
れてるよ君

20：レース好きの名無し

▷▷19

イクノディクタス「そうです。もつと間隔を開けた方がよろしいか
と」

21：レース好きの名無し

▷▷20

おまいう

22：レース好きの名無し

不憫な帝王……？

何回も骨折してスピカの連中に振り回されてるだけじゃん

23：レース好きの名無し
だけ……？

24：レース好きの名無し

何回も骨折したのに立ち上るのは不憫じやなくて不屈なんよ

25：レース好きの名無し

ライスとボーガンの有馬で決着つける宣言、クツソ傲慢で笑った
アレ上の世代ぶつ潰すの前提として発言してるだろ

26：レース好きの名無し

菊花見てたらできそうな気がするの本当ヤベエなあの二人

27：レース好きの名無し

あんだけ速度出して故障しないか不安

28：レース好きの名無し

今のこと大丈夫らしいけど

29：レース好きの名無し

爆逃げ二人がハイペース作るから菊花の再現になりそう

30：レース好きの名無し

ボーガンがどうするかだな

パー馬ヘリに合わせるかさらに行くか抑えるか

31：レース好きの名無し

当日を待つか

有馬記念。決戦の地。

変更点は、サンエイサンキューが抜けてキヨウエイボーガンが入ったことのみ。

サンエイサンキュー、秋華賞1着エリ女3着は普通に強いんだよ。
本当なんであんなローで組まれたんだ。

私？

やつぱり大外16番だったよ。

ここでも前世再現しなくていいから。

ちなみにティオーにあの惨事の記憶はない。あつたら気まずい。

まあ、何も氣にする事はない。

結局ステータスでゴリ押すことにした。

策略なんか関係ない。

私はただアイツをネジ伏せればいい。

「14万3000人を超えるファンが詰めかけております中山競場。グレード1のファンファーレが木靈致します」

優駿が、ライバルが、ゲートに入つていく。

「さあ、いよいよ最後の一人、大外16番、二人目の菊花賞ウマ娘ライスシャワーの枠入りを待つばかりです——さあ16人枠入り完了しました。

ゲートが開いて、さあグランプリを制するレースが始まりました
！」

出遅れなし！

ボーガンはどこだ!?

——いた！ バカ二人の直後！

メジロパーマーの後ろにピッタリとついている。

あいつまさか。

——間違いない、明らかにペースがあの時以上だ！

クソ、どうする？

あいつはスリップストリームでスタミナを温存できる。
そもそも3000での走りができたんだ、余計無視できないこと
になった。

かと言つてあの3人とその後ろはかなり差がある。

控えたら追いつけない。

追いかけたらペースが乱れる。

ならば、その中間か。

「先頭はメジロパーマーにダイタクヘリオス、そのすぐ後ろにはキヨウエイボーガン、この3人が非常に早いペースを作り上げているぞ！
そして3バ身離れてライスシャワー、そのまた3バ身後ろには
……」

「依然として大逃げでありますメジロパーマーとダイタクにボーガン、さあ4番手ライスシャワーまでは8バ身、その後ろも10バ身離れているぞ！ 早く追いかけなければならぬ！」

ああくそ早すぎる、アツ何考えてんだ!?
まだバ身差つけるのか!?

今は3コーナー。

今スパート掛けないと確実追いつかない!

「——はあっ！」

「さあライスシャワーが上がってきた！　トウカイティオーは後方3番手、まだ来ないのか!?　メジロパーマー大逃げ！　宝塚の再現なるか!?　残り400!!」

上がり上がり上がり上がり!
中山の直線が短すぎる！

追いつけ、抜かせ!
あと5バ身、4バ——

その時。

キヨウエイボーガンの身体が。

ぐらりと揺れた。

「……え?」

ゆらゆらと速度を失い、外へとヨレて行く。

一瞬見えた横顔には苦悶の表情が浮かんでいて。

私はただ見つめることしか出来なかつた。

「おおつとキヨウエイボーガン一体どうしたのでしょうか!?」
故障発生か!?

4着。

正直、結果なんかどうでもよかつた。

歓声も、メンバーの声も、全てが遠く感じられた。

ボーガンが載せられた救急車のサイレンだけが、耳の中では響き続けていた。

面会許可が出てから、すぐにボーガンの病室に行つた。

「……來たぞ」

「ああ、お前か……」

重い沈黙が病室を覆う。

「……脚、治るのか?」

「さあ?」

「さあ、つてお前……!」

「わからんもんはわからん。医者もそう言つてたからな」

なぜ。

何故。
ナゼ?

「ああそりだライス、あの有馬。

本来との変更点、覚えてるか?」

「……サンエイサンキューではなく、お前が出た」

「そう。そして、サンエイサンキューは有馬でどうなつた?」

「…………あ」

ああクソ、そういう事か。

「死神の鎌は、誰であろうと振り下ろされるつて事だ」

運命つて奴はどこまで糞なんだ。

「もちろん、鎌がカス当たりすることもある。ティオーが菊花出られたのはお前の助言だろ。当たり所はこちらで変えられる」

「……だつたら、あの宝塚はどうなる?」

「まあ、お前が出なかつたら……多分誰かが死ぬ。お前がある程度の対策を持つて出れば、死にはしない」

「……」

「ま、タイムリミットまで2年以上あるんだ。今決めることじゃない」

私はどうしようか。
いつの日か考えよう。

「ボーガン」

「なんだ？」

「……これ」

私は紙袋をボーガンに渡す。

「……絶対に治せよ」

私は病室を後にした。

「……なんだこれ」

「……手紙？ 私に？」

「……は？ フアンレター？」

「……私なんかに届くとは」

「わーお、子供からも来てる」

「これ差出人は……あつ」

「……」

「そうか……見ててくれたんだな……」

「あーあ、絶対に治さなくちゃやな」

弓手はまた立ち上がる。

死神は鎌を研ぎ続ける。

来たるべきその時の為に。

後

21. 有馬の前後で

前

時は少し遡り、有馬の二週間前。

寮の談話室のテレビで朝日杯を見ていた時のこと。

周囲には他の寮生も沢山おり、かなり混雑している。

レースは終盤へ近づき、そして――

「――ビワハヤヒデ1着！ 無敗でジュニア級王者に君臨しました！
2着は――」

テレビからも周囲からも歓声が沸き起こる。

しかしビワハヤヒデが1着か。

あの有馬でティオーネの2着に入つてたんだし強いよな。

……ん？

本来朝日杯は2着じゃなかつたつけ。

何か嫌な予感がしたので、一旦談話室を離れる。

スマホを取り出し、ナリタブライアンに電話をかける。

「…………もしもし」

「あつライスシャワーさん観ましたか観ましたよねお兄ちゃん勝ちましたよ凄いですよね」

ブライアンの大音声に思わずスマホを遠ざける。

「…………うん、おめでとう。その兄に何した」

「え？ いやあ、お兄ちゃんには無敗三冠を取つてもらおうと思つて色々と仕込みをですね」

「…………ええ…………もしかして兄弟で無敗三冠狙つてる？」

「？ 当然ですが」

「マジかよお前…………まあうん頑張つて。多分二人なら出来るから……それじゃ……」

通話を終了して、ため息をつく。

「関係者全員の脳みそ焼き焦がす気かよ……トレーナーとかどうなるんだ……」

朝日杯スレ

856 : レース好きの名無し
コイツ強すぎんか?

857 : レース好きの名無し
出たレース全部レコードとかマジでイカれてる

858 : レース好きの名無し
来年にまた無敗三冠出るつてマ?

859 : レース好きの名無し

アイツら居なかつたら3年連続だつたのに

860 : レース好きの名無し

▽▽859

菓子屋は愚痴言つてないで怪我の復帰祈つてろ

861 : レース好きの名無し

記者会見ですわ

862 : レース好きの名無し

なんだその腰の穴は

863：レース好きの名無し
エツツツツ

864：レース好きの名無し
うおでつか……

865：レース好きの名無し
何でそこに穴開けたの？
殺す気か

866：レース好きの名無し
パドックの時と全く同じ流れで草

867：レース好きの名無し
ブルボンの勝負服はエツチ
ビワハヤヒデの勝負服もエツチ
無敗二冠は確定だな

868：レース好きの名無し
いや、そのりくつはおかしい

869：レース好きの名無し
胸見てないで話聞け

870：レース好きの名無し
▷▷869

でもよお……意識が！

871：レース好きの名無し

▷▷870

下半身に脳みそ付いてそう

872：レース好きの名無し

『この勝利は妹のおかげでもあります。ブライアンが全力で付き合つてくれたので勝利を手にすることができました』

去年この流れ見たぞ

873：レース好きの名無し

一つ下の世代に鍛え上げられるなんてことないやろハハハ
(トウカイティオーから目を逸らす)

874：レース好きの名無し

▷▷867

無敗三冠確定したぞ、おめでとう

875：レース好きの名無し
ナリタブライアンつて何者

876：レース好きの名無し

▷▷875

外部公開の校内レースで見たけど、クツツツツツツソ強い
既にクラシック級の実力あるぞ

877：レース好きの名無し

▷▷876

は？

878：レース好きの名無し

▷▷876

動画 p1z

879 : 876

ほい

「動画」

880 : レース好きの名無し
なあにこれえ（恐怖）

881 : レース好きの名無し
レース前「かつつつわ!!」
レース後「こつつつわ!!」

882 : レース好きの名無し
『目標は姉妹での無敗三冠です』
言いやがった!!!

883 : レース好きの名無し
ええ……

884 : レース好きの名無し
動画見た後だと出来る気しかしない

885 : レース好きの名無し
ワイ来年デビュー予定、絶望しかない

886 : レース好きの名無し
▽▽885

トレセン生がこんな掃き溜めに来るな

887 : レース好きの名無し

こんな所にいないでトレーニングしてきて

888：レース好きの名無し

こんな場末の掲示板にトレセン生いるのか……

889：レース好きの名無し

地方トレセンはいたけど中央までいるのかここ

890：レース好きの名無し

ワイ新参、ここに地方いたの初耳

891：レース好きの名無し

▽▽890

ここに黎明期にいたんだわ
安価スレ立ててレース走つてたぞ

892：レース好きの名無し

安価でレース???

893：レース好きの名無し

作戦も距離も全部行ける子だつたから安価で決めてたな
本人は器用貧乏とか自称してた

894：レース好きの名無し

マジで

スレ教えてくれると助かる

895：レース好きの名無し

t t p s : / / h a k i d a m e k e i j i b a n .
t t p s : / / h a k i d a m e k e i j i b a n .
t t p s : / / h a k i d a m e k e i j i b a n .
c o m / / c o m / / c o m /
こらへん見るといいぞ

案外いい結果残してて面白かったわ
黎明期のアイドルやぞ崇めろ

896：レース好きの名無し

▷▷895

ありがとう

全部見てくるわ

897：レース好きの名無し
地方行こつかな……

898：レース好きの名無し
行くな行くな

お前もスレ立てて走れ

899：レース好きの名無し
お前が第二のアイドルだ

900：レース好きの名無し
中央編始まつたな

年が明けた。

ボーガンからは「多分次の宝塚までには治りそう」と連絡があつた。
なんでも急速に治りが早まつたらしい。

最近上機嫌なのだが、治りが早いから上機嫌なのか、上機嫌だから
治りが早いのか。

おそらく後者の気がする。

これ、私に宝塚に出ろって言つてるよなあ……
春天でマックイーン倒す後だからかなり損耗してそうなんだよ
なあ……

とはいえ春天以外に出ようと思うレースがないから別にいいのだけれど。

長距離、G1もG2も少なすぎる。

海外行けよと言われそしだが、海外は面倒臭そういうかなんというか。

別に国内だけでいいかなあとは思う。
なんだかんだ日本つて便利だし。

その辺はトレーナーと相談して決めてみようか。

あと、最近同室がよくトレーニング中の私を観察する様になつた。
トレーニング場まで付いてきたりメニューを質問してきたり。
こつそりカメラ撮つてるけどバレてるからな。
害がないから黙つてるけど。

このメニューについて来れたらかなり強くなるし頑張れよ。
最近匿名掲示板に入り浸つているようだけど。

後

ゲームばかりやつてる私が言えたことでは無いが。

22. 奇妙な同室

前

レースの予定表とにらめっこをする。

春天と宝塚以外に何を走るかがさっぱり決まっていない。

いつそこういう時は馬の時と同じレースに出てみるか。

というわけで目黒記念と日経賞にチエツクを入れる。

目黒記念の方はマチカネタンホイザに負けたから要注意だな。

ボーガンの退院はまだ先だし、ブライアンは姉貴にベッタリだしで若干暇だ。

スピカの連中とは一応絡んではいるが、春天でマックイーンと戦うから、と現在チームを分けてているのだ。

私はゴールドシップと。
マックイーンはティオーと。

ゴールドシップをシバキ回しながらトレーニングするのは楽しくはある。

煽り運転ならぬ煽り走行をしながら毎回ぶつちぎるので風景パズルの苦しみから逃れられて非常に良い。

ちなみにボーガンから聞いたところによるとこいつ2012世代の馬らしい。

何で今いるの……？

しかしトレーニングをしていてふと思つた。
スピカ、新入部員入れないのか？

と思つていたらトレーナーからいい感じの子紹介してくれと頼まれた。

さては忘れてたな。

とはいえたデビューの知り合いなんかブライアンと同室のアイツぐらいしか知らないぞ。

同室に関しては空いた時間で指導してやつている。

何で急に頼り始めたのか聞いてみたら「お金の為です!!」とすつごいイイ笑顔で言われた。笑える元氣があつたらしいので坂路ダッシュユを追加してやつた。

まあ物欲ほど分かりやすくて追いやすいものもないからちょうどいいのだろうか。

せつかくだしはある程度成長したらスピカに打診してみるか。

中央で生き残りたい

1：クソザコウマ娘

<https://hakidamekelijiban.com/>⋮⋮

こここのスレの885です

来年デビューですが既に心が折れそうです
誰かトレーニング教えてください

2：レース好きの名無し

本当にスレ立てたんか

3：レース好きの名無し

なぜここで聞くんだよ

4 : レース好きの名無し

図書館とか教官とかあるだろ……

5 : レース好きの名無し
ここに中央いるのか……

6 : 1

△△△4

図書館は活字嫌いなので嫌です

教官はクツソ忙しい 予約埋まつてる

7 : レース好きの名無し
字読みや

8 : レース好きの名無し
予約埋まるんか

まあ競争率すごいから埋まるわな

9 : レース好きの名無し

せめて友人とか寮の同室とかおるやろ

10 : レース好きの名無し

メンタルトレーニングか?
アイワナやれアイワナ

11 : 1

△△△9

その手があつたか

12：レース好きの名無し
イツチアホなん？

13：レース好きの名無し
活字嫌いって時点で予想はしてた

14：レース好きの名無し
まずそれが一番に思いつくやろ普通

15：レース好きの名無し

まあその同室が役に立たんかつたら終わりやけどな

16：レース好きの名無し
なお中央の未勝利突破率

17：レース好きの名無し

やめる

18：1

△△16

やめてくださいお願ひします

あと同室はG1勝つてたので問題ないですね
帰つてきいたら聞きます

19：レース好きの名無し
ふあ！？

20：レース好きの名無し

だから何でその状況で話を聞くつて言う選択肢が出て来ないんだ
よ！？

21：レース好きの名無し

G1勝ちウマ娘とか上位0・1%未満の超絶上澄みやんけ
そんなのと同室とか羨ましすぎる

22：レース好きの名無し

今おらんのか

23：レース好きの名無し

イツチマジでアホの子だろ

24：レース好きの名無し

ちなみに同室の勝ちレースはどこなん？

25：レース好きの名無し

同室のサインくれ

26：レース好きの名無し

釣りじやないよな？

27：1

△△24

菊花賞です

同着でしたけど

28：レース好きの名無し

おい
おい

29：レース好きの名無し

待てや

- 30 : レース好きの名無し
たつた今二択に絞られたぞ
- 31 : レース好きの名無し
どつちだ……?
- 32 : レース好きの名無し
ふあつ!?
- 33 : レース好きの名無し
なーんか絶対こっちだらうなって予感がする
- 34 : レース好きの名無し
>>33
わかる
- 35 : レース好きの名無し
こういう時は大概アイツ
- 36 : 1
- 黒い方です
- 37 : レース好きの名無し
ですよね!!!
- 38 : レース好きの名無し
知つてた
- 39 : レース好きの名無し
釣りやろ?

40 : レース好きの名無し
本当か？

41 : 1

本当だつて!!!
勝手に撮つたけど許して!
「菊花賞のトロフィーの画像」

42 : レース好きの名無し
ふあー wwwwwww

43 : レース好きの名無し
w t f

44 : レース好きの名無し
マジかよ

45 : レース好きの名無し
釣りじやなかつたんかよ

46 : レース好きの名無し
トロフィーにイツチの顔反射して映つてんぞ

47 : レース好きの名無し
まじやん

48 : 1

中央にきた時点で顔バレ前提だから問題ナシ！
ていうか既にこの掲示板私の顔上がつてるんですね

49：レース好きの名無しえ？

50：レース好きの名無し
どのスレだよ

51：レース好きの名無し
何で上がつてんの？

52：1

>>>1 に貼ったスレに上がつてた動画あるじゃないですか
あそこに私映つてますよ

53：レース好きの名無し
待つて？ イツチあのレース出てたん？

54：レース好きの名無し
ふあつ！？

55：レース好きの名無し
誰だ？

56：1

ナリタブライアンの2つ内の栗毛が私です
4着だつたぜふへへ（白目）

57：レース好きの名無し
頑張ったよお前

58：レース好きの名無し
ああ……心折れそうつてそういう……

59：レース好きの名無し

言うて2～4着までほぼ差ないやん
1着がおかしいだけで

60：レース好きの名無し

むしろアレに出て折れなかつたのスゲエな

61：1

あの瞬間「クラシック取りてえ～」という夢は夢くぶつ壊れました

今は「お金いっぱいほちい」です

62：レース好きの名無し
芝

63：レース好きの名無し

ウツソだろお前www

64：レース好きの名無し
切り替えが早すぎる

65：レース好きの名無し
ぞ、俗物的…

66：1

やつぱり金だよ金

栄誉なんかよりも金の方が使えるって悟つたわ

67：レース好きの名無し
芝

68：レース好きの名無し
まあ事実ではある

69：レース好きの名無し
稼ぐためにも未勝利突破して勝ちまくろうな！

70：1
△△△69

(○)

71：レース好きの名無し
おい

72：レース好きの名無し
がんばれよそこは！

73：1

別に未勝利突破したら掲示板入りでもお金もらえるじゃん

74：レース好きの名無し
あつダメだ結構折れかけだコイツ！

75：レース好きの名無し
勝たなきや後のレースに出づらいから勝つとけよ！

76：1

ちなみに一個怖い話してもいいですか

77：レース好きの名無し
なんだ

78：レース好きの名無し
ええよ

79：レース好きの名無し
ばつちこい

80：レース好きの名無し
はよ

81：1

あのレースあるじゃないですか
8人立てだつたじやないですか

あの中から既に5人自主退学しております

82：レース好きの名無し
うわあ……

83：レース好きの名無し
おつつつつも……

84：レース好きの名無し
怖いというか重いんだよ

85：レース好きの名無し
つつづら

86：レース好きの名無し
待つて聞きたくなかった

87：レース好きの名無し
イツチは辞めるなよ

88：レース好きの名無し
ここで夢を追いかけると落つこちてしまします
だから、金を追いかける必要があつたんですね

89：1

辞めないよ
お金欲しいもん

90：レース好きの名無し
その意気だイツチ
最も金に汚い重賞ウマ娘になるのだ

91：レース好きの名無し
やだよそんなの

92：レース好きの名無し
(中央へのイメージ) 壊れちゃう

93：レース好きの名無し
そういや適正どなんや
黒いのと違つたらそれはそれでダメだろ

94：レース好きの名無し
たしかに

95：1

ミオスタチン遺伝子はC／Tだつたので使える……はず……

!

96 : レース好きの名無し
中距離か

ならまだ行けるな

97 : レース好きの名無し
C／Cじやなくてよかつたな

98 : レース好きの名無し
マイル／中距離適正か

一番レース多いから金策はしやすいな

99 : 1

黒い人ゲーセンから帰つてきたので聞いてみますね

100 : レース好きの名無し

やつぱりゲーセン行つてたんか黒いの

· · ·

139 : 1

メニュー聞いてみたらサラツと坂路10本とか出てきたんですけどあの

140 : レース好きの名無し
イツチ死んだな

後

23. 2月と言えば

前

2月14日。

バレンタインデー。

とりあえずトレーナー用に適当にデパ地下で買ったものを与えておいた。

で、友人たちの間でもチョコレートが交換されるのだが。

なんか今年はめちゃくちゃ貰つてる気がする。

クラスメイトはまだいい。

見知らぬ生徒からも急に渡されて大変困惑した。

とりあえず礼を言おうと思つたらとっくに逃げてしまつてしたり。念の為に持つてきていた紙袋が全部埋まつた。

とりあえず一旦寮に持ち帰ろうと靴箱を開けたら――

ドサドサドサツ

中からチョコレートの箱が大量に出てきた。
ハート型でかなり凝つたものもある。

お前ら、どうした急に。

来週日黒記念だから今すぐは消費できないっての。

……売店からレジ袋買つてくるか。

その後はゴールドシップとのトレーニングだ。

「ホラホラホラア!!! おつっそいよお!!!?
「ひいいいいいいいい!!?」

「ライスシャワー、凄まじい迫力でマチカネタンホイザを追い立てて
行きます！ 1000メートルの通過タイムはなんと56・2！」

目黒記念。

とある理由でタンホイザを全力ですり潰す。

「——1着はライスシャワー！ マチカネタンホイザは大きく離され
て2着！」

足で地面を搔きながら息を整える。

「——ぜえ、ちょっと、あの、なんで、あんなことを、ぜえ……
「……私は今大変機嫌が悪いです」
「えつ、なんで、なにか、したつけ？」

「チツ……ゴールドシップあの野郎逃げやがって……」

「——ねえ!? 完つ全にとばっちりだよね!? ねえ!?!」

「あいつ見つけたら覚えとけよ……」

「聞いてる!?

観客席から野次が飛ぶが中指と睨みつけで返答する。
これが私の姿勢だ覚えとけ。

全責任は逃げたアйツにある。

ご丁寧に「メガロドンとチューブワーム釣つてくる」と書き置きを残しやがった。

私は何もしていない。

メニューもトレーナーと相談して決めたものだから私のせいではない。決して。

チヨコレートのカロリー消費とかも考えてない。

「これ終わつたらウッドチップ5本ね」
「……生きてる?」
「……えい」

「ゴフツ」

「生きてるようで何より。じゃあそろそろ行こうか」

二

【それ終わつたらケリセン行こうか】

1

中央で生き残りたい part 2

218 : イツチ

あの黒い悪魔め騙しやがって

219：レース好きの名無し

220：レース好きの名無しさん

221：レース好きの名無しさん
何されたんや

222 : イツチ

いつも通りド畜生外道トレーニングやつてたんですけどね
終わつたらゲーセン行こうつて言つてくれたんですよ
やつと遊べるとウキウキしながら行つたんですよ

ふざけんななんで着いた瞬間D○R連コインしたんだよ
「じゃあこれ使い切つて」じゃねえんだよ

さらっと私用のカード発行してるんじやねえよ

223：レース好きの名無し
えげつねえ……

224：レース好きの名無し
芝

225：レース好きの名無し
○D R連続はいやーキツイでしょ

226：レース好きの名無し
ゲーセンはトレーニングジムじゃないんだよなあ

227：レース好きの名無し
なお黒いのの認識

228：イツチ

何がひどいって隙空いてるからって最高難易度すぐ横でやり続け
てるんだよ
なんでトレーニングの後にあんなに動けるの
なんかめちゃくちやカロリー消費のとこ見てるし

229：レース好きの名無し
相変わらずのスタミナお化けだな

230：レース好きの名無し
よかつたやんカード代もゲーム代も出してもらつて

タダでゲームできたんやろ？

231：イツチ

よくねえよ

232：レース好きの名無し
即答で芝

233：レース好きの名無し

ゲーセンにはちゃんとスポーティ持つていけよ
脱水で死ぬぞ（2敗）

234：レース好きの名無し
一回で学習しろ

235：レース好きの名無し
バカなの？

236：レース好きの名無し
ちげえよ

「脱水なら水でいいだろ」って思つて水だけで行つたら塩分不足で死
んだ

237：レース好きの名無し
あほくさ

238：レース好きの名無し
おバカ！

239：レース好きの名無し
せめて塩分タブレットぐらい持つていけ

240：イツチ

なーんか最近黒い人の機嫌が若干悪くて怖あい

241：レース好きの名無し
イツチやらかしたんか？

242：レース好きの名無し
セプク案件？

243：イツチ

私じやねえよ

なんかゴールドシップって人が逃げたらしい

244：レース好きの名無し
ああ……（察し）

245：レース好きの名無し

t w i t t e r で愚痴つてましたねえ

246：レース好きの名無し
目黒記念のアレはそういう……

247：レース好きの名無し
／＼246

アレ本性出てて最高

248：レース好きの名無し

俺も睨んで中指立てて欲しかった

249：レース好きの名無し

>>>248

わかる

250：レース好きの名無し

壁際に追い詰めてすぐ横の壁を思いつきり蹴つてほしい

251：レース好きの名無し

>>>248 >>>249 >>>250

変態だー!!（画像略）

252：レース好きの名無し

イツチ次の校内レースいつ出るんや

253：イツチ

>>>252

再来週の土曜

確か外部公開してたはず

動画だけかもしねないけど

254：レース好きの名無し

またブライアンと当たつたら笑うで

255：レース好きの名無し

ブライアンはもう出ないんじやなかつたつけ

256：レース好きの名無し

そうだつたわ

257：レース好きの名無し

まあ明らかに同世代ぶつちぎつてるから出る意味ないもんなんあ

258：レース好きの名無し
スバルタ始まつてから初めてのレースじゃね？

259：レース好きの名無し
そういうやそだな

260：イツチ

圧倒的な成長を実感する、私もなあ……

261：レース好きの名無し

これで負けたら後がクツソ怖いですねえ！

262：イツチ

>>261

ヤメロオ！（建前） ヤメロオ！（本音）

263：レース好きの名無し

死ぬなよイツチ

264：レース好きの名無し

骨ぐらいはネットに晒してやるよ

265：イツチ

晒すな拾え

後

24. 同室ちゃん

前

私の同室は変人だ。

とにかく自由。ひたすら自由。

思いついたことを大抵すぐに実行する。

twitterの固ツイもアイコンも未だにポニョのやつで。暇さえあればすぐにPCいじつたりゲーセンに行つたり。かと思えばトレーニングは尋常じやないほどキツいのをこなす。

そして私にもそれをやらせてくる。

マジでキツツイ本当しんどい。

道端でぶつ倒れてたらトニービン先輩が介抱してくれた。感謝。

あと私の中での呼称が「黒鬼」から「黒い悪魔」に変わった。

その悪魔が、柵を挟んで目の前にいる。

「——レースの後、色々声かけられるとと思うけど真っ直ぐ私の所へ来て

「あつハイ。ちなみに理由は?」

「その時に言う」

「今教えてくださいよ……」

今から校内レース。

外部にライブ配信されているからスレ民も見てはいるはず。
あー緊張する。

私だけを見ている人間が何人かいるということを考えるだけで鼓動が早まる。

ゲートの前まで行く。

大きな鉄の門が歎声の中でも静かに鎮座している。

一人、また一人とゲートに入つていき、私の番が来る。

ゲート直前で尻尾を大きく3回転。

スレで決めた合図。

——案外アリだなこれ。

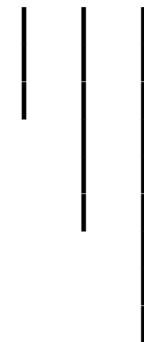
心が切り替わる感じがする。

今後のルーティーンにしよう。

鉄門に一步を踏み出す。

「——さあ大きく尻尾を回した3枠4番オフサイドトラップ、今ゲー

トインです」



「——今ゴール！ オフサイドトラップ、全く他者を寄せ付けなかつ
た！」

…………あれー？

なんか…………勝った。

勝った実感が湧かない。

パパーっと走つて最後に抜いて終わつた。

これは…………アレじやな？
強くなりすぎたつてやつじやな？ （傲慢）

いや～やっぱあの外道トレーニングすごい力付いてるじやん！

黒い悪魔とか呼んで下さいませんでしためつちや効果ありましたねえ！（テノヒラクルー）

これは今後も安泰だなやつたぜ。（慢心）

凱旋気分でライスさんの所に向かう。

スカウト目当てのトレーナーが沢山寄ってきたけど、まずはこっちだ。じやないと後が怖い。

ライスさんは彼女のトレーナーと何やら話しているらしい。

「…………ビの兆候があるから坂路とプールだけに絞つてて……」

「ライスさあーん！ 勝ちましたよー！」

「…………はいおつかれ。調子乗つてるとこ悪いけどこれ名前書いて」

「はい？ なんですかこれ」

ライスさんから一枚の紙を渡される。

トレーナー契約書。

「…………？」

「今日からスピカ所属ね
「…………え？」

逃れられぬ悪魔。



日経杯が終わつた頃。

逃亡者を見つけた。

「…………ゴールドシップ？」

「おっライスじゃーん！ 聞いてくれよお道々のドアを蹴りながら空
を裂く悲鳴をマントルから饒舌に編んでたんだけどさあ」

「……はい」「ねえ」

「あと一ヶ月で春天だよね」
「…………はい」

「どこ行つてた」

「…………ナーシサス次元のホログラムを登りに」

バギツ、メギメギメギメギ……

すぐ近くの木を思いつきり蹴り倒す。

「もう一回どうぞ」

「すいませんでしたアタシが悪かつたですお願ひだから殺さないで下さい」

後

25. 新年度

前

4月。

ゴルシを追い回しながらトレーニングに励む。

ボーガンから「多分マツクイーンに強化入ってるぞ」と言われ、アレに更に強化が入つたら尋常じやないことになると焦っている。

そりゃあ私がティオーを強化したんだからそれを見てマツクイーンが強くなるのは当然か。

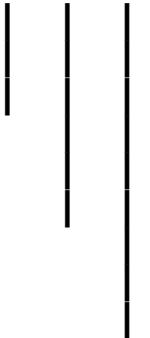
真面目に走る強化マツクイーンとか怖すぎる。

全力でやらないと勝てないぞこれ。

宝塚までに回復間に合うかなあ……

素直にボーガンにも頼つて色々やつてみるか……

食堂にて。
なんかやけにざわついている。



何があつたのかと思うと――

食事の山があつた。

オグリキヤップ以来だなアレ見るの。

もう卒業したから見れないかと思つていたのに。

飯の山の前に座つてるのは誰だ、と山を回り込むと――

「――お久しぶりです、ライスシャワーさん」

「……え？ ミホノブルボン？ ……ああうん、久しぶり」

久しぶりだなミホノブルボン。

何でこんなに食べてるのか理解出来ないけど。

「……この食事の山は？」

「……まず、私が故障していることは知っていますね？」

「うん」

「次に、オグリキヤップさんが繫鞠帯炎から復帰したことでも知つていますね？」

「うん」

「繫鞠帯炎は不治の病とされていますが、オグリキヤップさんは多量の食事、並びに湯治によつて回復しました」

「……うん？」

「私の怪我は繫鞠帯炎より軽いです。ですので、同じことをすれば治療できるのではないかと考えました。故にこのような多量の食事を

撮っているのです

「…………いや、そのりくつはおかしい」

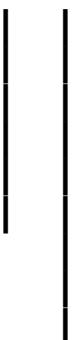
「いいえ。前例が存在している以上可能であると考えます」

「……ちなみにカロリー消費は？」

「現在可能な運動で行っています」

「……わお」

オグリキヤップに関しては突然変異じやねえのかなあ……



皐月賞。

やつぱりビワハヤヒデが勝ったよ。
ブライアンマジでやりやがった。

というかブライアンの成長が著しい。
いつの間にか私の身長を抜かしやがった。
しかも10cmも。
私150しかないんだぞ。
ちよつとぐらい分けろ。

一緒に走つたら普通に追い付いてくるし。

未デビューのウマ娘が出していい実力じゃない。

オフトラに話したら暫くぶつ倒れたぞ。

お前もうクラシック終わつたら海外行つてくれ。
多分凱旋門行けるんじやないかな。

芝とか海外バとかよく知らないからわからないけれど。



「……あくもうクソが！　日本語マジでわかんねえ！　『が』と『は』の区別がつかねえんだよマジで！」

「まあその辺りは難しいからねえ」

「難しいっても限度があるだろが！？　何で3種類も文字があるんだよ!?　何ですぐに主語省略するんだよ!?　日本に来てからもう2年過ぎてんだぞ！？　未だにカタコトでしかしゃべれないのイカれてるぞマジで！」

「その分表現力は高いからね。案外あの子たちもカタコトでもわかつてくれてるでしよう？」

「永住するんだから話せなきゃダメだろうが。つーかあいつら入学したんだろう？　トレセン行つてくるわ。久々に顔が見てえ」

「つい先々週会つたばかりなのに？」

「気になるんだよ！ 特にマーベラス！ んだから確認していく！」

「はいはい。気をつけてね」

あいつの疝痛と骨折ヤバい

後

26. 春天

前

もうすぐ春天という時。

『……あーわかるわかる。私に絡んでくる奴らほんつと個性的といふか話が通じないというか、アソツなんか頭にマリファナ詰まつてんじやねえかと常々思つてるよ』

『わたくしもゴールドシップとかゴールドシップとか絡んで来ますのよ……この間なんて妙な4本足の生き物をけしかけて来ましたのよ……』

『お互い大変だなあ、ええ?』

マックイーンともう一人、鹿毛のウマ娘がいた。
会話は英語。

鹿毛の方は私服だから、海外からの見学者だろうか。

「……あら、ライスシャワーさん。おはようございます」

「おはようございます。今は案内中ですか?」

「ええ、この方は……」

『ああ、私がやるよ』……ハジメマシテ。ワタシはサンデーサイレンス、です』

「……マジかよ…………『こちらこそ初めてまして、ライスシャワーです。それと英語で大丈夫ですよ』

『おお、ありがてえ。よろしくな』

とりあえず握手を交わす。

というか米国二冠バがなんでここにいるんだ。

活躍をボーガンから聴いている以上すごい緊張する。

『サンデーサイレンスさん、この方が先ほどのゴールドシップをコントロールできる数少ない人です』

『は？ マジ？ こんな華奢っぽいのに？』

『あなたほどではないんですけどね』

『……アツハツハツハ、違いねえ！ よく見りやあ案外しつかりしてるじゃねえか！』

『して、今日はどういった御用件でここに？』

『ああ、日本に来てから教えてきた奴らが入学したからな。様子を見に来たんだよ』

『そういうことですか。いつの日か競うことになるかも知れませんね』

『油断するなよ、アイツらはかなり強えぞ？ なんたつて私が教えてきたからな』

『ならば楽しみにしていますよ』

『こつちこそ。……ああ、もうこんな時間かよ。アイツが待ってるんだ、そろそろ帰るよ』

春天の日。

私はスピカの先輩方と共に京都に来ている。

メジロマックイーンさんとライスシャワーさんの激突。

さつきお互いが会話していたけど、重圧が凄すぎて周りから人が居なくなっていた。

漫画だつたら絶対目と目の間に火花散つてた。

明らかに「お前を潰す」つてオーラが二人から出てたもん。

すつごい怖かつたよ本当に。

ゴールドシップさんとか逃げ出したし。

すぐにトレーナーさんが足引っ掛けで捕まえたけど。

パドックの前の時。

「ティオー先輩、どっちが勝つか賭けません?」

「いやダメでしょ」

「じゃあ私はライスシャワーさんに2兆ジンバブエドルで」「だからダメだつて。ていうかそれほぼゼロじゃん」

「だつたら花京院の魂も賭けます」

「いやそつちじやなくて」

待つてる間にスマホを取り出す。

53：イツチ

二人の重圧ヤバすぎて怖い

54：レース好きの名無し

画面越しでもわかるのに直接会つたらそら怖いわ

い。
テレビ越しとかすごいな、の人たち。
そこまでは行かなくとも、なんかオーラとか出せるようになりた

カツコいいし。

63：イツチ

>>54

新幹線の車内クツソ怖かつたぞ

64：レース好きの名無し
他の乗客かわいそう

65：レース好きの名無し
いるだけで営業妨害は芝

営業妨害か。

流石にそこまで行かないでしょ。

——前日のレストランもなんか人少なかつたな。
周りの人気がとつとと帰つてたな。

やつぱ行つてね？

72：イツチ

お高いレストラン行つたのに味がしなかつたぜ

73：レース好きの名無し
芝

74：レース好きの名無し
勿体ねえwww

アレはお金返して欲しい。
いや学校の経費で落ちてたわ。
じやあ時間で。

79：イツチ

あー始まつて欲しくない
でも結果は知りたい

80：レース好きの名無し
心がふたつあるく

81：レース好きの名無し
ちゃんと見て技術吸収しろ

82：イツチ

私に春天は長すぎるつての

ただ見るだけのはずなのに、緊張がおさまらない。
心臓が早鐘を打つ。

あつそうだ。

「ティオーさんちよつと失礼しますね」スウウ～
「ピイイイイイイイツ!?」

88：イツチ

ティオーさん吸うと落ち着く
いい匂いする

89：レース好きの名無し
ファツ!?

90：レース好きの名無し
イツチ!?

91：レース好きの名無し
何やつてんのお前!?

92：レース好きの名無し
※百合の花が咲いています。大切にしましょう

93：レース好きの名無し
ここに塔を建てよう

後

「さあ晴れの良バ場となりました第107回天皇賞（春）」

「一番人気はやはりこのウマ娘、『ターフの上の名優』メジロマックイーン。8枠14番での出走です」

マックイーンさんの名前が呼ばれる。

あの人、気迫が凄い。

遠くにいるのにビリビリと肌に来る。

仕上がりも完璧。

そりやあ黒い人もベッドであーだこーだと対策を練るわけだ。

「ゲートインですが……なかなか入りませんね。瞑想……ででしょうか？」

マックイーンさんは目を閉じてゲート前に立ち止まっている。

やがて顔を上げ、ゆっくりとゲートに入つていった。

「2番人気を紹介しましょう、『黒鬼』ライスシャワー。2枠3番です」

黒鬼。

いやもう私としては「鬼じゃなくて悪魔だ！」と大声で主張したいのだが。

この呼び名には一応原因があつて。

先週、ライスシャワーさんに「写真撮ってくれ」とお願いされて、露出多めのトレーニングウェアを着た写真を撮つたのだけれど。ライスさんがTwitterにそれを投稿した。

そしてエゲツなく絞られた身体に凄まじく反応が付いた。

いやあ撮った私が一番実感したよね。
何だあの筋肉。

金剛力士像とか言われててクツソ笑つたぞ。

そしていつの間にか鬼に名称が変わった。

目黒記念とかのアレも原因だろうな、きっと。

ちなみにスレ民には私が撮つたってことは一瞬でバレた。
まあ私しか撮る人いないしね。

今スレを見ると、実況が黒鬼呼ばわりしたことに沸いている。
君たち、もうすぐ始まるぞ。

全員がゲートに入り――

「マックイーンの三連覇か、ライスシャワーが勝利をもぎ取るか、はた
また。

――さあ天皇賞春、今スタートです！」

マツクイーンが強化されているなら、やることは一つ。

得意分野で全て押し通す！

スタートしてすぐにマツクイーンの後ろをマーク。マツクイーンはチラリと後ろを見て、「やはり来ましたわね」と微笑を浮かべた。

それを見て「来てやつたぞ」と獰猛に笑み返す。

メジロパーマーが相変わらず先頭、その少し後ろにマツクイーン、続いて私。

ずっとポジションをキープしていると、横からチラチラと視界に入ってくる奴がいた。

マチカネタンホイザだ。

正直かなり鬱陶しい。

耐え切れなくなつて思わず「失せろ！」と怒鳴りつけてしまった。途端にビビり散らした様子だったが、今度は静かに私の後ろについ

ていた。

意外とやるじゃないかお前。

私達の圧によってか、パーマーがさらに加速。

あの時よりもさらに早いペースでレースが進んでいく。

その状態を保つたまま、三コーナーの終わりまで来た。

その状態を保つしかなかつた。

あの時よりもさらにハイペースになるのは想定済み。

であれば、少しでもスタミナを温存しておかないと差し切れない。

マックイーンの無尽蔵とも言えるスタミナでも、限界はあるはずだ。

故に、マークをしながらスリップストリームを使うのが得策。

それをマックイーンは許容した。

小細工があろうとも叩き潰す、真正面から迎え撃つ。

そんな意思を感じる。

こいつならやってしまえるのではないか、との思いがチラつく。

だとしても、勝たせるつもりは毛頭ない。

その余裕ごとぶつ潰す！

パーマーが垂れ始めたのを合図に、私達は一気に加速し始めた。

「間もなく最後の直線、一気にメジロマツクイーンとライスシャワーが上がってきた！ 少し遅れてマチカネタンホイザ、……」

お互いに目が合つた。

——
行くぞ！

——かかつて来なさい！

追いつき、追い越し、追いつかれ、抜かされ、また追いつき。

何度も交わし交わされ、そのたびに差は縮まり。

「縮まつてたまるか」と再び離しにかかる。

あまりにも暴力的なスピード。
歓声が消え、色が消え。

何も考えず、「負けてたまるか」という意思のみで脚をぶん回す。

ゴール板が近づいて。

魂の奥底から勝利を求めた時。

何か、殻を破るような感覚を覚えて。

グン、と身体が前に出た。

「——ライスシャワーがわずかに抜け出してゴールイン！ やはり鬼
は強かつた——！」

ゆっくりと周囲の音が聞こえ始めた時、

視界がぐらりと歪んだ。



425：レース好きの名無し
起き上がらんぞ

426：レース好きの名無し
大丈夫か

427：レース好きの名無し
動いて

428：イツチ

全員走り終わつたの確認したら直ぐに向かい
アレ多分ヤバい

429：レース好きの名無し
ふあつ!?

430：レース好きの名無し
待ってくれ壊れるほどは出して欲しく無かつた

431：レース好きの名無し
イツチ頼む

432：レース好きの名無し
終わつたか？

433：レース好きの名無し
無事であつてくれ

434：レース好きの名無し
イツチ行つた！

435：レース好きの名無し
トレーナーはよ

436：レース好きの名無し
マツクイーン頑丈だな……

28. 安否

前

「ライスシャワーさんっ!!!」

倒れたライスさんの元へ急いで駆け寄る。
倒れてから微動だにしない。

最悪の想像をしながら向かつた。

「ライスさん!? 大丈夫ですか!?」

地面に突つ伏したままのライスさんに声をかける。

「あ、オフトラ？　トレーナーもそこにある？」

——あれ？

なんか無事っぽいぞ？

「え、えーっと？　大丈夫なんですか？」

「うん大丈夫。身体が微塵も動かないこと以外は」

「全然大丈夫じゃないんですけどそれ！」

やつぱりダメじゃないか。

「怪我とか故障とかしてないかすつごい不安なんですけど

「あーいやこれは多分セーフな気がする」

「それを決めるのは医者です。早く担架に乗せますよ」

ゴールドシップさんとトウカイティオーサンが持ってきた担架にライスさんを乗せる。

——この人見た目以上にかなり重いな！

「筋肉は重い」「力の入っていない人は重い」というのは知っているけど、ここまで行くのか。

「ドナドナドヽナヽドヽナヽ」

「運ばれてる間にそれ歌わないで！」

運ばれていったのを確認してから元の場所に戻る。

484：イツチ

なんか余裕そうでした

運ばれてる時ドナドナ歌つてたので問題ないかと

485：レース好きの名無し
思わず膝の力抜けたわ
こぼしたコーヒー返せ

あの後のライブ。

マツクイーンさん曰く「負けたレースでセンターを踊ることほど悔しいことはありませんわ」とのこと。

まあ分からなくもない。

だけどスイーツやけ食いは良くないとと思うんですよ。

春天終わったからってまだあなた宝塚あるでしょうが。

ライスシャワーさんには精密検査が行われた。

結果、極度の疲労以外は何も異常は無かつたらしい。

本当にセーフだった。

ほんつと安心した。

今日は見舞いに来た。

「おはよう(ゞ)いまーす
「はい、おはよう」

ベッドの上に座るライスさんの顔を見た時、なんか違和感を感じた。

じつと見てようやく気付いた。

「目が凄いことになつてますよ」

「……え？ マジ？」

「いやほんとですつて」

目の写真を撮り、見せる。

「ほら、虹彩のフチ。めっちゃ黒くなつてますよ」

「え、なにこれ……」

そして近くに寄つて更に気付いた。

「ていうか髪の毛がより黒くなつてしません？」

「は？ 流石にそこまでは……」

ライスさんが自身の髪を確認して、

「うつわマジだ……」

と呟いた。

「何ででしょうか……」

「んぐ、心当たりがないとは言えないが……」

「……それは」

「なんか、身体の感覚が違うというか……神経だけぶっこ抜いて新しい肉体に移植したみたいというか……」

「え、大丈夫なんですかそれ」

「いや、むしろ前より『しつくり来る』気が……ただ慣れてないから凄い動きづらい」

あのレースで何があつたのか。

「とりあえず、暫く休養ですか？」

「だなあ……宝塚はまあ無理だな……ボーガンには悪いなあ……」

キヨウエイボーガンさん。

ライスさんの友人だけど、私とはあまり接点がない。

たまに一緒にバカやつてるらしいけど。

「……カマーは様子見るとして……秋天は短いから出たくねえな……どうすつかな……」

何やらぶつぶつ呟いているけれど、この様子なら大丈夫でしょ。

「あ、北海道行きたい」

「……なぜです？」

「いや、なんか草原の上で走りたくなつて来た……」

「は、はあ……」

「あとアレだ、サラダ食べたい」

「ええ……？」

春天、マジで何があつた。

——通話ログ——

『ライスお前ぶつ倒れやがつてよお……出しすぎなんだバカ』

『いやマツクがあそこまで来るとか予想できるかよ……』

『アレは私も驚いたぞ。……はー、宝塚出れなくなりやがつてこの野郎く』

『しそうがないじやん。お前復帰明けだけど勝てるの？』

『……多分。ああいや元の勝ち馬マツクじやねえか。うわきつつづ……』

「すまんな強化してしまつて」

『お前マジで許さんからな……』

「何やかんやで削れてるだろ……多分。おそらく。きっと」

『あのさあ……そうそう、宝塚と言えばだな』

『何があつた』

『ブルボン出走するつてよ』

「……What?」



766：イツチ

部屋がさみしい

767：レース好きの名無し
まだ入院してるからなあ

768：レース好きの名無し
黒いのはどうなんやろ
絶対に大丈夫だという確信があるけど

769：イツチ

ノーパソ持つていってあげたし大丈夫でしょ

770：レース好きの名無し
雑だけど最適解

771：レース好きの名無し
Twitterじや元気だよなあ

772：レース好きの名無し
入院してツイートが増え
まごうことなきツイ廃

773：イツチ

いやほんとに部屋が静か
同室の存在つて大事

774：レース好きの名無し
おぢさんが招き入れてあげようか笑

775：レース好きの名無し
きつつしょ

776：レース好きの名無し
△△774

本物はもつとキモい
—1919810点

777：レース好きの名無し
おじさん構文普通に難しくね？

778：イツチ

あのキモさは本物じゃないと出せない
Twitterでエミュ垢作ろうとして挫折したわ

779：レース好きの名無し
何やつてるんですかねえ

780：レース好きの名無し

なぜおじさんエミュ垢を作る気になつたのか

781：イツチ

ちなみにこれがはじめての挫折な

782：レース好きの名無し
アホ過ぎる

783：レース好きの名無し
そんなもので挫折するな

784：レース好きの名無し

あのレース前に作ろうとしてたのかお前

785：イツチ

▷▷784

入学して一ヶ月後にやろうとしてた

786：レース好きの名無し

お前才能あるよ

787：レース好きの名無し

黒いのの同室になつたのも宜なるかな

788：レース好きの名無し

イツチはデビュー戦いつにするんや

789：イツチ

スピカはみんなデビュー遅いんだよね
しかし私は勝ちウマ娘第一号を目指す

790：レース好きの名無し
お!?

791：レース好きの名無し
ダービーの後すぐか

792：レース好きの名無し
負けたら笑える
やつぱり笑えない

793：イツチ

ジュニア期のうちにオープンまでは上がりたい

賞金ほしいし

上がれるかはわかんないけど

794：レース好きの名無し
イツチならいけるやろ

795：レース好きの名無し
黒いのの指導受けてるやんけ

796：イツチ

>>795

今!! 入院中!!!

797：レース好きの名無し
あつ

798：レース好きの名無し
芝

799：レース好きの名無し
言うて疲労ならそろそろ帰つてくるやろ

800：イツチ

身体の感覚がおかしいとか言つてるから復帰はかなりかかるよ

801：レース好きの名無し

>>800
え?

802：レース好きの名無し

待てや

803：レース好きの名無し
はよそれを言え!!

804：レース好きの名無し
大丈夫なんかいなそれ

805：イツチ

本人は「絶対に戻るし多分前より良くなる」って言つてるから大丈
夫

806：レース好きの名無し
ホンマか？

807：レース好きの名無し
感覺つて戻れんの？

808：レース好きの名無し
前より良くなるつてなんだよ……

後

29. バカ騒ぎ

前

日常生活に差し支えがないレベルまで回復したので退院。あくまでも日常生活において、の話である。なので、久々にゲーセンに行つても――

「あちゃー、スコアも精度も全つ然出ねえ……」

こうなる。

回復するまでは低難易度詰めるか……

トレーニングも、今はかなり軽めのものにしている。下手にやつて怪我したら怖い。
ただオフトラへの指導はやめるつもりはない。
一番最初のデビュー戦に出たいとのことだったので、教えられることを詰め込んでいく。

しかし改めてこの学園クツソ広いな。
歩いて移動してたらかなり時間がかかつてしまつた。
学内用の自転車つて使えたつけな。

最悪オフトラに背負わせて運んでもらうか。



時は少し流れ5月末。
日本ダービー。

……うん。

ビワハヤヒデが勝つたよ。

ここから菊花賞までは全て勝っていたはずなので、無敗三冠が確定した。

とうとうやりやがったなナリタブライアン。
ティオ一の有馬が不安でしかないんだが。
出来れば奇跡の復活はウマ娘としてであっても見たいんだけど。
ちよつと手を加えるか……

そういうやブライアンつていつデビューするんだろうか。
本人は特段急いでいない様子だつたけど。

しかしブライアンと同世代のウマ娘が哀れすぎる。
ブライアン、多分希望すら一切見せずに廻殺して行きそうちだから
なあ……

退学者が増えそうでなんとも言えない。

これで「ジュニア期の重賞総ナメします」とか言い出したら流石に
止めるぞ。

せめて合計4つまでに抑えてくれ。

これでも大分多いけども。

タイムも出た！
内枠引いた！

あとは勝つだけ！

58：レース好きの名無し
やつとデビュー戦か

59：レース好きの名無し
デビュー戦つて基本映像残らんのよね

60：レース好きの名無し
このためだけにレース配信のサブスク登録してきたわ

61：レース好きの名無し
>>60

俺もソーナノ

62：レース好きの名無し
同志よ

63：イツチ

お前ら私のこと大好きかよ

64：レース好きの名無し
当たり前ダルルオ？

65：レース好きの名無し
当然

66：現地勢
レース場で直に見てるで

67：レース好きの名無し
近くだから見に来たわ

68：レース好きの名無し
△△△66
どこにある

69：現地勢

△△△68

最前列の青ニット帽がワイや
人そんなにおらんし分かるやろ

70：レース好きの名無し

△△△69

確認した
行くわ

71：レース好きの名無し

折角やし現地勢全員集まろか

72：レース好きの名無し

△△△71

判別どうするよ

73：現地勢

△△△72

普通にスマホでこのスレ見せたらええやろ

74：現地勢その2
お k 把握

75：イツチ

なんかオフ会になつてない？

76：レース好きの名無し

お前を応援しに来たんやぞ

77：レース好きの名無し

離島民やけど画面から応援しとるで

78：現地勢

結構集まつてきて芝

20人近くいるぞ！

79：イツチ

ファツ？

80：レース好きの名無し
結構居るじやねえか！

81：レース好きの名無し
ROMつてるのも居るだろうからな
それでも多いか

82：現地勢その3

数ヶ月ぶりに外出したわ
太陽が眩しい

83：イツチ

待つて控室でめっちゃ緊張してるんやけど

84：レース好きの名無し
黒いのも見にきてるやろ

85：レース好きの名無し
多分勝てるつて

86：イツチ

時間來た
パドック行つてきます!!!

87：レース好きの名無し
行つてこーい！

88：レース好きの名無し
行つてらっしゃい！

89：レース好きの名無し
健闘を！

90：ちくわ集合論

チクツワ・タルタルスキーの定理

91：レース好きの名無し
ノシ

92：レース好きの名無し
なんだ今のは

パドックに上がる。

緊張で身体が震えるけれど、意を決してジャージを放り投げる。

少ないながらも、私を見てくれている人がいる。

デビュー戦なんか見るのはコアな人たちばかりだけど。

ライスさんはすぐに見つかった。

あと、あの人たちは……

いた、青二ツト。

となるとあの一団が全部スレ民なのか。
手と尻尾を振つて、気づいたよ、と合図。

するとやけに野太い声援が届いた。

周りの人がチラチラ見てるのがどこか面白い。

なんか緊張もほぐれてきた。

じゃあ、行きますか！

118：レース好きの名無し

お前らの声が画面から聞こえてきて芝

119：レース好きの名無し

現地勢映つたな

120：レース好きの名無し

あそこだけチーズ牛丼の匂いがしそう

121：レース好きの名無し

画面 「「うおおおおお!!」」

122：レース好きの名無し

周囲の人めっちゃ気にしてて芝なんだ

返しウマも終わり。

尻尾を三度回し、鉄籠の中に入る。

一度、二度と深呼吸。

前をじっと睨み、全神経を研ぎ澄ます。

そして——ガコン、ドゲートが開いた。

3角に入る。

ここまで順調に逃げ続けている。

まだ脚はかなり残つてゐる。

耳を後ろへ向ける。

このレベルじゃあ、わざわざ見る必要もない。
足音だけで位置を把握しろ。

あの兎の指導を思い出せ

—2バ身に2つ。3に1つ。

これなら、
行ける！

—3、2、1、今つ！

273

「さあオフサイドトラップがさらに上げてきた！」

後続は大丈夫か

4角を越え、直線に入る！

歓声が近づいて来る。

「フアミチキくださあああい!!!」

「きしめええええええん!!!」

「何か叫んどけえええ!!!」

——ああ、この声は。

何叫んでんだよアイツら。
まつたく、笑えるじやんか。

「——ハハハ！ アハハハハハ！」

ああ、楽しくなつてきた。
笑いが止まらない。

思いのままに、駆ける。

前へ。
前へ。
前へ！

「——オフサイドトラップ、6バ身以上の差をつけて今ゴールイン！」

終わってからも、笑いが止まらない。
そのまま、元凶どもに親指を立てた。

150：レース好きの名無し

おwwwwwえwwwwwらwww

151：レース好きの名無し
「ファミチキくださいあああい!!!」

152：レース好きの名無し
あーもう滅茶苦茶だよ

153：レース好きの名無し
はつきり聞こえてきて爆笑したわ

154：レース好きの名無し
イツチが勝つたことよりもお前らの行動の方が気になるわwww
イツチ爆笑してて芝

156：レース好きの名無し

俺も行つとけば良かつた

157：レース好きの名無し
お前らのせいで珍レースだよ

158：レース好きの名無し
周りの困惑つぶりよ

159：レース好きの名無し
他のウマ娘が可哀想になつてきただわ

160：レース好きの名無し
次は関西来てくれ
ワイも行きたい

161：レース好きの名無し
△△△△△

空白

(△△△△△) <アハハハハハ!!

(。△)(。△)

(。△)(。△)

162：レース好きの名無し
お前ら愛してる

30. 身体

前

宝塚記念。

やはり目玉は春天で尋常じやない走りを見せたメジロマツクイー
ン。

というか、あのレース前世より差が縮まつてるんだよ。
訳わからんねえよマツクの実力……

他には、相変わらず大逃げかますメジロパーマー。
安田→宝塚とかいう意味不明なロー^テを組んだイクノディイクタス。
これで馬では2着だつたんだから頑丈にも程がある。
怪我から復帰したキヨウエイボーガンとミホノブルボン。
なんやかんやで順調に結果を残し続いているサンエイサンキュー。
私も出たくはあつたんだけどな。

トウカイティオー?

……うん。気を付けたんだよ。滅茶苦茶よく見てたんだよ。

何でいつの間に剥離骨折してたんだよ。

コイツの怪我で防げたのダービーのアレだけじゃねえか。

しかも緩和に過ぎなかつたし。

なんかに取り憑かれてない？ 大丈夫？ ケツに塩振つとこうか？

ともかく、かなり豪華なメンツが揃っている訳で。
ただ、なんとなく結果が見えてる。



「——メジロマツクイーン堂々の1着！ 2着はキヨウエイボーガン、3着はミホノブルボン！」

まあ、こうなるな。

いや、惜しいとこまでは行つたんだよ。

ボーガンとブルボンがマツクに対処する方向で一致したから、かな
り追い詰めてはいたんだよ。

最後に半バ身抜かされた。

なんなんアイツ。

限界まで行けば勝てるけれども、まず限界を出せる状況で、かつ限界を出す意思がないと勝てないってのはもうラスボスなんだよ。

怪我明けじゃなかつたらもしかしたら、とは思うけど。

「イメージソング？」

トレセン某所にて、URA職員と向き合う。

「ええ、菊花賞天皇賞での目覚ましい活躍によりまして、上層部から『作つてはどうか』とのことで」

「あー……なるほど」

ウマ娘それぞれの固有の歌。
要するにファン向けの商売。

まあ、URAから色々と補助を受けているのだし、これぐらいは協力してもいいだろう。

こちらは歌うだけで良いのだし。

「では、その話を受けさせていただきます」

「ありがとうございます。ではこちらのWebフォームから入力していただければ、いくつかサンプルをお作りいたしますので、よろしくお願ひします」

「はい、わかりました」

寮に戻つてからパソコンで欄を埋める。

そのうち、大体の方向性を決めるであろう、

「好きなアーティスト、ねえ……」

この質問まで来た。

いいのか？ 私は音ゲーマーだぞ？

アーティストという大まかな括りでいいのか？

では遠慮なく。

FromsとSakuzyōとモモあしとSilentr
OmとARFOr est入れて、終わり！

曖昧な質問にしたURAが悪い。

嘘だろ、ちゃんと作りやがった。
すまんURA、絶対突つ返されると思つてたわ。

カツコいい曲じやん、歌詞も良いし。
流石。プロ……

こうか？

いや違うな。

もう少し前傾か？

あーダメ。

色々と試行錯誤している内に――

「お、おお？」

何かそれっぽい感覚が来た。

ガツチリとハマったわけではない。
正解に近づいているような感覚。

ともあれ、ここからは手探りになりそうだ。
そして、感覚的にかなり時間がかかりそうな気がする。
数ヶ月では終わらなさそうだぞ……

――もしかしてこれ低迷期来てる?
待つてくれ。

そこまで馬時代再現しなくていいから。

……映像を出来る限り撮つておき、後で考えるとしよう。

トレセンに来る前を思い出す。

こんな感じであーだこーだやつてたな。

当時思つてたのとはかなーり違うことになつてるけど。

どうしてこうなつた。

「えー只今より第n回元馬集会を開催します。まずは各自の次走から

「オールカマー。身体の調整が目的。ついでにターポ潰す」

「デビュー戦です。7月初週を予定しています」

「で、私が秋天、と。ライス、私と秋天出ようぜ」

「短いから嫌。一応JC出るからそっちで」

「やだよ2400長いじやん」

「菊花走り切つたくせに何言つてんの?」

「あとレガシーと一緒に走りたくないんだけど。気性難が過ぎる」

「レース前にトレーナーぶん投げるだけじやん。馬の時よりマシだろ」

「十分おかしいからな?」

「……それはそう。ところでブライアン、ジュニア期の出走予定は?」

「重賞をたくさん」

「ダメ」

「なんですか!」

「お前が躊躇したら他の奴が哀れ過ぎる。多くても4つまでな」「何で情けをかけなくちやならないんですか」

「一応トウインクルシリーズは興行としての面もあるから。あんまりやりすぎるとURAに怒られるぞ」

「……はい」

後

31. (多分) ギヤグ回

前

夏。

つまり夏合宿。

毎回高い宿を提供してくれてありがとう、メジロ家。
ただこれも今年で終わりなんだろな。
マツクイーンは今年引退するはずだし。

あと宿に着いた時、オフトラが泡吹いてぶつ倒れた。
この高級感はびっくりするよね。

来年からは別の所だろうから、今の内にこここの雰囲気を感じておけ
よ……

色々と準備してウォームアップ済ませてトレーニングへ。
全員一緒にやるやつを済ませて。

「オフトラ、はいコレ」

「……靴？」

「そう、例の靴」

「…………待ってくださいよ、私はアレをやるつもりはないんですけど」

「……GO！」

「いやその私は」

「いいから早く行く！」
「畜生やつてやらあ！」

「無理です、10歩以上走れません」

「出来るまでやつて」

「そもそも海の上なんて走れるわけないじゃないですか」

「反例：私」

「何ができるんですか？」

「他のスピカメンバーも全員できるよ？」

「何ができるんですか??」

「スピカだから」

「説明になつてません!!」

結局、1時間ほどで走れるようになつた。

ようこそスピカへ。

まずゴルシの豪速枕が飛んでくる。
姿勢を低くし、尻尾を用いてマックイーンへと勢いを逸らす。

交戦開始だ

張り詰めた緊張が、 puff、と切れた時。

訪れる静寂。

それを見た者も自らの枕を掴む。

布団が敷かれ、しかし就寝までは時間がある。
ふと、ゴールドシップが枕を掴んだ。

それは、突然に始まる。

さらに自らの枕を時間差で投擲。
しかしコレを見事受け止められる。

ティオーの枕がオフトラに飛ぶが、ゴルシの方へと蹴り飛ばした。

蹴った回転を用い枕を私へと飛ばす。

マツクイーンが私とティオーへと投擲。

私は斜めに跳ね、2つの枕をキヤツチ。

その勢いでくるりと一回転、オフトラとティオーに送枕。

ゴルシが着地後の隙を狙い投げてくるがコレを蹴り返す。

ティオーは飛んできた枕に自分の枕を投げ相殺。

そのまま回し蹴りで二つをオフトラへと飛ばす。

しかしオフトラが低空からティオーに狙撃、飛んできた二つのうち

片方を私に蹴り、もう片方をキヤツチ。

私は枕を尻尾にてキヤツチ。

そして最初の状況へと戻る。

さあ、第二ラウンドだ。

「お~い、お前らそろそろ寝るよ~」

しばらくして、酒の匂いがするトレーナーが来た。
別の言い方をすれば、良いのがやつて來た。

この瞬間、全員の意思が一致した。

——ドゴオツ！

枕とは思えぬ音を立てて、トレーナーは吹っ飛んでいった。

ゲームセットだ。
じゃあおやすみ。

——アメリカ某所にて——

「サンデイ～どこお～？？」

「いや日本行つたじやん。2年以前に」

「いやそうだけさあ……そุดけどさあ！」

「いつまでロスつてんの……」

「電話ぐらい出てくれたつて良いじやん！ 全つ然出てくれないし
！」

「1日に何十回も電話かけてたらそりやあ嫌にもなるでしょ……
「……え、もしかしてワタシ、サンデイに嫌われた？ やだいや
だああ～～！」

「あのさあ……何でそんなにアイツの事好きなの？」

「だつて……サンデイは……サンデイは……つ！ とにかく好き
なの！」

「もう少し言語化する努力してよ」

「だつて全部好きなんだもん！ 会いたい！」

「はあ……」

「会いたい会いたい会いたい～～！」

「……」

「……決めた！ 日本行く！」

「……えつ、ちよつ、ハア!? ゴア、アンタ取材の仕事とかは!?」

「バス！ サンデイが最優先！」

「……Oh, my……」

「行くつたら行くの！ 家に連絡する！

……あ、セバス!? 今すぐ日本行きのプライベートジエット用意し

て！ ……うん、今日行く！ ジヤあお願ひ！」

「……アンタがドラッグ漬けになる心配はしなくて良さそうだね、ア
イツ以外は脳みそに効かないんだから……」

32. 襲来

32

前

ヤバい。

本当にヤバい。

フォームの改善が進まない。

ある程度までは来た。

しかしそこからどうしても進まない。

映像と睨めっこする日々がかなり続いている。

状況再現のためにマックライーンと併走もしたのだが、それでもダメだつた。

何か、何か手は無いのか。

一旦、トレーニングから離れることすら視野に入れている。

音ゲーは離れたら改善することがあるけれど、スポーツにおいてそれが起きうるかはわからない。

今度のオールカマーがダメだったら、本気で考えてみよう。

ライスシャワー @rice_shower 昨日

次走はオールカマーです
復帰初戦ですが、頑張っていこうと思います

3182いいね 132引用ツイート 2109リツイート

「ターボさん、次走が決まりましたよ」

「え!? どこ!? テイオーと一緒にどこ!?

「いえ、残念ながら。オールカマーです」

「え? でもさ、トレーナー?」

「何でしようか、ネイチャさん」

「確かライスシャワー出てくるんだよね? こんなこと言っちゃあアレだけどさ……その……勝算とか、あるの?」

「……そうですね。以前であれば出しませんよ」

「……つまり?」

「ええ、今の彼女であれば、おそらく。良い作戦を思いつきました。

——ターボさん、早速トレーニングに行きますよ

「うん! わかった!」

「……トレーナー、いつの間にライスシャワーの状態なんか手に入れただろう……」

時は少し遡つて7月。

「私、見に行こうと思います」

「……何を？」

「ナリタブライアンのデビュー戦です」

オフサイドトラップが、そう切り出した。

……今のオフトラが見ても、恐らく良くない気がする。

「……多分絶望しかないよ？」
「分かつてます。それでも」

彼女は、こちらを力強い目で見て、

「諦めないために」

そう、口にした。

「——ナリタブライアン、大差をつけて今ゴールイン！」

圧倒的なまでの力の差。

恐らく大半がタイムオーバーを食らつただろう。

「ははは、凄いなあ……」

「……コレが今のブライアン。壁は高いよ？」

「ええ、そりやあもう実感しましたよ。——でも」

「絶対に追い続けます」

「……引退するまでに追いつけなかつたら？」
「追いつけるまで引退しませんよ」

「ブライアンが先に引退したら?」

「影だろうが追い続けます」

「無いものを追うのは怖くないのか?」

「影を恐れはしませんよ」

トレセンにて。

マックイーンやティオー、サンデーサイレンスと会話していた時。
以下、カツコ内は英語

一日中スマホがピロンピロンブーブーブー鳴りやがる。

2日でブロックしたぞ、クソッタレ。

そしたら『なんでなんで』と泣きつくから余計うるさくなる。

しかもどつから手に入れたのか私の予定を把握してやがる。

数百マイル離れた場所まで付いて来やがったこともあるんだぞ？

「あなたのことが大好きなんですね」

「マジで対応に疲れるんだよ……」

「ああ、それと、良い日本語を教えて差し上げましょう」

「……なんだ？」

「日本語には、『噂をすれば』という言葉があります」

「……意味は？」

「あちらを『』覗く下さい」

サンデーサイレンスが、ゆっくりと首を向けた。

「サンデイ〜〜!!!!!!」

「げえええええええつ
!!?!!」

即座に逃走を図るサンデーサイレンス。

しかし、既に加速してこちらに向かつて来ていたイージーゴアから逃れられるはずもなく。

「久しぶり会いたかつた寂しかった声聞きたかつたどう元気してる?
ちゃんと食べてる? みんなと仲良くしてる? ちょっと瘦せて
ない大丈夫食べさせたげよつか?」

「……! ……!」

完全に正面からホールドされている。

体格差のせいで窒息してしまっている。

「……ぶつはあ! 窒息死するかと思った! お前無駄にチチでけえ
んだよ!」

「あ、ゴメン」

「つーか、何でお前が日本にいるんだよ!?」

「会いたかつたから」

「ハア!?」

「ゴアを睨みつけるサンディー。

この間もガツチリとホールドされている。

「サンディー、ちょっと吸わせて?」

「何を……むつぐう!?!」

「……ふはあ、ありがと!」

「は、いや、ちょ、おま――!?!」

「もつかいする?」

「いらねえ!!」

ようやく拘束から抜け出し、一気に距離を取る。

ティオーが「ミチャッタ……ミチャッタ……」と顔を赤くして悶えている。

「仲が良いんですね」

「でしょ!? そう見えるよね!? ねつサンディイ?」

「ど! こ! が! 仲良く見えるんだよ!? 目ん玉ショットガンで穴開けたのか!?」

「しないよそんな事。 サンディイを見れなくなつちやう」「こいつ……!」

高火力フルバーストで攻めるな。サンディーが死にかけてる。

「お前仕事は!? あっちじゃ忙しいはずだろ!?!」

「うん。あと2時間後にはジエット機乗らなくちゃ」

「何でそんなにスケジュールキツイのに日本に来てんだよ!? 金と時間をクソの山に投げ捨てる自覚あんのか!?」

「そんな事ない！ サンディがこの世で一番なんだよ!? 最も有効な使い方だよ！」

「イカれてるよお前……」

サンデーは全てを諦めたような目で空を仰いだ。
アメリカじやずつとあんな感じだつたのか……

「もう行かないと。じゃあまたね！」

「二度と来んな！」

中指を立てて吐き捨てた。

「良い友人ですね」

「勘弁してくれ……」

「ティオー？ おーい？」

「アワワワワワ……」

「ダメみたいですわね……」

後

33. オールカマー

33

前

オールカマー。

ライスさんは、結局間に合わなかつた。

ダメならダメなりにやつてみるしかない、とは言つていたけれど。

ずっと画面を睨み頭を抱えるのを隣で見て来たから、その努力が報われてほしい、とは切に願う。

ライスさんがパドックに出たけど、やはり分かる人には分かるのか、若干の困惑が生じている。

38：レース好きの名無し

あるええ？

39：レース好きの名無し

なんか本当にクツソ調子悪そなんんですけど

40：イツチ

「勝てるかどうかわからない」とか言つてたんで本当にヤバいですね

4 1 : レース好きの名無し
は? G 2 やぞ?

4 2 : レース好きの名無し
そんなヤバいの出てたつけ

4 3 : レース好きの名無し
△△△△△

4 4 : レース好きの名無し
ショウグン
だけどショウグンに負けるのは考えたくない

4 4 : レース好きの名無し
やつぱり春天で燃え尽きたんじやねえの

まあ、どうしてもそう考えてしまうよね。
正直、私だつて不安だ。

祈るように、縋るように両手を握る。

出走の時間がやつてきた。

ゲートが開く。

あの目立つ青髪が、いつも通り先頭を突っ走る。
その後ろを、あの時よりも近くで追う。

スタミナに関してはあまり問題はなかつた。
ならば、実力を出せなくとも追いつける位置に着くしかない。
そして、私の判断が他のウマ娘に影響を与えたのか、後続もかなり
上がつてくる。

そんなことをしたらどうなるかは自明なのに。
何人かは自分のペースで走っているようだが。

ツインテールは、あの時と同じように普段より少し遅く走つてい
る。

——いや、もつと遅い。
とうとうペースを抑えることを覚えたのか?
まあこれでもかなり速いが。

終盤に近づいた。

今行けば、おそらく勝てる。

春天の最後を思い出して、再現する様にスパートをかける。

ツインター^ボだけが4角にいる。

そこに私が加わり、どんどんと差を縮めていく。

7バ身、6バ身。

5バ身まで近づいた時。

ターボの耳がピクリと動き。

チラ、とこちらを見た。

そして、体勢が大きく前傾した。

「おおつと、ツインター^ボ再加速!? 差が縮まらない!」



!?

276：レース好きの名無し
はあ！？

277：レース好きの名無し
ターボ！？

278：レース好きの名無し
え

279：レース好きの名無し
逆噴射しないのか！？

「ライスさんっ！」

思わず、身を乗り出した。

信じられない。

再加速。

絶対に沈むだろうと。

必ず追い抜けると思った。
なのに。

差が、縮まらない。

ツインター ボさんは、魂も何もかも全てを燃料にして飛んでいる。
ライスさんは驚愕したように目を見開いている。

——ダメなのか。

暗い予想が頭をよぎつた。

しかし。

ライスさんが目を閉じ。
再び開いた時。

明らかに、瞳の色が変わったように見えた。

なんだあれは。
死に物狂いで走る青い体からは、ジェット機のような轟音が聞こえ
る。

間違いなく、限界を超えて走っている。

だが。

負けたくない。

二度も！

お前に負けたくはない！

走れ。
走れ。
走れ！

勝つんだ！！

ピシリ、とヒビが入るような感覚。

——これだ！

目を閉じ、一気に集中する。
目を開けて、ただツインター、ボのみを見つめる。

魂から、全てを賭けて追う。

4_。

3_。

2_。
5_。

2_。

1_.
5_。

1_。

——ああ、だけれども。

「逃げ切った！ 逃げ切った！ ツインター・ボーリ着！ 信じられ
ない逃亡劇！」

悔しい。

けれど。
手がかりは、やつと掴めた。

あんなものを見せられたのだから、案外気持ちよく負けたものだ。



328：レース好きの名無し
ウツソだろ……

329：レース好きの名無し
なにこれ現実？

330：レース好きの名無し
思わずターボ応援したわ

331：レース好きの名無し
逆噴射装置故障してない？

332：レース好きの名無し
>>331

してないよ

エンジンが逆向いてただけ

333：レース好きの名無し
G2の盛り上がりじゃない

334：レース好きの名無し

あそこから追えるライスもライスだけどターボがヤバ過ぎた

負けた。

けれど、その顔はどこか清々しい。
きっと何かを見つけられたんだろう。

ツインター・ボさんは地面に倒れ、肩で荒い息をついている。
やがて仰向けになり、

「見たかテイオー!! これが諦めないってことだああああああつっ!!!」

と叫んだ。

ライスさんが笑顔で近寄り、ター・ボさんの手を取った。
何かを話しているが、ここからでは聞こえない。
けれど、どちらも笑顔だ。

きっと互いの健闘を讃えあっているのだろう。

会場が歓声に包まれた。

後

34. 掌編その2

3
4

前

天皇賞（秋）。

私がここまで来るのはな。

俺の時には想像もつかなかつた。

ライスの奴は手がかりが掴めたとか言つて出なかつた。
せつかく得意条件でやりあえると思つたのに。

一応JCで戦えるはずだからいいけどさ。

しかしだなライスシャワー。

なんでマックイーンが出てるんだよ。

お前絶対繫勒帯炎を予防とか先延ばしとかやりやがつただろ。

秋天がラストランって言つてるけど絶対勝つじやねえか。

京都大賞典で馬以上のヤベエの出したくせにドリーム行くのかよ。
いや有馬出られたら困るんだけどさ。

他に変わつたのはブルボンとサンキューが出ることぐらいか。

さて、アツに起こつた現象について考えてはみたのだが。
まず、春天とオールカマーの違い。

一つに、「出力」のようなものが違う。

フォームなどはほぼ同じだったのだが、速度および加速度が明らかにオールカマーの方が小さい。

本人は「同じ感覚だつた」と述べているので、何かしら妙な原因がある。

二つ、走り切った後の差。

春天は数日間マトモに動かなかつたが、オールカマーは普通に立て歩ける程度でしかなかつた。

オールカマーはまあ想定内。

問題は春天。

アイツの化け物じみたスタミナであつてもあそこまで疲労する、というのは異常だ。

むしろ、あれは疲労などではない気がしてならない。

三つ、コレは完全に感覚でしかないので信憑性は低いが――

――春天は、何かを引き寄せているような、そんなモノを肌で感じた。

運命、因果、宿命、etc……

実際、ライスシャワー号は春天は勝つたがオールカマーは負けている。

さて、どう解釈したものか。
やり方はライスから聞いている。

この秋天で試してみるか。

私の考えが正しければ、レース後にぶつ倒れはしないだろう。

俺は神戸新聞杯から一回も勝つてないからな。

J Cまでにものにできるかは怪しいが、ぶつつけでやるのは無しだ。

よし、やるか。

——私、秋天を実験台にしてないか？
いやいや、G1だぞコレ。
ちゃんとやれ。

さて、いい加減ゲート入るか。

……マックイーン強いっすね……
まあ、上手くいったからいいか。
来月に間に合わせるぞ。

ビワハヤヒデがどうどう無敗三冠をしでかしやがった。
いろんなところがお祭り騒ぎになつてゐんだよな。

隔年で無敗三冠だから感覚が麻痺しそうだ。
誰が隔年にしたのかはともかく。

来年もどうせブライアンがとるから私たちの世代だけ穴が空くことになる。

お陰でちょっと悪質な記者が私やボーガンやブルボンに來てるんだよなあ。

勝手に学校に入つてきて私の周りのウマ娘に鬱陶しい取材してた

から、後ろでこつそりスマホで動画撮つて、最後に記者が名前と所属言つたら後ろから肩ポンして映像を t w i t t e r に投げた。

報道の自由がどうのこうのと言つて強引に取材してたからこつちも報道の自由で t w i t t e r にあげてもいいよなあ？

いやー大変気分がいい。

大部分のメディアはビワハヤヒデやそのトレーナーに行つたんだけども。

問題はブライアンがハヤヒデ以上の実力で。来年の無敗三冠がほぼ確定した状況で。

しかもトレーナーがまだ新人だつた。

過労とかプレッシャーとかでぶつ倒れた。

療養のため、姉妹に温泉旅行に連れて行かれた。

ご愁傷様です。

新人トレーナーと担当のウマ娘姉妹が温泉旅行に行く。

……何もおかしな所はないな。
多分。おそらく。きつと。

スピカの部室にて。

袋に手を入れ、中身を口へと運ぶ。
それをティオーがじつと見てくる。

「……何食べてるの？」

「小魚」

「……え？」

「ああほら、小学校の給食でアーモンドフィッシュって出たでしょ。アレの魚だけのやつ」

「あ、うん。……ええ？ なんで？」

何故そんな目で見る。

お前のゲロ甘ハチミーよりよっぽど健康的だぞ。

「骨密度を大きくしようと思つて」

「あー……え？ ホント？ 本当は身長伸ばしたいんじゃないの？」

「どつかの誰かさんがよく故障するからこつちも不安になつただけだよ」

「…………う」

「そもそも、もう成長期終わつてるから伸びないでしょ」

「確かに…………ねえ、それちょっと貰つていい？」

「どうぞ」

「ありがと」

「おさかなの味がする」

「そりやそうでしょ」

「でも思つたより食べられるねコレ」

「おやつ代わりとか作業中のツマミとかで案外行けるよ」「虚無になつて食べる感じがする」

後

35. ジャパンカップ

前

JCも近くなってきた頃。

ブライアン達の温泉旅行も無事に——無事に? 終わつたらしい。どうやらトレーナーが旅行先でも仕事をしようとしたようで、抑えるのに苦労したこと。

療養目的なんだから仕事しちゃあダメでしようが。

オフトラは1勝クラス、オープンと順調に勝ち進んで行つている。「重賞はまだキツいです」とか言つてるからしばらくはオープンに居座るだろう。

賞金が入つたからか、ゲーミングPCが欲しいと言い出した。

是非自作PCに手を出して欲しかったので、知識を与えてPCショッピングに連れ回してつよつよCPU&GPU&メモリ&SSDのモノと一緒に組み立ててやつた。

流石に3090一台積みとかXeonとかThreeadrripplerとかまでは行つてないが、それでもウルトラハイエンド級のものにした。

マルヌル動く重量級ゲームはいいぞ。

このままblenderとかディープラーニングとかに手を出して頂きたい。

というかやはりデビュー戦で700万もらえるのが嬉しい。

実際のウマ娘側の取り分は75%の525万だけども。

いやコレでも全部載せMacPro買えそうだな……

まあ馬は高けりや数億とか行くからそれに比べたら安い買い物か。

馬主はなんで数千万単位の金をポンと出せてしまうのか……
まあ種付け代でレースの賞金よりも稼ぎまくる馬はいるからそういう所から出ているんだろうな。

ジャパンカップ、最後の直線。

「「はあああああああああああああつ!!」」

前のボーガン・ブルボン・レガシーの逃げ3人がバカみたいに早いペースを作り出し、後続が悲惨なことになっている。
勝手に競り合つてどんどん加速して行くからタイムが大変なことになつていてる。

だが、私だつて負けていられない。
手がかりは掴めたとはいえ未だ不完全。
だとしても、使わない手は無い。

魂をエネルギーの炉に焚べる。

——逃がすものか。

脚を前へ、前へ。

先頭の3人に突つ込むように加速していく。

あれ？

アイツらクツソ早くね？

ヤバいヤバいヤバいヤバいマジで追いつけない仕掛け所ミスった
マズい！

こんなペースで仕掛け所を見つけるのは正直無理難題と言つてよ
かつたが、まだマシなタイミングはあつたはず。
しくじつた。

もういい、後先考えずぶつ放す！

間に合うかじやない、間に合わせるんだよ！

3バ身、2バ身、1バ身、――0！

追いついた！

けど。

「「はああああああああああああああああああ!!!」」

まだ加速するのか?
クソ、抜けない!

ゴール板直前で、ボーガンが一瞬耳をコチラに向けたのが見えた。
そして、弦を一瞬溜めた後——矢が弾き出された。

ごく、ごく僅かに前に抜け出し——

『4人が横並びになつて今ゴールイン! キョウエイボーガンが抜け
出したように見えましたが果たして!?』

ゴール板を抜けた直後、逃げ3人がぶつ倒れた。
3人揃つてヤムチャしやがつてのポーズはやめろ。

まあ当然というべきか写真判定になつた。
今回は……なんかダメな気がする。

少し後、まずボーガンの1着が確定し。

しばらく後に、2着にブルボン、3着にレガシーが入った。

私は4着。

……クソ。



580：レース好きの名無し

早い早い早い

581：レース好きの名無し

逃げがヤバいのしかいないせいだな

582：レース好きの名無し

（足が）壊れちゃう

583：レース好きの名無し

後ろ死んでる

584：レース好きの名無し

勝手に競り合つて勝手に早くなるのやめろ

585：レース好きの名無し
追いつくかコレ？

586：レース好きの名無し
ライス追えええええ

587：レース好きの名無し
上がつた！

588：レース好きの名無し
来た

589：レース好きの名無し
行けるか

590：レース好きの名無し
ファツ!?

591：レース好きの名無し
なんでまだ前が加速するんですか

592：レース好きの名無し
並ぶな

593：レース好きの名無し
逃げろブルボンんんん

594：レース好きの名無し
抜かせ

595：レース好きの名無し

どうだ

596：レース好きの名無し
お？

597：レース好きの名無し
ん？

598：レース好きの名無し
ボーガン跳ねた？

599：レース好きの名無し
僅差やめろ

600：レース好きの名無し
跳ねてねえな
一瞬だけ溜めて伸びた

601：レース好きの名無し
分からん

602：レース好きの名無し
ややボーガン体勢有利か？

603：レース好きの名無し
3人芝

604：レース好きの名無し
ヤムチャしやがつて……

605：レース好きの名無し

ライスもやるんだよお！

606：レース好きの名無し
黒いのはスタミナだけはあるから……

607：レース好きの名無し
上4つ写真とか珍しいな

608：レース好きの名無し
お

609：レース好きの名無し
やつぱボーガンか

610：レース好きの名無し
よく抜け出せたわあれ

611：レース好きの名無し
他どうよ

612：レース好きの名無し
マジで差がわからん

・・・

624：レース好きの名無し
きた

625：レース好きの名無し
お

626：レース好きの名無し
ブルボン、レガシー、ライス！

627：レース好きの名無し
判定お疲れ様

628：レース好きの名無し
何度リプレイ見ても同着にしか見えんかったわ

629：レース好きの名無し
4人全員タイム差無しとかおかしいって

· · ·

635：レース好きの名無し
僅差つてレベルじゃねーぞ！？

636：レース好きの名無し

ボーガン

— 7 cm

ブルボン

— 2 cm

レガシー

— 2 cm

ライス

637 : レース好きの名無し

?????3

638 : レース好きの名無し

むしろコレめつちや写真判定早かつたな……

639 : レース好きの名無し
よう判定出せたわ

後

36. 有馬

前

有馬記念。

私もボーガンも出走を見送った。

理由は言わずもがな、ティオーの応援とビワハヤヒデの対策である。

ブルボンは出たけれど。最近はシルコレになりつつあるが。

今回の有馬でティオー、それからサンエイサンキューがドリームに上がる。

サンキューは多分関わった中で一番良い結果になつたんじや無いのか？

声をかけたのは純粹なる善意からだけど。

……別に元が牝馬だつたからとかでは無い。決して。決して。

今日の応援はスピカの面々とボーガン。隣にはカノープス。

ブライアンは彼女のトレーナーと一緒にらしい。

私のすぐ横にいるオフトラが“何故か”元気がないので声をかける。

「どうした2位。そんな顔して」

「その2位が原因ですよ!?」

悲痛な顔で嘆くオフトラ。

「まあそう怒らない」

「いや言つたじやないですか！ ブライアンは中長距離だからホープ

フル行くつて！」

……オフトラにG1の空氣を体感させるために朝日杯に出させたのだけど。

「なんで『両方』出てるんですか!?　おかしいでしょ!？」
「それに関しては同意するよ……」

ブライアンが朝日杯とホープフルの両方に出やがった。
ホープフルはまだ開催されていないが、出走登録がしてあつた。

クソローテにも程があるだろ。

オフトラに7バ身ぐらいつけて勝っていたのは異常でしかない。
もしかして私が重賞に出走数制限かけたからか……?
いやでもかけてなくとも多分両方出てたんじや……?

今回の有馬は、1着と2着はティオーリとハヤビデが競り合うだろう。

私が気になるのは3着だ。

案の定ナイスネイチャなのか、ミホノブルボンなのかは実際に走らないと分からぬ。

私ならナイスネイチャに賭ける。

案外レガシー・サンキューが突っ込んでくるかもしね。

金が賭けられたら面白そうだったんだが、残念ながらこ_レは馬ではなくウマ娘の世界。

もしかしたら裏とか三店方式とかでやつてたりするかも知れないけど。

ただ、もし、今日賭けられるなら――

私はティオーに全ツツパする。

賭け金としてでは無く。

競バの神へのリクエスト券として。

全財産を賽銭箱にぶち込んだみたいなもんだ。
頼むぞ、ティオー。

『——外からティオー！　外からトウカイティオー！！！
　　オー上がつてきた!!』

「「「行けええええええええっ!!」」

「行けえええええあああああああああああああ
!!!!」

「ライスさんマジ声デカいって

』――トウカイティオー、奇跡の復活ツツ!!!』

「いよっしゃああああああああ!!!」

「鼓膜破れそう」

「なんでそんなに気合い入つて応援してるんですか……?」

「いい言葉を教えよう」

192：イッチ

今日の黒い人の言葉

「全財産賭けた気持ちで応援するといいぞ」

193：レース好きの名無し

競艇にいるおっさんみたいだな……。

年が明けた。

ブライアンはホープフルも勝ちやがった。
ジュニア期にG1を2つ、しかも無敗。

なんなら姉が無敗三冠。

すでにURAの脳みそが焼けている雰囲気を感じる。
ポスターとかCMとかでめっちゃ推してくるし。
すでにぬいぐるみとかCDとかが売れまくっているし。
メディアも基本この二人ばかり取材しているし。

ただ、昨日道端に彼女たちのトレーナーが落ちていた。
どう考へても過労だ。

軽いものならなんでも治せるとの噂の保健室に放り込んでやつた。
その後ハヤヒデに連絡したら、1分かからずにすっ飛んで来たのは
正直かなりビックリしたけど

もしかしたら放り込んだときに擦り傷あるかもしれないから、そう
だつたらゴメン。

ウチのトレーナーが異様に頑丈なせいで人間にに対する扱いが雑になつてしまつた。

うつかり全力で蹴つてもピンピンしてるのは本当に人間かどうか
疑うが。

年が明けたということは、今年は94年に相当するわけで。
春天前に骨折したせいで年3戦しか出来なかつた年である。

着順は5→2→3だから一応掲示板には入っているのだけれど。
確か勝つてたのがビワハヤヒデ→ステージチャンプ→ナリタブラ
イアンだつたか。

……京都記念と有馬記念は出たくねえな。あの姉妹とやり合うの
はかなり嫌だぞ。

とりあえず骨折に気を付けながら、叩きとして日経賞出るか。
今回こそは春天3連覇するぞ。

ちなみにマツクイーンがもうすぐ高等部を卒業する。
大学に行つてもレースには出られる。
別にトレセン付属の大学に行つてもいいのだけれど、マツクイーン
は普通の大学に行くようだ。

トレーニングのときだけトレセンに来る形になる。
とはいえドリームはトウインクルよりさらに興行色が強いから、そ
こまでのパフォーマンスは求められていないけれど。

大学受験にあたつて非常に気になることができたのでちよつと
マックイーンに聞いてみる。

「共通テストちゃんと点取れたんですか？」
「…………え、ええ。当然ですわ」
「……数学ⅠA」
「やめてくださいまし！」

37. 上のお方

前 前

諸々をすつ飛ばして3月。

オフトラは皐月の前哨戦となる若葉Sを勝ち。

私は日経賞を勝った。

危うくツインターが逃げ切るところだつたが、無事に逆噴射して3着に沈んだ。

ネットの某所で私は「2400以下の重賞は勝てないウマ娘」とか言われている。

全く以てその通りだつたよ。馬の時は。

せめてウマ娘になつたからには何か1つ勝ちたい。

今年の秋に何かいい感じのレースは無いものか。
来年の予定はもう決まつてしまつているからな。

あと最近ゴルシが変になつた。

精神性は元から変だつたが、今回は肉体的に変なのだ。

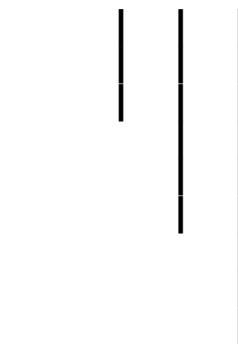
先日「次のゴルシちゃんと交代してくるぜ!」と言い残してどこかへ行き(直後に全力で追いかけたがどこにも居なかつた)、その次の日にはまた現れたのだが。

何と言うか……「匂い」が変わつた気がする。

ゴルシの記憶に齟齬は無いから問題は無いと思うのだが、なーんか違和感を感じる。

問い合わせても「ゴルシちゃんは遍在するのだ」とか宣つて實に腹立たしい。

絶対に調べ尽くすからな。



628：イツチ

ただいま

629：レース好きの名無し
おかげりイツチ

630：レース好きの名無し
おかげり！ 若葉S勝利おめ!

631：レース好きの名無し
おつかれ

632：レース好きの名無し

乙

633：現地勢一同
待つてたぞイツチ

634：イツチ

>>629 >>630 >>631 >>632

ありがとう

>>633

レース中もバツチリ見えてたぞ 来てくれて感謝

635：レース好きの名無し

レース映像に映る謎の集団……一体これは？

636：レース好きの名無し

一部だけ青い帽子ばっかりかぶつてるのマジでわかりやすいな

637：レース好きの名無し

何で青なんだよ

638：レース好きの名無し

▽▽637

- ・デビュー戦の青ニットニキが発端
- ・青つてサツカーレイバ代表の色じやん

639：イツチ

替え歌で応援するのやめろ
レース中に笑いそうになる

640：レース好きの名無し
あれ内容酷すぎて笑ったわ

641：現地勢一同

我々渾身の一作やぞ

642：レース好きの名無し

そんなものに心血注がなくていいから

643：レース好きの名無し

お前らの記事できてて芝

<https://umamuseumumeracemedia.jp/a/article/>…

644：レース好きの名無し
ふあつ!?

645：レース好きの名無し
芝

646：イツチ
何だよこれ www

647：レース好きの名無し
「青い帽子を被つた謎の一団」

芝

648：現地勢一同

朝日杯の時になんか色々聞かれたと思つたらこれか

649：レース好きの名無し
「ただの非公式ファンクラブです」

おつそだな

650：レース好きの名無し

非公式であつて本人公認とは言つてないの芝

651：現地勢一同

一応このスレのことは黙つておいたぞ

652：レース好きの名無し
ナイスウ!

653：レース好きの名無し

こんなところにイツチがいるとかバレたら終わりだからな……

654：レース好きの名無し
ライブってあとどれぐらい？

655：レース好きの名無し
△△△654

3時間後

656：レース好きの名無し
サンガツ

657：レース好きの名無し
若葉S勝ったってことは……そういうことじやな？

658：レース好きの名無し
出るんだろう？

659：レース好きの名無し
出るつて言え

660：イツチ

えー、お察しかと思いますが、皐月出ます

いやだああああああああああああああああブライアンと走りたく
ねええええええええええええ

661：レース好きの名無し
いやつほう！

662：レース好きの名無し
やつたぜ。

663：レース好きの名無し

頑張れイッチ

熾烈な2着争いに負けるなよ

664：レース好きの名無し

▷▷663

すでに1着が決まっているみたいな言い方やめろ

665：イッチ

▷▷664

アレに勝てるわけねえだろ

666：レース好きの名無し
イッチが言うのか……

667：レース好きの名無し

まあ朝日杯がアレだつたからな……

668：レース好きの名無し

マイルとは思えない着差だつたな（白目）

669：レース好きの名無し

ちなみに2着入れるんですか？

670：イッチ

671：レース好きの名無し

なんか言えよ

672：現地勢一同

絶対応援しに行くからな

ブライアンに一泡噴かせてもいいんやぞ



ぶーちゃんの

はじめてのおつかい

(ナレーション・三女神)

さあ始まりました「はじめて……え？ もう何回か行つてる？ 別
にいいからそういうの…………はじめてのおつかい」。

今日おつかいに行くのは東京都府中市の中央トレセン栗東寮81
0号室右側のベッドにお住まいのナリタブライアンちゃん、「編集済」
歳。

昨日は、"夜中に窓にカラスが激突した" ことにビッククリして泣い
ちゃいました。かわいいね

今日はトレーニング用の蹄鉄を買いに行くようです。蹄鉄を使い
潰したのはこれで累計「編集済」回目。頑張り屋さんですね！

お駄賃を握りしめて、寮からいざ出発！

まずは府中駅に向かいます。

果たしてちゃんと行けるかな？

駅に向かっている時に――

プツプー！

ぶーちゃんのすぐ近くを”車がクラクションを鳴らしながら、すごいスピードで通り過ぎて行き”ました。

どうやら、”車線に鳩が数羽止まっていた”ようです。

ビックリしたねえ。耳もしつぽもピーンつてして。かわいい
ね

ともあれ、なんとか駅にたどり着きました。

改札をくぐつて……

ピンポーン！

あらら。“ICカードがうまく読み込まれなかつた”みたい。後ろの人には必死に謝つてるのかわいいね

電車に乗つて、目的の駅へと……

あらら？ 電車が止まつちやつた。

“何かのトラブルが起きた”のでしょうか？不安そうな顔かわいいね

数分後にはちやーんと動き出したようです。よかつたね。

さて、無事に駅につきました！

ここからショッピングモールはすぐ近くです。

しかし、道は入り組んでいて迷いやすいです。

でも大丈夫、何度もお姉ちゃんと行つたことがあるで問題ありますん！

いつものスポーツ用品店に向かっている時に、

ガラガラガラガツシャーン!!

わあ、すごい音。

すぐ近くのお店で、“積んでいたものが崩れちゃった”みたい。ビックリしてるのがわいい 泣きそうな顔かわいい 足震えてるのかわいい

かわいいね……かわいいね……

え？ もうおつかい終わつただろつて？

うるせえよいつまでも続けるぞ私は！

いいからアイスティーでも持つてきてよホラホラ。

…………ところで、そちらのお二人は？

…………え？ セントサイモンとダイヤモンドジュビリー？

馬鹿やめろ！ こっちはんな！

いた！ 何すんだお前ら！ 三人に勝てるわけないだろ！

お願ひ許して！ お姉さん許して！

あああああああああああああああああ

後

38. 鼎月賞

前

【負確の】 中央で生き残りたい

part114

【鼎月賞】

1 : イツチ

飯入らん

吐きそう

2 : レース好きの名無し

建て乙

3 : レース好きの名無し

乙

ちゃんと食べろ

4 : レース好きの名無し

おつ

食べてよく寝てくれ

5 : レース好きの名無し

いよいよ明日だあ

6 : 現地勢一同

建て乙

注意事項貼るわ

7：現地勢一同

※私達との現地観戦を考えている人へ

di s c o r d . a p p / . . .

→こちらのDiscord appにて当日のマニュアル・注意事項などを記載しております。

また、何人ほど集まるかの確認も兼ねていて、「かならズ」参加をよろしくお願ひします。

観戦の際はマナーを守りましょう。何卒よろしくお願ひします。

8：イツチ

>>7

乙

いろいろありがとね

9：レース好きの名無し

7枠15番……キツツ

これでナリブ1番とかもうさあ……

10：レース好きの名無し

でも出るのはやっぱイツチ強えよ

11：レース好きの名無し

他のウマ娘も、ナリブがいるのに参戦したってことは覚悟決まつて
るのばつかだな

12：レース好きの名無し

インタビュー会場の空気ヤバかつたな
全員ナリブ睨み付けてんだもん

13：レース好きの名無し

>>12

なおイツチは笑っていた模様

14：レース好きの名無し

／＼／13

あれどつちかつていうと諦観に似た乾いた笑みだろ

15：イツチ

いや……みんなブライアンにマークいつて奇跡的に全員ぶつ潰れてくれないかなあつて思つてた

16：レース好きの名無し

芝

17：レース好きの名無し
うーんこの

18：レース好きの名無し
よゆうの（ない）えみ

19：イツチ

こうでもならないと勝てる気がしねえんだわ
とりあえず早めに寝るわ おやすみ

20：レース好きの名無し
おやすみ

21：レース好きの名無し
よく寝ろよ

22：レース好きの名無し
おやすみ

俺も明日行くからもう寝るわ

23：レース好きの名無し

イツチ勝つてくれよ

ブライアンを倒すイツチを見たいんだ

24：現地勢一同

イツチは諦めてるかもしけんが、俺達はお前の善戦じやなくて勝利
を願ってるんだ
勝てよイツチ！

・・・

336：イツチ

おはようございます

337：レース好きの名無し

おはようイツチ

338：レース好きの名無し

お前らは寝れたか？

俺は寝付けなかつた

339：レース好きの名無し

▷▷338

俺も

昼前に仮眠取るわ

340：レース好きの名無し
おはようイツチ

寝れないの俺だけじゃなくてよかつた

341：イツチ

﹀﹀338 ﹀﹀339 ﹀﹀340

遠足前の小学生か？

342：レース好きの名無し
イツチは寝れたんか？

343：イツチ

なんとか
朝ごはん食べなきや

344：レース好きの名無し

よかつた

しつかり食えよ

345：現地勢一同

入場完了です……

めちゃくちや人多いわ

まだ来てない人はマジで急いだ方がいい

場所無くなるぞ

346：レース好きの名無し
はつや、流石やで

347：レース好きの名無し
そんなにおるんか？

348：現地勢一同

過去最高を記録しそうらしい
外に人溢れるぞこれ

349：レース好きの名無し
個人で行こうと思つてたワイ、家の観戦を決意
ごめんイツチ

350：イツチ
いいよ全然

自分の身体を大事にね

351：現地勢一同

4月だからって油断してると熱中症なるぞこれ
水持つてくるよう告知しといてよかつたわ

352：レース好きの名無し
ぐう有能

353：レース好きの名無し

ワイ競バ場近くのコンビニ店員、忙しそぎて死ぬ
今休憩中なんやけど、もう戻りたくない

354：レース好きの名無し
お仕事お疲れ様です
レース見れそう？

355：レース好きの名無し
始まるまでにはシフト終わるから大丈夫
それまで耐えるわ

356：レース好きの名無し

皐月賞の日にシフト入つてるとは……おぬし、かなりの有能店員
じゃな?

頑張れよ!

357：イツチ

重労働お疲れ様

じゃあそろそろアップ行くね

358：レース好きの名無し
いってら

359：レース好きの名無し
いってらっしゃい！



勝負服に袖を通す。

軽い素材で作られているはずなのに。
自分の能力も上がっているのに。

朝日杯の時よりも、勝負服が重く感じた。

あの時は、まだG1に慣れるという理由でしかなかつた。

でも今日は、本当に勝ちを狙いに来ている。

正直勝てる気はしないけど。

だからと言つて、勝ちを放棄する気はない。
スレの人たちも見てくれてるしね。

勝利の女神が、私にチュウしてくれたらいいのに。

もうすぐパドックに出る、とレスをする。

人前に出る前に声援を受けるというのは、どことなく優越感を感じ
る。

ようやく15番目、私の番だ。

快晴の中に出る。

沸き上がる歓声。

今までとは比べ物にならないくらいの。

特に大きい声がした方を見れば、やっぱりアイツらが居た。
どうやら今回は眞面目に応援するらしい。

手を振つて声援に応える。

心なしか、勝負服が軽くなつた気がした。

大きなうねり、歪みがターフの上にあつた。

誰もがブライアンを打ち倒さんと気を張っているのに、そのブライアン本人は何もないかのように平然としている。ここには自分以外誰も居ないかのように。

ブライアンの目に自らの背を焼き付けてやろうと、17対の耳が絞られていた。

『——クラシック最初の一冠皐月賞、栄光を得るのはナリタブライアンか、はたまた他の誰かか。』

——今ゲートが開きました！』

先手を切ったのはサクラエイコウオー。

その後ろに、

『ナリタブライアン、かなり前日につけています！』

掛かつたわけではないだろう。

脚質を前に変えたわけでもないはず。

ならば、きっと——

(アイツはアレで „差し“ のつもりなのか!)

気付いたウマ娘は私だけではない。

アレで差しなんかやられたらたまつたものじやない。
それを防ぐには、前に壁を作るしかない。

皆がそう考え、全体がゆつくり前へ前へとズれて行く。
言葉を交わしたわけでもないので、檻が形成されて行く。

私は前から4番目、先頭のスリップストリームを受けられる位置
へ。

檻ができているとはいえ、ブライアンに合わせてペースはかなり早い。

最後まで檻が保つかは悩ましい所だ。

壊れた時のために、今の間は出来る限りスタミナを温存しておく。

3コーナー、残り600メートル地点。

まだ檻は保っている。

小回りコーナーで外に膨らみやすい。
特にこんなハイペースでは。

だが、ここにいるのは覚悟の決まつた奴らのみ。

まだ閉じ込め続ける、そういう意志がなんとか内側を走らせていた。

しかし、最後の直線に入ると、もう壊れかけだった。
怒号に近い歎声に包まれる。

当然だ、全員で一人をマークし続けたのだから。

その声援に、あるいは重圧に、残つた微かな体力を削られたのか、ブ

ライアンの左前を走るウマ娘が、ほんの僅かに外にヨレた。

周りは咄嗟にその隙間を埋めようと動いた。

が、ブライアンが抜け出す方が早かつた。

ぬるり、と隙間を抜け出し、怪物が檻から逃げ出した。

——まだだ！

抜け出されたのは急坂の直前。

ならば、檻の蓋が開いても、コースを絞ることは出来る！

急坂を斜めに登らざるを得ないよう、ブライアンの前を走るウマ娘達が隊列を変える。

私は壁の一番下。

しかし、やはりと言ふべきか、ブライアンはスルスルと坂を登つて行く。

抜かされた瞬間、私もスパートをかける。

真っ直ぐ登つても、急坂であることには変わらない。

ハイペースによつて削られたスタミナがさらにより潰される。

移動距離のごく僅かな差を、出来る限り保つ。

横を見るな、板だけを見る。

逃げろ、逃げろ、逃げろ、逃げろ

『——ナリタブライアンが先頭に立った!!!』

黒い化物が、横に見えた。

抜かせるか、と意志だけで脚を回す。

でも。

ゴールはすぐそこなのに。

ほんの少し抜き返せばいいはずなのに。

なのに。

その差は、広がるばかりで。

『——ナリタブライアン、ゴールイン！ 信じられない末脚！
的な強さで包囲網をものともしなかつた！』

圧倒

芝に倒れる。

まともに呼吸すら出来ない。

脚が鉛よりも重く感じる。

だというのに。

あいつは。ナリタブライアンは。

特に疲れた様子も見せず。

普段のトレーニングが終わつたかのように、そこに佇んでいた。

ブライアン^{化物}は、ただじつと掲示板を見ていた。
着順やリプレイではなく、タイムだけを見つめ。
どこか不満そうに、さつさと行つてしまつた。

クソ。

クソ。

なんだつていうんだよ。

ブライアンにとつて、これはレースですらなかつたのか。

ただのタイムアタックでしかなかつたのか。

私たちをなんだと思ってるんだよ。

ただのモブ？ それとも邪魔な障害物か？

ただの動く壁
背景。
テクスチャ。

アイツは、私たちをその程度にしか見ていないよう感じた。

青い空を仰ぐ。

傾き始めた太陽が、ブライアンの勝利を祝うように、私たちの敗北を晒すように輝いていた。

息は整ってきて、脚も多分動くだらう。

でも、

立つ氣力が無かつた。

656：レース好きの名無しさん
……何なんすかあれ

657：レース好きの名無し

怖い

強いというよりただただ怖い

658：レース好きの名無し

言葉がでねえ

感嘆とかじやなくて、理解不能とかの意味で

659：レース好きの名無し

急坂ありの2000やぞ？ 世界レコードやぞ？ 何で疲れて

ねえんだよ

660：レース好きの名無し

あんなレース、普通はイツチみたいにぶつ倒れるんだよな？

勝機が一切見えねえんだけど

661：レース好きの名無し

おーい冷えてつか？

俺は凍りついた

662：現地勢一同

泣きそう

．．．

881：イツチ

今戻りました

882：レース好きの名無し

おかえりイツチ

よう頑張った

883：レース好きの名無し

おかえり

カツコよかつたぞ！

884：レース好きの名無し

イツチのやること見てて面白かつたし楽しかつたわ
ともあれお疲れ様！

885：レース好きの名無し

よく食らいついたわ

流石やなイツチ

886：現地勢一同

おかえりなさい、そして本当にありがとう

887：イツチ

ありがとう

勝てなくてごめんね、せつかく来てくれた人もいたのに

888：イツチ

何だろうなこれ

悔しいのかな

悔しいんだろうな

なんか違う気がするけど

889：イツチ

虚とか
絶望?

考えがうまくいかない

890 : イツチ

何としても見られなかつた、多分

891 : イツチ

いくらやつても届かないんじやないかつてずっと頭をぐるぐるしてゐる

892 : イツチ

なんで走つてるんだつけ

893 : イツチ

連投ごめん

見苦しいよね

894 : レース好きの名無し

ええんやで
どんどん吐き出していけ

895 : レース好きの名無し
別に無理してここに居なくていいからな
ゆっくり落ち着いていこう

896 : イツチ

ありがとう

しばらく居座るわ

後

39. 灰被りの脳

前

980：レース好きの名無し
暗い話は終わり終わり！
なんか明るい話しようぜ

981：レース好きの名無し
ならイツチ、いい話がある

皐月賞の2着賞金は6000万だ
やつたなイツチ、家が建つぞ

982：イツチ

!!!

983：レース好きの名無し
俺の総資産超えてて芝

984：レース好きの名無し
▽▽983

ここにいる全員超えるだろ

985：レース好きの名無し

もうすぐブライアンのインタビューだつてよ

986：レース好きの名無し

もう次スレ立てていいんじやね

987 : イツチ

完走早かつたな……
立てるわ

988 : イツチ

立てた

t t p s : //h a k i d a m e k e i j i b a n.

c o m /

989 : レース好きの名無し

おつ

じやあ埋めるか

990 : レース好きの名無し
うめ

991 : レース好きの名無し
かゆ……うめ……

992 : ちくわ統一理論

4つのちくわを一つに

· · ·

1 : イツチ

化け物のインタビュー、はつじまつるよー

2 : レース好きの名無し
たておつ

3 : レース好きの名無し
おつ

4 : レース好きの名無し
画面切り替わったぞ
テレビ点けろ

5 : レース好きの名無し
きた

6 : レース好きの名無し
記者多スギイ!?

7 : レース好きの名無し
この数でダービーじゃないのか……

8 : レース好きの名無し
ブライアン來た

9 : レース好きの名無し
うおつまぶしつ

いやフランシュ焚くなや

10 : レース好きの名無し
フランシュ焚いてるカスがいますね……

11 : レース好きの名無し

注意されてて芝

多分普段レース取材しない所だな

12：レース好きの名無し

うーん（見た目は）地味な子

13：レース好きの名無し

図書館の隅っこで本読んでそう

14：イツチ

なお

15：レース好きの名無し

イツチは本当に頑張ったよ……

16：レース好きの名無し

あれ？ トレーナーは？

17：レース好きの名無し

ビワハヤヒデ来了

18：レース好きの名無し

ハヤヒデ『トレーナーは胃潰瘍で入院中の為、私が代理を務めさせていただきます』

oh……

19：レース好きの名無し

ハヤヒデなんかキレてね？
めつちや記者睨むじやん

20：レース好きの名無し

取材責めとか付き纏われたりとかされたんだろ
そらキレるわ

21：レース好きの名無し
なんか黒いのツイートしてたような

22：イツチ

▽▽21

3日前のこれが最新

ライスシャワー @rice_shower 4月14日
ビワハヤヒデのトレーナーが校内で倒れていたため、医務室に搬送
しました（1日ぶり9回目）。

ていうか凄い勢いで体重減ってるけど大丈夫か？ 持った感じ5
0kg無かつたぞ

23：レース好きの名無し
想像以上にヤベエぞこれ！？

24：レース好きの名無し

トレーナーって身長どれぐらいだっけ

25：レース好きの名無し

▽▽24

ハヤヒデより少し高かつたから170後半か

いやその身長で50kg無いのは本当にまずいですよ！

26：レース好きの名無し

ていうかビワハヤヒデ身長でけえな？

27：レース好きの名無し

△△△26

身長だけじゃなくて何もかもがデカいぞ

28：レース好きの名無し

△△△27

うお……（戦績）でつか……

29：イツチ

トレセンの電話が悲鳴あげてるらしい

というかあんなに疲れてるたづなさん今まで見たことない

30：レース好きの名無し

たづなさんって疲れるんですか……？

31：レース好きの名無し

たづなさんが疲れるわけないだろ

32：イツチ

△△△30 △△△31

お前らはたづなさんを何だと思つてるんだ

33：レース好きの名無し

△△△32

え？　たづなさんって複数人いるんじや無いの？

34：レース好きの名無し

俺は概念的存在だと思つてた

35：イツチ

たづなさんクローン説はトレセンでもよく言われるけどさあ……。

36：レース好きの名無し
たづなさん会見場の端っこにいるぞ

37：レース好きの名無し
ほんまや

38：イツチ
は？ ついさつきうちのトレーナーと話してたんだけど

39：レース好きの名無し
……え？

40：レース好きの名無し
！？

41：レース好きの名無し
唐突なホラーやめる

．．．

131：イツチ

やだこの子怖い……

132：レース好きの名無し
勝つことが確定事実かのようにずっと喋ってる……

133：レース好きの名無し
なんなんコイツ

『終始激しいマークを受けていましたが、やはり苦しかったでしょう

か？』

「え？ ……あー、いえ、特には。『なんだか走りづらいなー』ぐらい
でしたね」

『…………そうですか…………』

134：レース好きの名無し
はあ！？

135：イッチ

ミ。

136：レース好きの名無し

あんだけやられてその程度の認識なのかよ！？

137：レース好きの名無し
イッチが死んだ！

138：レース好きの名無し
記者もドン引きしてて芝

『次はやはりダービーですか?』

「いえ、間にＮＨＫマイルを挟みます」

『…………はい?』

「あ、聞こえませんでしたか? すいません」

『あ、ああいえ、聞こえたはずでしたが、おそらく聞き間違えました。
もう一度お願ひ出来ますか?』

「私の次走はＮＨＫマイルカップです。その後にダービーに出ます」

『…………』

139：レース好きの名無し
は?

140：レース好きの名無し
え?

141：レース好きの名無し
なんて?

1 2 : レース好きの名無し
H K マイル!?

1 3 : レース好きの名無し
あ!? n h k マイル!?

1 4 : レース好きの名無し
つてこの子何言つてるの

1 5 : イツチ

1 6 : レース好きの名無し
たまおかしいよこの子（震え声）

1 7 : レース好きの名無し
前は何を言つているんだ

1 8 : レース好きの名無し
、クソローテ……

1 9 : レース好きの名無し
> 1 4 8
もよお、ナリタブライアンだぜ?

1 0 : レース好きの名無し
いやそんなクラシック夏未勝利みたいなロー^テ組まんでも……

1 5 1 : レース好きの名無し
>> 1 4 9

なるほど（理解）

（間隔を見る）

…………うん？（理解不能）

152：イツチ

ねえ横で黒い人ぶつ倒れたんだけど

153：レース好きの名無し
芝

154：レース好きの名無し

黒い人が倒れるレベルか……

155：レース好きの名無し
ガンジーコピペの新種か？

156：レース好きの名無し

記者もそりやあ聞き間違えだとと思うわな……

157：レース好きの名無し

ビワハヤヒデエ！『ブライアンなら可能です』とか言つてないで
止めろお!!

158：レース好きの名無し
駄目みたいですね（諦観）

159：レース好きの名無し

n h k マイル予定してたウマ娘、多分悲鳴あげてるぞ

160：レース好きの名無し

死神かな？

161：レース好きの名無し

>>159

既にいっぱい上がつてるぞ

t t p s : / / t w i t t e r . c o m /
t t p s : / / t w i t t e r . c o m /
t t p s : / / t w i t t e r . c o m /
t t p s : / / t w i t t e r . c o m /
t t p s : / / t w i t t e r . c o m /

162：レース好きの名無し
うわあ……

163：レース好きの名無し
迫真の「来るんじやねえ!!!」
俺もそう思う

164：レース好きの名無し
出走回避多そう

165：レース好きの名無し

>>164

ダービーに限つてそれは無いだろ
何があろうとダービーやぞ
俺なら負けるとしても出たいわ

166：イッチ

>>165

これ

多分2着を実質1着と見做して来るのもいるだろうし、有力バガ回
避するのを期待して多分登録者は増える
なによりブライアンが連闘になるから、「もしかしたら……」を狙う

のも多いと思う

167：レース好きの名無し

▽▽166

はえーやっぱ皆ダービーに出たいんですねえ……

168：レース好きの名無し

▽▽167

全ウマ娘の夢やぞ、当然やろ

169：現地勢一同

イツチが勝つてくれたら最高だな



アイツやりやがった。
どうするんだよこれ。

オフトラが精神的にダービー駄目そうなら、NHKマイルを薦める
つもりだつたのに。

今すぐにでもブライアンに電話を繋げて問い合わせたい所だが、なん
とか堪える。
そして姉。なぜ止めない。

お前も既に脳味噌が丸焦げになつてゐるのか。
早く頭蓋骨に還元剤ぶち込んでこい。

ピロン、とスマホが鳴る。

見てみれば、ボーガンからのLINEだつた。

『今中山にいるよな?』

「y」

『ちょっと会場に乱入してブライアンを縛り上げてくれ』

「私を逮捕させる気か』

『ブライアンのせいで栗東寮がヤベエんだよ』

【動画】

「地獄か?」

「t w i t t e r に上げたらバズりそうだな……」

『上げるか』

『お前が上げてくれ』

『そつちの方がフォロワー多いだろ』

『いいのか?』

『いいぞ』

「じゃあファイルでくれ』

「L I N E 直接通すと劣化するから。m o v や m p 4 でくれると助
かる」

『OK』

I M G _ 9 4 6 1 . m o v

『ほい』

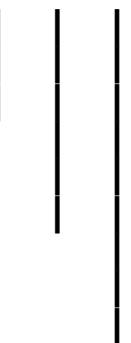
「t h x」

ライスシャワー @rice_shower 9分前

これはボーガンから届いた栗東寮の様子

【動画】

3643いいね 648リツイート 93引用ツイート



250：レース好きの名無し

でも、イッチほんまにダービー出るんか？

251：レース好きの名無し

俺は出て欲しい

でもアレの前じやあ気軽に出ろとは言えない

252：レース好きの名無し

ダービーで心ポツキリ逝つたら元も子もないしな

253：レース好きの名無し

イッチが決めることやろ

254：イッチ

ダービーは

255：レース好きの名無し

おう

256：レース好きの名無し
さあ

257：イツチ
出ます！

2着賞金8000万とか逃すわけねえだろ！

258：レース好きの名無し
よつしや！

259：レース好きの名無し
それでこそイツチ
金を求めよ

260：レース好きの名無し
やつたぜ。

261：イツチ

こうなつたらヤケクソだ全力で1着狙うぞ！
化け物でもG1三連闘は流石に影響出るだろ！
出なくともなんとかする！
目指せ2億！

262：レース好きの名無し
マジか！

263：レース好きの名無し
ええぞ！

264：レース好きの名無し

265 現地勢一同

セニテシ行カシナ

ウイナーズサークルで待つてろよ

100

「ライスシャワーさん」

オフサイドトラップが、スマホから顔を上げ、じつとこちらを見た。

「ダービーに勝ちたいです」

「…………はああ…………」

溜息が出る。

「今の私ですら勝てる気がしないんだけどなあ……」

そう、口に出た。

コイツは爆弾を抱えている。

本人も、薄々感づいているだろうが。

「…………オフサイドトラップ」

「はい」

——でも。

全てのホースマンの夢、
全てのウマ娘の夢。

東京優駿に全てを懸けた馬がいた。
ダービーに全てを懸けたウマ娘がいた。

ならば。

「全部捨てる覚悟はあるか？」

「はい」

「…………私も春天があるんだけどな。…………トレーナーとボーガンに連絡するか」

「…………」

やつてやろうじやないか。

なあに、何かあつても――

コイツは、無事之名馬の体現者だつたんだろう?

なら、なんとかなるさ。

後

前

春天。

出て来る中で一番ヤバいのがビワハヤヒデ。
どうにかしてコイツに勝たなくては。

マックイーンの時みたく全力マークでもいいのだけど、対策されて
そうな気がしなくも無い。

幸いにも不調は克服したと思われるので、95の時と同じくマーク
せずに行つても良さそうではある。

というか、やつつつつつと身体が合つた。
1年だぞ1年。

日経賞でようやく10割までいった。
おそらく10割から更に伸びると思われたので、春天までにゴリゴ
リ詰め込んでいた。

滅茶苦茶骨折に気を付けながら。

ティオーとか見えてると怪我は避けられない気がして仕方がない。
なんなら「なんか折れそう」という謎の勘がビンビン働いている。
万が一レース中に折れたら最悪だぞ。

一応、骨密度を高めたりとかの対策はやつてきたけども。
まあ、こつちは治つた方の骨折だし、最悪折れても走ればいいか。

ただ、ある日とあることに気づいた。

全部ぶつ壊してやるか。



「ハロー」

ターフでビワハヤビデに声を掛ける。

「……ライスシャワーか。今日はよろしく」「ええ、こちらこそ」

互いに握手をする。

身長差が20cm以上。

黒と白。

いい対比じゃないか。

コイツに1番人気を取られたのが癪でならないが。

「……まあ、なんだ。そつちの妹が随分と派手なことをなさっている
ようで」

「ははは。最初は私も止めたさ。……だが」

ビワハヤヒデは賞賛するような、しかし何処か諦めの入った声で、

「皐月賞の疲労具合を見て『いける』と思つてね。……つくづくブライアンには驚かされる」

「……ああ、全く。ウチのチームも大概な目にあつたよ」

「ふふ。だが次も勝たせてもらうよ」

「勘弁してほしいね」

他愛もない話が続く。

「ああ、そうだ。ウチのチームと言えば」

「…………？」

「ウチにはあなたと同じ芦毛がいてね。……正確にはいたんだけど」

「…………」

「実は最近また来てもらつてね。色々と手伝つてもらつたんだよ」

「…………ツ！」

「どうも最近はあなた達姉妹ばかりが話題になつてゐるらしい。こ
こらでちよつと乱してやろうと思つてね」

「…………何をするつもりだ？」

何を？

やることは決まつてゐる。

「……3分12秒5」

「…………なに？」

「どうも、そのうち春天で出るタイムらしい」

「待て、そのうち出るとは……」

「例の芦毛と色々やつているうちに、それから10秒以上縮められる
んじやないかと感じてね」

「…………は？」

「唚然とした表情が見える。
実際に愉快だ。」

「ある時疑問に思つたんだよ。『なんで斤量が無いのにこの程度の速
度しか出せないのか』って」

「キ、キンリョウ…………？」

「やがて気付いた。元の魂がこちらの肉体、或いは理ことわりに縛られている
と。じゃあそれを解放すればどうなるんだろう？」

「…………」

「騎手やその他装備含めて58kg。一般に斤量1kg当たり一馬
身、または0・2秒と言わわれている。単純計算で58 * 0・2 = 1
1・6・12・5から引いて0・9秒。あと0・9秒なら行けるん
じゃないか？」

「な、何を言つて——」

「問題はこれが可能なのが私とボーガンしかいないこと。アイツに教
えることができたらよかつたんだけど。」

「ともあれ、つい先日ここを借りて実験してみた。どうも12秒5を
出したのは逃げ馬だつたらしい。幸いにも私は逃げも出来たからね。
とはいえかなり抑えてやつたんだけど。」

「…………どうなつたと思う？」

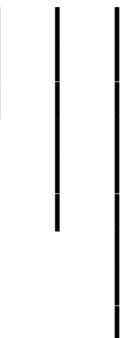
「一体何を——」

「今から再現してみせるさ。どうせ秋まで暇になるだろうし、いつそ
全力で行つてみるよ」

「ま、待つてくれ！」

手のひらだけ振り返して、その場を離れた。

見とけよ、全人類。



『——ライスシャワー、圧倒的大差で1着!! タイムは——

——に、2分59秒8!!?

さ、3分の大台を切りました……!!』

ゴール板を駆け抜けて、すぐに邪魔にならないようにして観客席側へ移動。

そして観客を見ながら、左手首を指先でトントンと叩く。

「——うーく、なーな、はーち、きゅーう、じゅーう、……」

カウントを続ける。

やけに静かな場内で、私の声はよく響いた。

「じゅー、じゅーろく…………意外と早かつたね」

「はあつ、はあつ、はあつ、はあつ、——」

ビワハヤヒデがようやく2番目にゴール。

息も絶え絶えになつている彼女を見つめながら、笑顔で——

「——でも残念。全員まとめてタイムオーバーだよ」

「——」

「まあ安心して。出走停止は1ヶ月だけだから宝塚には出られる」

他のウマ娘もぞろぞろとゴール。

「さて、トレセン学園の標語はなんだつたか分かるか?」

「……E c l i p s e f i r s t, t h e r e s t n o w h
e r e」

「そう、その通り。そして、どうやら——

——私はそれに最も従順なウマ娘らしい。実際私もエクリプス系の血統だしね。まあほとんどがそうなんだけど——

ビワハヤヒデが、いや観客を含めた全員が、私を化け物か何かのようを見ている。

「……一体何をしたんだ」

「さつきも言つた通りだよ。自分の核となるモノを解き放つんだ。別にドーピングなんかじやがない。検査も白だよ」

「……訳が、わからない」

「まあ、そうだろうね。でも——」

自分の脚を見る。

「——やはり駄目だつたか。秋までとは言つたけど、来年まで伸びるかもね」

「…………脚を犠牲にしたのか!? 最初からそのつもりで!?」
「大きな結果には、それ相応の対価は必要だよ。動きを減らせばライ
ブには出られるから問題はない」

どうせ暇になるんだしな。

「…………なぜそこまでする?」

「可能だつたから」

「は?」

「よく『できる』と『しなければならない』は別だと言われている。し
かし、それは『してはならない』ということじやない。そして、私は
これがやりたかった。だからやつた」

それのどこが間違いだと言うのか。

「そもそも最初は、菊花賞で全員に中指を立てて、賞金を得るためにト
レセンに来たんだ。私は自分の欲望のために走つているんだよ」
「…………そんなもののために……ツ」

「そんなもの?」

思わず聞き返す。

「では聞くがあなた達はなんのために走つているんだ? 荣誉が欲し

いから？ 勝ちたいから？ それとも単に走りたいから？ 結局のところ欲望じゃないか。あなた達にとつて走ることは義務なんかじゃない筈だ。私は義務だった。走ることこそが生存手段だった。だがその手段の中には欲望を見出した。過去の義務に欲望の可能性を見出した。義務が義務で無くなつた時、私の目的はまさにその欲望の追求へと変わつた。可能性が行動の大きな前提となることについて疑問の余地は無い。そして何より『欲望の実現可能性』こそがもつとも大きな動機となり得るのはあなた達もよく理解しているだろう——中央を目指すのは速く走れるから。重賞に出るのは中央で勝てるから。G₁に出るのはG₂・G₃に勝てるから——、これらの行動は全て欲望によつて行われているのだろう？ 欲望のために行動することそのものは何も悪しきことではない筈だ。何より私は強欲だつた。強欲であるが故に目的に対し努力を重ねた。既に可能な手段に更に磨きをかけた。可能性を限りなく1に近づけようと邁進した。故に勝つた。負けたあなた達の一體どこに『そんなもの』と言える根拠があるんだ？ あなた達にああだのこうだの言われる謂れは無い』

何も返答は無い。

私は脚の痛みを堪えながら地下バ道へと向かつた。

後

41. 反響

前

594：レース好きの名無し

カメラさん1人しか映つてねえぞ！

595：レース好きの名無し

差がえつぐい

596：レース好きの名無し

通過タイムおかしい……おかしくない？

597：レース好きの名無し

大逃げ ↑だいぶ前にやつてたから分からなくはない

カメラに1人しか映らない ↑は???

598：レース好きの名無し

ビワハヤヒデ追いつくかこれ？

今から行つても間に合う気がしねえんだけど

599：レース好きの名無し

流石にステイヤーとは言え垂れるだろ

……垂れるよな？

600：レース好きの名無し

垂れたとしてもこの差はまずいですよ！

601：レース好きの名無し
4角抜けた！

602：レース好きの名無し
待つたこれ3分切り行くんじやね？

603：レース好きの名無し
行つてたまるか

604：レース好きの名無し
あ、ハヤヒデ映つた

605：レース好きの名無し
>>604
コースの反対側にな
いやなんで？

606：レース好きの名無し
垂れねえぞコイツ！？

607：レース好きの名無し
待つて3分はやばい

608：レース好きの名無し
カメラ諦めてんじやねえ！
もつと画角広げろ！

609：レース好きの名無し
おおお3分行くかコレ！？

610：レース好きの名無し
あと100！

611：レース好きの名無し
何が起きてるの……

612：レース好きの名無し
いけえええええええ

613：レース好きの名無し
行け！

614：レース好きの名無し
間に合うか!?

615：レース好きの名無し
ゴール!!

616：レース好きの名無し
コレは行つたか!?

617：レース好きの名無し
ちょうど！

618：レース好きの名無し
やつたか!?

619：レース好きの名無し
どうだ!?

620：レース好きの名無し

!

621：レース好きの名無しさん
おお！？

622 : レース好きの名無しさん
2 : 59 : 8 !!!

623：レース好きの名無し
行つたああああああああああああああ!!!

624：レース好きの名無しさん
マジかよ!?

625：レース好きの名無し

626：レース好きの名無しさん
59. 8!!

627：レース好きの名無しさん
3分切りよつた

628：レース好きの名無しさん
o m g

629：レース好きの名無しさん
うつそだろお前

630：レース好きの名無しさん
黒いの何してるん

631：レース好きの名無し
なんかカウントしとる

632：レース好きの名無し
何やつてんすか

633：レース好きの名無し
ハヤビデゴール！

634：レース好きの名無し
やつとか

635：レース好きの名無し
やつと……？

636：レース好きの名無し
3分15か

637：レース好きの名無し

3分15つて普通なら勝ち時計では……？

638：レース好きの名無し
ていうかコレ全員タイムオーバーじゃね

639：レース好きの名無し
あつ

640：レース好きの名無し
エクリップスかよ

641：レース好きの名無し

▷▷640

セクレタリアト「は？」

642：レース好きの名無し
どつちもバケモンなんだよなあ

643：レース好きの名無し
ああ、カウントしてたのってそういう……

644：レース好きの名無し
あつふーん（察し）

645：レース好きの名無し
性格悪すぎて芝

646：レース好きの名無し
コイツ初めからコレやるつもりだつたんじゃ……

647：レース好きの名無し
黒いのだしあり得る

648：レース好きの名無し
待つてビワハヤヒデ宝塚出れる？

649：レース好きの名無し
▷▷648

未勝利以外は一律1ヶ月間だから大丈夫やぞ

650：レース好きの名無し

3分切りのタイム出してやることが煽りなのホント性格悪い

651：レース好きの名無し
ライスシャワーやぞ

652：レース好きの名無し
それは万能の言葉じやねえんだよ
今回は当てはまるけど

653：レース好きの名無し
△△652

毎回当てはまつてる気がするのは俺だけですか？

654：レース好きの名無し
ライスシャワー「平均して1ハロン11・25より速く走れば3分
切れるぞ」

655：レース好きの名無し
そう言われるとできそうな気がする
いややっぱ無理だろ

656：レース好きの名無し
△△654

それが出来れば苦労はしねえ！

657：レース好きの名無し

△△654

なるほど、完璧な作戦つスね——つ
「不可能だ」という点に目をつぶればよおく

658：レース好きの名無し

△△657

ライスシャワー「できたぞ」（2・59・8）

659：レース好きの名無し
なんでだよ

660：レース好きの名無し
おーい、イツチ生きてるかー？

661：レース好きの名無し
そういうやイツチまだ反応ないな

662：イツチ
なんなんすかこれ

663：レース好きの名無し
生きてた

664：レース好きの名無し
俺もそう思う

665：イツチ

なんか黒い人長文でレスバやつてるんだけど

666：レース好きの名無し
!?

667：レース好きの名無し
いつぞやの菊花賞かな？

春天の大レコードは、それはもう大きな話題になつた。

まずウチのトレーナーが急激に忙しくなつた。

「なんか2年半ぐらい前を思い出すな」とは言つていたからまだ余裕はありそuddo。

しかしティオーの三冠からもうそんなに経つていたのか。

……よく考えたらこつちも原因は私だな。すまんトレーナー。

トレーナーが忙しいということは必然的に私も忙しくなる訳で。

一般的には「何なんこいつ」と言つた反応が多くつたが、やはりドーピングを疑う者も多かつた。

あんなレコード、しかも走り終わつて怪我をしていくとなると「薬で無理やり強化したから身体が耐えきれなくなつたのでは」と考えるのも、まあ分からくなはない。

ちゃんとレース前もレース後もドーピング検査しているし、U R Aもしつかり対応しているから、一部の匿名掲示板の更に極一部を除きほとんどは居なくなつた。残りは知らん。

ちらつと覗いてみたが、そう言つた主旨のスレッドに対しても否定的なレスが多かつたから、まあ大丈夫だろう。

クソコラミーム画像とかシットポスト、トローリング大雜把に言えばクソレスや荒らしのこと。をやろうとしているのが居た時はプロバイダに通報してやろうかと本気で考えたが、どうもそこの管理人はまだ知性が残つていたらしい。すぐに通報されて追い出されていた。

トレセンの事務室は特に変わつていなかつた。

電話の中身が姉妹から私に変わつただけで、クソ忙しいのはそのま

まだつた。

その姉妹からは、最近変な目で見られるが。コレに関してはどうでもいい。

ブライアンに喧嘩を売りに行くのだから。

さて、どうにかしてオフトラをダービーウマ娘になくてはならない。

おそらく——いや、ほぼ確実にダービー後に屈腱炎になると思うが、とにかくダービーまで起きなきやいい。
ボーガンから聞いた所によると、オフサイドトラップ号は何回もエビツたのに秋天を勝つらしい。
どうやって勝ったのかは教えてくれなかつたが。

とりあえずボーガンとウチのトレーナーを会わせて色々と相談。
——していたら。

「とりあえずスピカのサブトレになつたから」

「は？」

「いや、いつかは私もトレーナーやんなきやいけないわけだし。そのための勉強だよ。

あとサブトレの方が色々やりやすいだろ？」

「……ああ、なるほど」

「ついでに言うと、私次の宝塚で引退するからな」

「はあ!」

「いや、俺の時の最後の方の戦績知らんのか。ダラダラ続けるよりもその辺でやめて次に行つた方が私にとつてはいいんだよ」

「……そうか」

「それと、お前の例の宝塚をどうにかしないといけないからな。そつちに専念してえ」

「…………分かつた。私を理由にされたらどうしようもないよ」

自分のために動いてくれているなら引き留めづらい。

「あとスピカへのスカウトとかな。やることが多い」

「あ」

「さては忘れてただろお前。チーム存続かかつてんだぞ。95は今から間に合うか分からんから96メインでスカウトだな……」

「…………96か」

96年。

私の知らない年。

見てみたくはあつた。

「…………その後も誰をスカウトしたいとかあるのか?」

「まずエアグルーヴにタイキシャトルにシーキングザパール……それからサイレンスズカ、メジロはドーベルにブライト、あとは黄金世代ができる限り集めて……ジハードもだな。ティエムオペラオーは欲しいしナリタトップロード、マイショウウドトウにアグネスデジタルも欲しい。エアシャカールとかタップダンスシチーに01のクラシック取つた3人も良い。02も良いのが多い……03、04、05は絶対に欲しいのが少なくとも2人ずついる…………」

「いや多い多い多い。トレーナーが死ぬ」

「私も全員スカウトできるとは思つてない。ただサンデーサイレンスの初年度産駒のG1馬のほとんどをリギルに取られたのがクツソ

痛え。あの人こつち側の事知らねえのになんで的確に走る奴引っこ抜くんだよ……」

…………は?

いくら眼のいい馬主でもG1取る馬ばかり買うとか不可能だぞ。
ましてや血統とかで判断しづらいウマ娘側で?

「…………マジで?」

「マジ。リギルのチーム一覧見たら知ってる名前が出るわ出るわ。リギルって最近再稼働したんだけど、いくらなんでもやりすぎだろ
…………」

「実は知つてました、とかじやないのか?」「それとなーく示唆してみたけど反応無し。自分の眼だけで選び取つてやがる」「こつわ…………」

後

42. 日本ダービー

前

東京優駿。

またの名を、日本ダービー。

オフトラが全てを懸けるレース。

ブライアンに喧嘩を売りに行くレース。

さて、そんな当のオフトラ本人は――

「ハヽナヽシヽテヽエ……」

「嫌ですもう少しだけお願ひします」

ティオーをがつちりと抱きかかえていた。
なんでだよ。

その様子をバツチリ動画に撮っている私が言えた事ではないが。
後でTwitterに上げるか。

「デ、デレナイ……」

「ドリームに行つた人に負けるようなヤワな鍛え方してないんで」
「ライス、キタエサセスギダツテ」

「いやティオーもマックイーンも嬉々としてトレーニングさせてたよ
ね？」

「ムヽ……」

しばらくしてティオーが諦めた。

オフトラのなすがままにされている。

「……なんでずっと抱きしめてくるのさ」

「いやあ……こう、三冠ウマ娘を吸つてそれっぽいのを得ようと……」

「それっぽいのって何!?」

まあ、願掛けのようなものだろう。

倒すべきブライアンだが、当然のようにNHKマイルを勝った。だが問題が一つ。

NHKマイルでかなり抑えていた。

体力を温存し、半バ身程度と無駄に差をつけずに勝っていた。これでは消耗を期待することはできない。

しかもブライアンは大外枠、8枠17番。

東京競馬場はかなり外側不利とされているが、ブライアンであれば問題はないだろう。

そして外にいるということは、檻を形成しづらいということ。

皐月賞ではあんな檻からも逃げ出した。

何より、他のウマ娘たちに若干諦めの空気が漂っている。

おそらく、今回も檻に閉じ込められるとは考えない方がいいだろう。

要するに、ほぼ真正面からやりあうしかないということ。

「いや～キツイでしょ……」

「まだ時間はあるし、もう少し考え方詰めようか……」

「……やっぱこれしかないか」

「そうだな」

全員の意見が一致した。

「ライス、オフトラにできるんだな？」

「勿論。ただブライアンだしデバフは望めないと思う」

「それでもやるしかねえ」

時間が近づく。

一つのレスを投稿して、スマホを置く。

「準備はできた？」

ライスさんが尋ねる。

「……ええ、なんとか」

「ならよかつた」

控室のドアノブに手を掛ける。

ああそうだ、とライスさんが呼び止める。

「何ですか？」

「……っ」

「わかつたか？」

「——わかりました」

さて、それじゃあ——

「——行つてきます」

444：イッチ

ちよつと命懸けてくる

『さあバックストレッチに入りまして先頭は依然アイネスサウザー、その後ろにメルシーステージ。注目のナリタブライアンは中団の方。そのすぐ後ろにはオフサイドトラップがピッタリとついています』

ザザツ、ザザツ、ザザツ、ザザツ、と二つの足音が重なる。

目の前の黒い髪が揺れる。

この距離を保ち続ける。体力を使うな。

そのことだけ考える。

今は必要じやない情報は考えるな。脳をも温存しろ。

もうすぐ第3コーナー。

ブライアンはいつ仕掛ける？

同時にいく？でもブライアンの末脚に並べる？

いや、並んでみせる。

600だ。

それまでにブライアンが仕掛けなかつたら行こう。

緩やかに坂を下る。

6のハロン棒が近づいた時、ブライアンが動いた。
フェイントを警戒する必要はない。

どうせ他の誰も視界に入つてないんだから、わざわざ騙す必要はない。

今は無理に抜かすな。
だが抜かされるな。

並び続ける。

一人、また一人と抜かして行く。

ブライアンのギアも一つずつ上がつて行く。

上がり。

上がり上がり上がり！

死ぬ氣で並ぶんだ。

最後に少しでも抜かせばいい。

坂を登り切り、残り300の平坦な直線。
そして、前に誰も居なくなつた。

そして、前に誰も居なくなつた。

いるのは横のブライアンだけ。

「ああああああああああああああ!!」

全力で脚をぶん回す。

まだか。

速度の限界が近い。

でも、ここで超えなきやどうするんだ。

ブライアンが、こつちを見た。

私を見た。

怪物が、深く踏み込んで前に飛び出す。
まだ上がるのか。

でも私だつて、まだいける筈だ。

ぶちぶちつ

脚から嫌な音がした。

——嫌だ。

嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ。
ここで、こんな時に。

少し前のブライアンに、三女神の幻影が重なって見えた。
私は邪魔だとでも言うように、脚が鈍くなる。

「く、そがつ……つ」

私にやる冠はないってか。
クソどもめ。

これで終わりか。

「何ですか？」

——

「本当に勝ちたいのなら、たとえ脚がもげたとしても走り続けろ」

「……っ」

「わかつたか？」

「——わかりました」

ああ、そうだ。
まだ脚はもげてない。
なら走れる。

なあクソ女神。

私を止めたきや、脚ぐらい取つてみせろよ。

私は、案外しぶといぞ。

「 ッ
!!!!」

声にならない咆哮を上げる。

内からの衝動に突き動かされる。

全身がひび割れて行く感覚。

自分がどうやって前に進んでいるのか、自分でもよくわからない。

ゆっくりと流れる時間の中、ブライアンの背中が近づく。

でもその姿はすぐにボヤけてくる。

いや、これでいい。

何も見るな

この流れを止めるな
とぞ前進ひんぞ。

ノノ音ノ道也ノノ

何も感じない脚で、何も見えない視界で、何も聞こえない世界で、走り続ける。

前に、前に、前に。

! 1

前に。走れ。

まえ?

前つてどつちだつけ?

どこに行けばいいんだつけ？

でも走らなきや。

進んで、進んで、すすんで、すす

白い。眩しい。



思考に靄がかかつてゐるみたいだ。
ぼーと白を眺める。

ゆっくりとピントが合つてくる。
白い天井。白い照明。視界の端には白いカーテン。
それと同時に思考も晴れる。

「はどこだろう。
いや、とにかく起きなきや。

そう思つても、身体がうまく動かない。

「起きたか」

聞き覚えのある声がする。

声は近くからするのに、なぜか遠く感じる。
目を向けると、ライスさんが居た。

「……おはよう、（）ぎいます」
「ん、おはよう」
「……ここは病院ですか？」
「そこ以外にどこがあると思う？」
「……確かに」

ライスさんは手に持つていた本を置き、こっちを見つめる。

「どれぐらい寝てたんですか？」

「2日」

「……」

「ゴール板過ぎた後も速度を落とさず、そのままバランスを崩して
ぶつ倒れて転がつて、なお地面に這いつくばつて前に進んだ。んで

救護班に回収されてここに運ばれて今に至る」

あの時、前に進むことしか考えていなかつた。
多分意識もなかつただろう。

「……結果は」

「？」

「ダービーの結果は、どうだつたんですか」

「ああ……」

ライスさんが遠くを見つめて、

「負けたよ。ハナ差だつた」

「……そう、ですか……」

虚無感に包まれる。

頭の中で事実を反芻する。

しばらくして、悔しさが込み上げてきた。

病室の中、私の泣き声だけが響いていた。

包帯で巻かれた脚を見る。
もう走れないのだろうか。

「さーて」

ライスさんが呼びかける。

「来年の予定を決めなくちゃな」

「……え？」

「え？」

「いや……私走れるんですか？」

「え、うん」

マジですか。

正直ほんと諦めてたのに。

「今年いっぱいは治療とリハビリに専念しなくちゃいけないけど。来年は多分大丈夫らしい。全く頑丈な奴め」

若干羨ましがるような声で言った。

「ま、とにかく……怪我人同士がんばろう」

そう言えばあなたも脚やつてましたね。
というか、この状況つて。

「……あの」

「？」

「私もライスさんも怪我で休養じゃないですか」「
そうだな」

「ウチのチーム現役全滅ですけど大丈夫なんですか？」

「…………」

「…………大丈夫なんですか??」

「多分…………多分? テイオーとマックイーンがドリームにいるし大丈
夫でしょ…………大丈夫だよな?」

…………トレーナーの胃が無事であることを願う。

「あ、そうだ」

「はい?」

「はい、チーズ」

「えちよ待つ」

慌ててピースと笑顔を作る。

「てかそれ私のスマホじや」

「そうだよ」

そう笑つてスマホを投げ渡す。

「オフトラのこと心配してる連中がいるんだろ? ちゃんと無事だつ
て報告してやれ」

「…………はい!」

まつたく、気の利く。

掲示板でスレを探す。

いつのまにか2つも完走していて申し訳なく思う。

文章を打ち、画像を添付して送信。

364 : イツチ

ただいま起きました

心配かけてごめんね

〔画像〕

365 : レース好きの名無し

!!

366 : レース好きの名無し

大バカ野郎が帰ってきたぞ！

367 : レース好きの名無し
何やつてんだバカ野郎！

クツソ心配したんだぞバカ！

368 : レース好きの名無し

マジで不安だつたんだからなこの大バカ野郎！

それはそれとして無事でよかつた！

369 : 現地勢

ガチで夜寝れなかつたんだからな!?
無事でよかつた……

後

43. 爪痕

前

「はあつ、はあつ、はあつ、はあつ、はあつ、……」

走る。

速度を上げ、後ろの“ナニカ”から逃げる。

早く終わってくれ。

50メートル先のゴール板がやけに遠く感じる。

加速しているのに。できる限り逃げようとしているのに。

“ナニカ”は確実に近づいてくる。

“ナニカ”は凄まじい形相でぼくを追いかける。
お願いだから何処かに行つてくれ。

怖いんだ。

何がそこまでおまえを駆り立てるんだよ?
すぐ後ろまで来て。そして横に並んだ。

抜かれるわけにはいかない。絶対に。

残った力を振り絞り、恐怖を振り切るように——あるいは、恐怖による馬鹿力をもつて——少しだけ抜け出した。
ゴールして、やっと終わったと安堵する。

でも。

あいつは終わっていなかつた。

ゴール板を越えても、"ナニカ"は止まらなくて。そのまま地面に転んでも、口から泡を吹いても、なお進み続けていた。

なんなんだよあれは。

怖い。恐い。こわい。

「ひつ……」

口から悲鳴が漏れた。

それに反応するかのように、"ナニカ"がこつちを向いた。

そこで目が覚めた。

またこの夢だ。

動悸と冷や汗が止まらない。

少し落ち着いてから、時計を見る。

午前4時15分。

まだ早朝ですらない。

もう一回寝ようと思つても、不安が抑え切れない。

居ても立つてもいられず、自分のジャージを取り出す。

同室の子を起こさないように、静かに着替えて外に出る。とにかく何かしてないと不安になる。

暗い河川敷を走る。

走つても、後ろにいるんじゃないかと非現実的な想像をしてしまう。

いないと分かつても、自然と脚が速まる。

そのうち全力疾走に近くなつて、やがてスタミナが切れた。

ゆっくりと後ろを向く。

当然、何もない。

馬鹿げたことだと分かつているのに、ほつとする。

そして、来た道を戻る。

最初の地点で休んでいたとき。

「やほー」
!!!!

あいつがいるのかと思わず飛び上がる。

「あああ、「めん」「めん驚かすつもりはなかつたんだって。いやホントに」

声で違うとは分かつていたけど、それでも驚いてしまう。

「……ネイチャ寮長」

「はーい、寮長さんですよー、つと。……いやー、やっぱ寮長って呼ばれるのはまーだ慣れないねえ」

声をかけてきたのはナイスネイチャさんだった。

「えーっと、まー、最近よく夜に抜け出してるでしょ？」

「あ……ごめんなさい」

「ああいや怒ってるんじやないよ、別に。原因はわかつてるし。不安で仕方ないのもよくわかるよ」

「…………」

「アタシだつてちょっと見ててビビつちやつたもん。『なんのあの子』って」

ぼくの横に座つて、話を続ける。

「こうやって抜け出すのも、まあ止める気はないよ。アタシとしてはもうちょっと寝て欲しいかなー、って思うけど」

「…………」

「もちろん、アタシは寮長だから、外に出るのを無理やり止めることもできる。でもそれじゃあ根本的な解決にはならないじやん？
それに、アタシの仕事は『禁止する』ことじゃなくて『しなくてもいいようにする』ことだから。

あと、ブライアンはお姉ちゃんに見栄張つて強がつちやうでしょ？
わかるもん。大事な人に心配かけさせたくない、強くありたいって。
だからさ、アタシに話してみてよ。

独りで抱え込んでたら、どんどんそれに引き摺り込まれちゃうもん」

ぼくは、ポツリポツリと話しう出した。

ダービーも終わり、オフトラも退院した。

うちのトレーナーが上からお小言を頂いてしまつた。
現役全滅が原因だ。

とは言うが全体的に見たら元よりマシなんだよな。
怪我するやつばかりスカウトするトレーナーは本当に運がない
と言うかなんというか。

でも怪我が原因で引退したのはいないし、ちゃんと復帰しても勝つ
てるし。

もう少し言うなら私が勝手にやつただけのものもあるし。
それもきちんと監督しろと言われたらぐうの音も出ないけど。
だからお小言程度で済んだのだろうな。

ふと気になつたんだが一度も怪我をせずに引退まで行つた馬って
どれぐらいいるんだ?

どんなのも大小はあれど怪我してる印象があるんだが。

馬とウマ娘がリンクしてゐるなら“こつち側”でも分かるだろ、と
思つて調べても出なかつたんだよな。
検索の仕方が悪いのか?

ナリタブライアンは、この後は菊花賞に直行するらしい。
いやー宝塚に出ると思つたんだが。

まあ、宝塚がボーガンのラストランだつて伝えたからな。
凄まじく睨まれたが。

そんな宝塚記念。

「……なあ、本当になんかやらかさないといけないのか？」

ごねるボーガンに詰め寄る。

「当たり前だろ。私もやつたんだから」

「…………はあ。安全に行くわ」

心の中でガツッポーズを決める。

「で、何すんの？」

「まあ見とけって」

『——さあラストランとなるキヨウエイボーガンは、なんと最後方に位置しています!!』

マジかよお前。

会場が騒然となっている。

そりやそうなるよ。

ウマ娘全員が動揺しているうちに、ぐんぐんと追い抜いて挙句の果

てに5バ身差つけて勝ちやがつた。

お前いつの間に追い込み——いや、もはや捲りだなこれ——なんか練習したんだよ。

私と同じく大逃げ仕掛けると思つてたんだが。

おそらくガツチガチに大逃げ対策を組んでいたであろうビワハヤビデが不憫でならない。

そんなビワハヤビデを10秒以上置いてけぼりにした奴がいるらしい。

一体どこの誰なのやら。

全く身に覚えがございません。

「…………」

「……オフトラ、何その目は」

「あなた達つて何かやらかさないと気が済まない人種なんですか？」

私は目を逸らした。

後

44. 反ミーム？

前

夏合宿。

怪我人二人は砂浜を歩く。

砂がクツシヨンとか海水には消炎効果があるとかなんとか。
要するにリハビリである。

マックイーンとティオーは普通にトレーニングをしている。
ゴールドシップは砂でクラインの壺とかカラビ＝ヤウ多様体とか
を量産していた。

どうやってそんなものを砂で作れたのか、セミナーを開いて一から
全部説明して欲しい。

ボーガンは後から合流するらしい。

トレセンでスカウトに勵んでいるようだ。

宝塚を勝つたから、ウマ娘からの受けはいいと思う。
何人か成功してるといいけど。

「おーいライス！ 見てくれ！」

ゴールドシップから呼ばれた。

見に行つてみると、二つの平面の間に球が幾つかある構造物があつ
た。

「……なにこれ」

「左は theta 関数による対称性通信。右はκコア的関数。真ん中の球が対数殻」

「は？」

「正直ゴルシちゃんにも、これが何なのかさっぱり分からん」「は？」

分からぬものを作つて見せるな。
余計分からなくなる。

「いやあ、超高度数学の英語の500ページ超の論文を読むのは流石のゴールドシップ様でもしんどくてな……事前知識を含めたら1000ページ超えちゃうし……だから解説動画を模すしかなくてよお……その解説動画も何一つ分かんねえんだけど」

「……ちなみに何の論文？」

「*Universal Teichmüller Theory*」

「名前しか知らないな。なにそれ」

「んー、これはゆるーく言うと掛け算と足し算を分離するものなんだけどー、それにはまず thetaリンクっていうのを掛け算系のモノイドと抽象的な群としての局所的なガロア群だけで構成して」

「OK、ストップ。それ以上はいい」

慌てて止める。

何か入っちゃいけない世界の気がする。
というか何でそんなの知つてんだよ。

「いいのかあ？ 宇宙を感じられるぞ～？」

「数学的な宇宙とか理解したくない……」

「なあ頼むよー一緒に論文読もうぜ～」

「絶つつつつつつ対に嫌」

へばりついてくるゴールドシップを押し退ける。

「ちえーっ。ゴルシちゃんは正八胞体でも作ってるか」「いやトレーニングしろよ」

夏も終わりが近づいた。

少し前には、ブルボンが「おにぎりコース許すまじ」（超訳）とか言ってるくせにKG VI & QESで2着に入つたりして国内を沸かせていた。

ボーガンから聞いたところによると、ブルボンは馬の時にどういう訳か引退後の方が馬体が仕上がつてるとかいう意味不明な状況になつていたようだ。

もし走れていたらこんなことになつていたのだろうか。

ちなみに次はフォア賞からの凱旋門らしい。逃げは向かないけど頑張れ。

私の怪我はどうやらもう治りかけらしい。
来年までかかると思つたんだけど。

となると春までレースを考えなきやならない。

秋シニア三冠のレースに出てもいいのだけれど、「無茶してないよ」アピールとして抑えながらGⅢ・GⅡに絞ろうと考えている。

というかそろそろ2400以下の重賞に勝ちたい。
いい感じのローテでいい感じの距離のレースはないものか。

誰か提示してくれないかな。

さて、スピカの部室でダラダラとD y○a m i xの下埋めをしようと。

「……なんで……」

「どうしたお前」

ボーガンが死んだ目で入ってきた。

大丈夫か？ 関節変な方向に曲がつてない？

「……サンデー四天王いるじゃん。96世代の」

「ああ、そんなのがいるつて言つてたな」

コンコン

「既に4分の3取られてるんだけど」

「はあ!?」

……あ、good出た。クソが。

というか何だよそれ。何でもう取られてるんだよ。

コンコンコン

「その後もGⅡ勝つ連中を探したらカノープス行つてたし。なんなんこれ」

「……どうなつてんだよ」

「アツツら眼が良すぎる……」

「……4分の3取られたなら、残り一人はどこ行つたんだ？」

「あのー、聞こえます……？」

そいつならまだ取れる可能性残つてるんじやないのか？
そんな考えを否定するかのように、

「あの……もしもし……？」

「行方不明」

「勝手に行方不明にしないで」と答えた。

いや待て待て待て待て。

「あの……もう入りますよー？」ガチャツ

「行方不明つて何!?」

「ああ……一応出席 자체はしてるみたいなんだけどな……休み時間とか放課後になつた途端どつかに消えるらしくってな……教室前に張り付いてても、いつのまにか消えてるんだよ……やつと見つけたと思つたらフサイチコンコルドとかファイトガリバーとかだつたりで別の奴だつたし……」

「ちゃんと前通りましたよ……？」

なにそれ怖い。

「……飯時にカフェテリア行けばいるんじやないのか？」

「どこで飯食つてるかすらわからんねえんだよ。目撃情報が一切無い」

「カフェテリアの店員さんも気付いてくれない……気付いてくれるのはQRコードリーダーだけ……たまに反応しないけど……」「……最悪寮内で探せば…………そいつ栗東か？」

「栗東。あともうやつた」

「気付いてください……後ろです、後ろにいますよ……」

やつたのかよ。

……ん?

「やつたのに？」

「イエース。居ない。ヤベエぞ、同室の奴が『顔を覚えてない、それどころかそもそも顔を合わせてすらいない』って言つてんだぞ。もうホラーだよこれ」

「えつ、わたし会つたよね……？　あいさつしたよね……？」

「……もはや幽霊の類だろそれ」

「私もそれを疑い始めてるよ。一応入学試験のデータとかは存在してるんだけどなあ……」

「幽霊じゃないです……ちゃんと生きてます……」

「そこまで居ないならもうデータのバグとか疑うしかねえよな……」

「あの……バグじゃないです……ちゃんと今ここにいます……」

「いつもこう……闇の中で踊つても、誰も見えない……気付けない

……」

何なんだよそいつ。

そんな生きた怪奇現象みたいな奴が来たらそれはそれで怖えぞ。

「失礼なこと考えられてる気がする……」

「……ちなみにそいつの名前は？」

「ダンスインザダークです。そろそろ気付いてください……」

「ダンスインザダーク。長距離走れるからウチに合うと思うんだけどなあ……」

「わたしも合うと思つてここに來たんです。だから……あの……気付いて……」

スカウトしたくても見つからないんじややりようが無い。
その時、ふと閃いた。

「なあ、そいつってサンデーサイレンスのどこのだよな？」

「ああ、そうだけど……」

「サンデーサイレンス先生……あの人だけはよく気付いてくれた
……」

「確かマックイーンがサンデーサイレンスの連絡先持ってるから、そこから連絡して探すのはどうなんだ?」

「……アリだな。後で聞いとくわ。とりあえず今はまた探してくる。名前とか強さとか家柄とかは目立つ筈なんだけどなあ……」

「えつ、あの、後ろ……」

そう言つてボーガンは外に出た。

「あの、待つて……後ろ、後ろにいます……お願ひだから気付いてください……」

どうか見つけ出せることを祈つてる。

本当にいるのかだいぶ怪しく感じるけど。

「わたしはちゃんといますよ……」

……気分転換に半球とかJ.O.Kでもやるか。

後

45. 認識

前

めも、可能性、ステイヤーズ 12月前半 中山3600、オーラカマー 9月後半 中山2200、福島記念 11月前半 福島200、年明け史実で 多分減らす

「……まだ見つからないの？」

「うん……」

「後ろですよー……」

スピカの部室で嘆くボーガン。

今はマックイーン以外の全員がいる。

ダンスインザダークが本当に見つからない。

一度スピカ総出で校内を探し回ったことがあるのに、それでも見つからない。

「すぐ近くにいましたよ……」

「……やつぱりいないんじゃないの？」

「いや、出席記録とかのデータにはちゃんと残ってるんだよ。だからいる筈なんだよ……」

「でも見つからないんだろー？ もう諦めるか？」

「うううううん……」

「あの、います……ここにいます……」

誰に聞いてもどこにも居ない。

あのたづなさんですら見つけられなかつたのだ。

「たづなさんも気付いてくれなかつた……」
最早どうしろと。

「……一応、そいつ以外にアテはあるのか？」

「うん、あるにはあるけど……どちらかと言うと個人的な興味からなんだけど……」

「へえ。誰？」

「マキノプリテンダー」

「誰だよ。

「誰ですかそれ？」

「マキノプリテンダー……どつかで聞いたような……どこだつたか」

トレーナーがうんうんと唸り出す。どうも知っているらしい。

「ほら、アレです。T大と共同で実験やつてる子」

「ん？ ……ああ！ アイツか！」

「じ、実験……？」

「実験つてなんですか」

ティオーが恐る恐る聞く。

「そ。独自に開発した食事とか摂つたり、全身に機械貼り付けて走つたり。精密なサンプルデータを提供してる」

「へへ……」「へへ……」

「でも、それじゃあスカウト難しいんじやねえの？ なんかめんどくさそう」

ゴールドシップが言つた。

確かにそうだ。

「そう。一応トレーナーは選べるみたいなんだけど、お察しの通り

チーム制とは合わない。だから『個人的な興味』って言つた

「あ、ここに契約書あつた。勝手に書いていいのかな」

「ふくん」

まあ、多分スカウトされることはないだろう。

「あの……これ書いたので、机の上に置いておきますね」ペラツ

その後も高大連携とか入試とか色々話をしていると。

「……あれ？」

「どうした？」

何かがおかしい。

何か違和感を感じる。

「いや……何か違和感が……」

「？」

ふと机を見ると、一枚の紙が置いてあつた。

「……あそこに紙とか置いてたつけ」

「いやしらねえよ」

ゴールドシップが真顔で突っ込む。

「いや多分なかつた、さつきまでそこで音ゲーやつてたから」
「ゲームかよ！」

なんか言つてるが気にせず見に行つて、

「……は？」

氣の抜けた声が出た。

ダンスインザダークの名前が書かれた、トレーナー契約書があつた。

なんで？ いつ？ どうして？
訳がわからないまま、皆に見せる。

「……これ置いてあつたんだけど
「……えつちよつ、はあ!? なんで!?」

ボーガンが驚いて声を上げる。

すつと探し回つてたウマ娘の契約書が置いてあつたんだ。
そりやあそつなる。

全員が困惑している。

「あの……」

いた。

そこにいた。

初めからずっとそこにいたかのように、ダンスインザダークは立っていた。

「あ、やつと気付いてくれた」

「い、いいいいいいいつからいたんだよ!?」

ゴールドシップがガチビビリしながら問う。

「ええっと、ライスシャワーさんがそこでゲームをやっていた時からです」

「んな訳あるか!?」

思わず素で反論する。

嘘つけ絶対居なかつた。

「いや居た訳ない……居た訳が……」

急いで記憶を辿る。

ここに来て a r c ○ e a 開いて f i n a l v e r d i c t 詰め
て横からコイツが見てきて f t r a r c a n a で e x 出して……

うん?

「……いる」

「え?」

「待つて記憶にいるんだけど何怖い怖い怖い怖い怖い」

頭を抱える。

いや馬鹿な。横に居たなら絶対に気づく筈。

でも記憶にはいる。

何が起こっている!?

「ちなみに先週からずっとキヨウエイボーガンさんに声かけたりしてたんですけど、一向に気付いてくれなくて……」

「…………はえ？」

ボーガンが弱々しく呟く。

頭を抱えて叫ぶ。

他の皆も記憶を辿つて、そして居たことに気付く。何より、一切気が付かなかつた自分に恐怖している。

ゴールドシップは完全にダメになつた。顔を真つ青にしてガタガタ震えて縮こまつてゐる。

「本当に、気が付かれたことが少ないんですね」

少ないとかじやねえよ……アノマリーの域だよもう……」

認識阻害かけられた時つてこういう感覚なのかな。
全員がまじまじとダンスインザダークを見る。

「ええつと、一応ダンスインザダークであつてるんだよな?」

「ズ」

「嘘だろ!?」

ゴールドシップが悲鳴を上げる。

「だつて……お前……お前……!!」

「はあ？ 別に気付かなかつただけだろ。それはそれとしてスカウトはするぞ？」

「え、いや、ちょ、はあ！？ 恐くねえの！？」

「認識が改変される感覚を味わえて大変興味深かつた。できることならばもう一度体験したい」

「イミわかんねえ！」

ゴールドシップがまだ何か言っているが、トレーナーもボーガンも無視。

「あー白いのが何か喚いてるけど無視していいぞ。これからよろしくな」

「はい、よろしくお願ひします」

「ヨ、ヨロシク……」

「よろしくお願ひします」

「ゴルシちゃんもう帰りてえ……」

いよいよ秋シーズン。

私はとりあえずオールカマーに出ることにした。

今回はツインターはいない。

なぜか「秋天に出る!!」とか主張しているし。

秋天にはビワハヤヒデ出るから頑張れよ。

ちゃんとTwitterでも記者会見でも「無茶な走りはせず安全に行く」と主張はある。

……主張は守るよ。うん。守りますよ。ええ。

私は2200メートルを逃げ続けて勝つた。
ほら、半バ身しか空いてない。

ちゃんと安全に行つた。

念願の2400以下の重賞制覇だ。

なのにボーガン、なんだその目は。

「常に半バ身をキープし続けたくせに何言つてんだテメエ」

ずっと先頭にいれば勝てる。

だつたら、一つ後ろから一定距離を保ち続けたら勝てるということ
だ。

周りに合わせるだけでいい。

なんて思考が楽になる作戦なのか。

「お前の後ろのやつの顔見てから『言え』

後

46. 青いエンジン

前 前

秋天の日。

私はゲーセンにいた。

秋天にはうちからは誰も出ない。

ビワハヤヒデが出るし、どうせ屈腱炎回避して勝つだろうから、後で結果だけ見ればいいかと思つたのだ。

全国大戦で進行マスを稼ぐ。

あつこの野郎ハイセ○スナンセ○ス投げやがつたふざけんな！
お前後でTeri〇maの刑だからな覚悟しろよ。
お互いに中指を立て合いながらゲームに興じる。

キリのいいところで切り上げ、休憩。

時刻は午後4時。

もう秋天は終わつたか、とスマホを開いた。
そこにあつた勝者の名は。

「ツインターボオ!!」

ゲーセンで大声を出してしまつた。

マジかよターボ。

何があつた。

何したお前。

まさか逆噴射しなかつたのか。

クソがマジで見とけばよかつた。

次はジャパンカップらしい。

帰つたら絶対に動画見る、と決めてまた筐体に戻った。

今日がイベント最終日なのだ。

早く完走しないと。

動画は後でも見られる。

次のジャパンカップは見に行く価値があるかもな、と思いながら私は黒譜面を投げた。

道化師外し忘れて自爆した。

私の次走はステイヤーズステークスだ。

12月にあるのまだ先だけど。

菊花賞はブライアンが勝った。

勝ったには勝ったが、どこか焦り、あるいは恐れを持っているよう
に感じられた。

大丈夫だろうか。

ブライアンが菊花賞を勝つたので、姉妹揃つての無敗三冠が達成さ
れることになる。

学校にマスコミが押し寄せ、姉妹の実家にも取材が行き、テレビで
は特番が組まれ、トレーナーが過労で倒れた。
まあいつものことだ。

いつも倒れられても困るが。

素晴らしいことに4年中3年も無敗三冠が出たのだ。

魔窟か何かだろうか。

どつかの誰かが1年穴を開けたのだが。

テレビやネットでそのことが言われるたびにボーガンと一緒に指差して嘲笑するはとても気分がいい。

なお穴を開けられた側のウマ娘は凱旋門賞で2着だった。
あと20cmだった。惜しいなあ……

そんな「穴あき」の世代にも注目は来る。

未だに走り続けているのがだいぶ減つて来ている癖に、引退しないのが私・ブルボン・バクシンオーとかいう、他世代からしたらなかなかに理不尽な面子が揃っている世代なのだ。

テレビの突撃取材が来たことがある。

まず無敗二冠ウマ娘のブルボンにカメラが向く。

次に面白そうな気配を感じ取った私がその場に現れる。

さらに何かやらかそうとしている私を感知したボーガンがついて来る。

そして揃った92クラシック組。

ブルボンが記者を起点に爆弾を投げ付けた。

「今なら無敗三冠を取れると思います」

「は？ お前外国で成績いいからって団に乗るなよ」

「よしブルボンちょっとターフに出ろ、私が引退したからつて鍛えるのをやめたと思うなよ」

「いいでしよう、条件はダービーと同じで構いませんか？」

「異議なし」

「ではそれで。私が勝ちますが」

「あ、？ その腐り落ちた認識機能に現実突きつけてやるよ」

「はっ、お前がクラシックデイスタンスで私に勝てるわけないだろう

が

「黙つてろマイラー、口にダート突つ込むぞ」

「すいません一応これ取材なんです。もう少し穩便に出来ませんか

1

「「「レースこそ最も穩便な手段ですが」」」

「……ハイ、ソウデスネ……ちなみにレースを撮影しても？」

「「？」」

結果は不明、ほぼ同意だつた。

ギチンと測る機械が無かったのか悔やまれる体感では絶対に私が少し出ていたはず。

絶対に

なお一番の勝者はテレビ局である。

— — — — —

ジャパンカツプ。

私はターボを応援しに来ていた。

というか今回のジヤパンカツブ、やはりツインター人気か。
さすがツインターボだ。

また、今回はトレーナーが「絶対に勝てる」と断言していたのもあるだろう。

果たして東京の2400を走り切れるのか。

一般客として応援するのは場所取りがしんどいな、と思つていたのだが、杞憂に終わつた。

ターボに応援しに行くと話したら、カノープスに混ぜられたのだ。というわけで今横にカノープスの面々がいる。

「感謝していますよ、ライスシャワーサン」

突如南坂トレーナーに礼を言われた。

「あの時のオールカマーで、ターボさんは何か壁を突き破つたように感じます」

「そして、その突き破る原動力の一つがあなたです」

「あの時から1年——ターボさんは“燃料タンク”を身につけました」

ああ——恐ろしい。

永遠に逆噴射しないツインターボ。

それは、きっと。

「あなたの春天よりはマシですが、それでも“酷いこと”になるのは保証しますよ」

——ジャパンカップは、ツインターボが10バ身の差をつけて勝つた。

最後に若干のスタミナ切れが見られたが、もはやそれすらどうでもよかつた。

今までに聞いたことのないような歓声。

ただ私やブライアンが圧倒するのでは生まれ得ないもの。ツインターボでしか、この歓声は生み出せないだろう。

「……次は有『font: u140』馬『/font』ですか？」

「ええ。このまま秋シニア三冠を取りますよ」

「おお怖い。有『font: u140』馬『/font』を回避してよ
かつた」

「それはこちらのセリフです。ブライアンに加えてあなたも対処しないといけなくなってしまう」

47 最後の春天

前

ステイヤーズステークスも似たような感じで勝った。

また半バ身差キープしただけだが。

いろんな所で「人の心が無い」とかひどいことを言われたが無茶はしていないので問題ない。

ライオンが死んでもスターを取得できれば問題ないのと同じだ。
「こうすれば勝てる」とオフトラやダークに示したつもりなのだが「余計なこと吹き込むんじやねえ!」とトレーナーとボーガンに怒られてしまった。

何故だ。

その後ゴールドシップに「常に距離キープしてヌルヌル動くの気持ち悪い」と化け物を見る目で言われたので軽く締め上げておいた。
近場にフックがあつたら吊るしていたのに。

そして有馬記念。

『ツインターボの先頭は終わらないっ! ナリタブライアンは伸びを欠くか!?』

『ツインターボ、史上初の秋シニア三冠達成! 有終の美を飾りまし
た!!』

有馬は、ツインターボが勝つた。

ちよつと何が起きてるかわからない。

マジで何した南坂T。

私が原因とか言われても何一つ理解できない。

ツインターBからは、ダービーの時のオフトラに似た雰囲気を纏つていた。

魂からの覚悟。

しかし暴走にも似たオフトラのそれとは異なり、抑えて制御下に置いていた。

その技術には舌を巻くものがあつた。

実行したツインターB、そして彼女を指導した南坂トレーナー。流石だ。

ターボが引退してしまうのが悔やまれる。

ネイチャ？ まだ走つてるよ。

いつまで走るんだこのヒト。

ブライアン。

あの状態のツインターBに怯えていた。

前に”恐ろしいモノ”がいたからか、一定以上詰めることができなくなっていた。

明らかにダービーのせいだな。

なんか……すまんかった。

これを重く見たブライアン陣営が休養を選択。
次はいつになるやら。

さて年も明け。

オフトラの復帰戦はバレンタインステークス。

その後は取得賞金を稼ぐためオープン・G3あたりを高頻度で出る予定だ。

そういえばオフトラつて未だに重賞未勝利なんだよな。

勝たせなくては。

私の次走は京都記念——ではなく、春天直行。

「お前が加減できないのはわかつたからもう春天と宝塚以外出るな」とはボーガンの言。

私から言わせて貰えば、前回の春天みたいなことをしてないので十分に加減したつもりなのだが。

数を減らすのは足の負担ができる限り減らすためだ。

だが宝塚での事故対策などと言つても一般人には信じられないだろうし、何も理由がないのに春天を回避するのはあまり印象がよろしくない。

というか有馬記念サボったのでちょっとお上の気分がよろしくない。

「春天三連覇かかつてんんだぞ出ろよ絶対出ろよ」という意志が上から漏れできてる。

確かに集客力が欠けるのは良くない。
お金は大事。

そして、今日はその天皇賞・春。



今回の相手はただ一人。



「今日はよろしくお願ひします、ライスシャワーさん」

「……そ、ミホノブルボン」

ミホノブルボンだ。

まさか春天に出るとはな。

「後はキヨウエイボーガンさんがいれば完璧だつたのですが
「ああ……ボーガン、ブルボンが出るつて言つた時『ブルボン出んのか
よ引退しなきやよかつた!』つて数時間喚いてたよ」

ちらつと観客席を見る。

そこには歯を食いしばり血涙を流すボーガンがいた。

握りしめる柵がミシミシと歪んでいく。

舌を出して煽つてやると中指で返事された。

おおこわいこわい。

「まあ……なんというか、随分と淋しいレースだな?」

「7人しかいませんからね」

コースを見回す。

私たちの他には5人しかいない。

その5人全員がこっちを見てきているのだけれど。

「一体誰のせいなのやら」

「9割以上あなたが原因だと思われますが」

「へえ。ブルボンが1割以下というのは、所詮その程度ということですか？」

「訂正します。私とあなたで10割です。内訳は……今から決めましょうか」

ピリピリと空気が張り詰める。

いつの間にブルボンが煽りを学習したのかは知らない。

「お前とボーガンのせいだろ」と言われたら否定できない。

例の番組は割とバズつた。

私とボーガンはともかく、ブルボンがあんな発言をするのが珍しかったようだ。

発走時刻が迫る。

ブルボンが強い眼光を以つてこちらに向き直つた。

「ライスさん。あなたは私の三冠を阻みました。

……今度は、私があなたの三連覇を阻む番です」

あの時の意趣返しということらしい。

「——やつてみろ」

「——望むところです」



レースは、馬の時とは違つた形で進んだ。
ブルボンがいるから当然ではあるが。

そして、ブルボンがいるからこそ、本来の得意範囲で競えた。
ブルボンが正確に前を走り、私がずっとマークし続ける。

4角の終わりが近づいた時、私はこの時間が惜しいと思った。

まともに走れる最後のレース。

走り続けることの叶わなかつたミホノブルボン号^ラと、このレースで、この世界で競えるという喜び。

とても、惜しい。

ゴールが近づく。

私にとつては正真正銘のラストスパート。^{最後の}

ブルボンが横に並ぶ。

競り合い、抜かし合い、ゴールに駆ける。全力は出せなくとも、私達は本気だった。

それは、とても楽しかった。

両者の顔に笑顔が浮かぶ。

終わりが近い私。

まだ先があるブルボン。

その差を示すかのように、ブルボンが僅かに前に出た。

『ミホノブルボンが僅かに抜けて今ゴールイン!!　あの時の、菊花賞のリベンジを、今果たしました!!』

悔しいが、悔いはない。

「……なあブルボン」

「なんでしょう」

「KGQEも凱旋門も出るんだよな?」

「はい」

「……勝てよ。たとえ私が見てなくとも」

「……はい。必ず」

後

宝塚記念。

私の目的地。

私が死んだ地。

なぜこのレースに出ようと思ったのか。
初めは出る気なんてさらさらなかつた。

なんで自分が死んだレースに出なくちやならないんだ、と。
出なかつたら何も起きないのだろう、自分からわざわざ死に行く
真似はしたくない。

予定が狂つたのは、最初の有馬記念だつた。

本来怪我をするはずのサンエイサンキューが出走せず代わりに
ボーガンが出走したのだが、そのボーガンが負傷したのだ。

その時ほど、運命というものを呪つた時は無い。

レースの順位は勝手に変えられたのに、怪我が発生するということ
は変えられないのか。
きっと偶然だろう。

その希望は、ティオーの怪我や他のレースの結果から絶望に変わつ
た。
レースの女神は随分と寛容なようだが、死神はとても仕事熱心らし
い。

幸いにも、発生そのものは抑えられなくとも軽減・遅延程度であれ
ば見逃してくれるようだが。

となると、もし私が宝塚に出走しなかつた場合、他の誰かが重症ま
たはそれ以上の怪我を負うのは確実だろう。

私の時は四足歩行だつたから何とか立つことができた。
しかしウマ娘は二足歩行。

時速70km近くで疾走する生身の生物の足が、途中でへし折れた
らどうなるか。

まあ——酷いことになるのは確実だ。

他の奴らが死にかけるのは見たくない。

何も知らずに宝塚に出て、何の兆候も無いのに死にかけるというの
は余りにも心が痛む。

アレは痛い。そして怖い。

誰かがそんな思いをするぐらいならば、全部を知っている私が万全
な対策をもつて痛い目に遭うほうが何倍もましだ。

何事も起こらずに平和に終わるのであれば一番だ。

だが、恐らくそうはいかない。

死神が見逃してくれる回数は決まっているように感じる。ティ
オーの最後の方の怪我はもうどうにもならなかつた。

何度も許してくれるわけではないらしい。

私はもう死神の免罪符を使い切つてしまつたかもしれないのだ。
3歳時の骨折が起きなかつたから。

あと少しは残つていると信じて、何も起きないことを願うばかり
だ。

私はこのレースで引退する。

事故で走れなくなるから、というのもあるが、春天地実力が衰えて
いることを痛感した。

ならば全力で命乞いさせてもらおう。

後のレースのことは考えなくていい。

どれだけ不格好でも、生きてりや何とかなる。
とにかく対策を練つた。

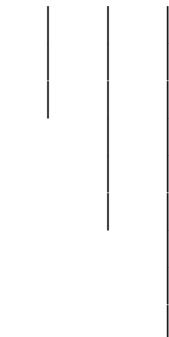
受け身の練習、体の強化、勝負服の調整。

折れる箇所が左脚だとわかっているのなら対策はいくらでも立て
られる。

これらが結実することを祈る。

何度も吐いて、麁されて、それでも続けた。

そして、その日が来た。



重い足取りでゲートに向かう。
少しでも時間が伸びてくれれば。

そんな私の願いを無視して、時間は無情に過ぎる。

何事もないかのように振舞つてもやはり少しは外に出てしまうようで、一部観客から私の不調を見抜かれてしまった。

残念、不調どころか絶不調だ。

出走者は何人かが入れ替わってはいるが、私の番号は変わらない。

8枠18番。

ゲートの数メートル前で立ち止まる。

他のウマ娘はもう入った。

私が最後だ。

ゆっくりと息を吸い、ゆるやかに吐く。

覚悟を決して、ゲートに入る。

『さてラストランのライスシャワーがゲートに入り、——宝塚記念、今
スタートです!!』

このレースでやることは一つ。
あの時を再現しろ。

他の奴に鎌を触れさせるものか。

あの時の自分をマークしろ。

完全にトレースしろ。

一步一歩まで、正確に再現しろ。

あの場所が近づくにつれ、体感時間が引き延ばされていく。

景色が二重に見える。

馬とウマ娘が重なつて見える。

存在感も、体温も、駆ける音も、何もかもが記憶のそれと合致していく。

それでいい。

結果だけを捻じ曲げる。

一步が数十秒に感じられる。

迫る恐怖を押しのけて足を進める。

あと三歩。

あと二歩。

あと一歩。

そして、私の左足は折れた。

やはりだめだつたか、と悔やむ。

だが元々こうなることを予期して準備してきたのだ。

痛みは未だ脳に達していない。

酷くゆっくりと流れる時間の中。

私は受け身を

は
?

メ
ギ
ヤ
ツ

自分を戒めるかのように柵を強く握りしめる。

今自分が行つたところで何ができるのか、と。

柵から乗り出して、今すぐにでも駆けつけようとして——やめた。

会場は数瞬静まり返り、そして悲鳴で埋まった。

何度も地面を跳ね、やがて動かなくなつた友人を。
むき出しになつた白い骨が、彼女の血で赤く染まる様を。

バランスを崩し、大きく転倒した黒い彼女を。

そのへし折れた両足を。

ボーガンは見た。

ひしやげた柵の破片が掌に刺さり、血が流れだす。

ただ、彼女の足に赤色が広がるのを見ていることしか出来なかつた。

後

私は、ベッドに横たわる管まみれのライスを見ていた。

幸いにも一命は取り留めた。

ちよつと傷口からの雑菌がヤバかつたらしいが、なんとか山場は越えたようだ。

しかし、一向に目覚めない。

だけど、どこか安心していた。
あの場所で死ななかつたのだ。
鎌はすでに振るわれた。

ならば、もうこれ以上はない。
きっと大丈夫だ。

実際、怪我も癒えつつある。

ちゃんと心電図も脳波も出てる。

今までの栄養管理が功を奏したのか、はたまたこの医者が有能なのか。

両方だろうな。

まさか緊急手術にメジロ家お抱えの面々が来るとは思つてもみなかつたが。

あとは、こいつが目覚めるのを待ち続ければいい。
暗くなつた窓の外を横目に、備え付けのテレビの電源を入れる。

「さて、いまからKGQEだぞ。ブルボンの奴めつちや意氣込んで
るからな。『なにが神のウマ娘ですか』ってな。ちゃん見とけよ、ライ
ス」

数日後、病室に送られた見舞いの品の中にトロフィーが一つ増えた。

なあ、見ただろ？

すげえじやねえか、あのラムタラに勝つんだぞ？

インタビューでもずっとお前のことばつかしやべって。

お前が怪我しても折れずに、見せつけてやるつて前向いて。

そんで勝ったんだ。

だから、早く起きてやつてくれ。

あいつ、お前の言葉をずっと待ってるんだから。

凱旋門は直接見てやれよ。

だから――

「起きろよ、なあつ……！」

脳波は変化しなかつた。

そのまま数か月が過ぎた。

その日、日本中が湧き立っていた。

日本初の凱旋門賞制覇。

それを成し遂げたウマ娘が帰国するのだから当然か。

空港のゲート付近には大量のカメラマンが。

飛行機が到着したのはその場の全員が把握済み。

今か今かと待ち構えていると、その姿が現れた。

誰もがテレビの向こうで何度も見たウマ娘が、

——全力疾走で突つ込んできた。

片手には大きなキャリーバッグ。

カメラに向かつてサービスする暇なんかない、と瞬く間に出口に向かつた。

全力疾走するウマ娘を至近距離からカメラに入れるのは至難の業だ。

局によつてはすでに走り去つた後の通路しか映つていない、なんてこともあつた。

すぐさま車に乗り込みその場を去つたミホノブルボンを、誰もが果然と見つめていた。

法定速度ストレスで走る車の行く先は病院。
着いた途端また走り出し、面会許可を得る。

受付の人間はこれを予想していたのか、非常にスムーズに手続きが終わつた。

エレベーターを待つ時間が惜しいとばかりに階段を駆け上がり、そして一つの病室の前に着く。

扉を開けて、その部屋の主を見た。

彼女は未だに眠つていた。

「……早すぎんだろお前」

既に部屋に居たボーガンが、呆れた声を出した。
息を整え、ケースから一つのトロフィーを取り出す。

「——ライスさん。勝ちました」

どうかこの人に見てほしいと。

そんな思いに応えるかのように、わずかに脳波に変化があつた。

が、すぐに元に戻る。

「……起きろよ」

ボーガンの声が響く。

しかしブルボンは諦めなかつた。

「……トロフィーで腹部を殴つたら起きませんかね」

「ごめん今なんて？」

「叩けば起きますか？」

「お前は何を言つているんだ。人体は昭和の機械じやねえんだぞ？」

「怪我そのものはほぼ完治したのですよね？」

「うん、してるけどちよつと待て。一応こいつ怪我n」

「ごすつ。

鈍い音と共に、ごふつとライスシャワーの口から空気が漏れる。

眉がやや顰められるのがブルボンの目に入った。入つてしまつた。

「まじかよお前!?

「反応あり。続行します」

「おいちよつと待て何もう一回振りかぶつてるんだおい!?

慌てて奇行を止めるボーガン。

しかし。

脳波が、確実に反応した。

「…………え?」

ライスシャワーの顔が歪み、そしてうつすらと目が開く。

「…………つてえ」

「…………は？　まじで？　こんなので？」

「…………ブルボン？」

弱弱しく、ライスシャワーが言つた。

「おはようござります。凱旋門勝ちましたよ」

「ああ……やつぱり」

そう笑つて。

「にしたつてその起こし方はどうなんだ」

「結果目覚めたので大丈夫でしょう？」

「そういう問題じや……いや、まあいいか。

…………おはよう

「はい。おはようござります」

後

E n d.